

2011 平成23年 教室年報



岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2011

巖刀会(外科学講座同門会)



C O N T E N T S

2011

巻頭言

未曾有の大震災を経験して…………… 外科学講座教授 若林 剛
今年一年を振り返って…………… 外科学講座准教授 水野 大
今年1年の教室活動…………… 外科学講座准教授 佐々木 章
医局長に就任して…………… 外科学講座講師 医局長 肥田 圭介

009 外科学講座スタッフ紹介

011 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・内分泌グループ《乳腺》・内分泌グループ《甲状腺》・
内視鏡外科グループ・肝胆膵グループ・ヘルニアグループ・下部消化管グループ・リサーチグループ《分
子治療研究室》・小児外科グループ・高度救命救急センター・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

025 平成22年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科
学会専門医制度認定施設

027 新教室員紹介

長谷川 康／松井 雄介

028 卒後臨床研修プログラム

岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム……………卒後研修担当 水野 大

029 寄稿

平成22年巖刀会集談会報告……………稲葉 亨／テレビカンファランス……………佐々木 章
2010年10～12月 研修報告～癌研有明病院消化器センター（胃外科）……………千葉 丈広
米国国立がん研究所報告……………石田 和茂／九州大学生体防御研究所から……………岩谷 岳
国際親善総合病院より……………大淵 徹／Miami Times 最終回……………高橋 正浩
留学を終えて……………小笠原 聡

039 受賞

第4回「乳癌の臨床」優秀賞を受賞して…柏葉 匡寛／第10回インテリジェントコスモス奨励賞……………西塚 哲
主陵会学術賞を受賞して……………馬場 誠朗

041 八重樫雄一先生を悼んで

八重樫雄一先生と三陸外科懇話会……………八島 良幸
癌登録事業における八重樫雄一先生のご功績の一端…日下 純男

045 平成22年アルバム紹介

051 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・盛岡友愛病院・盛岡市立病
院・岩手県立金石病院・岩手県立大船渡病院・北上済生会病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・山
本組合総合病院・かつの厚生病院

060 外科紹介医療機関

066 研修業績

087 編集後記

088 協賛広告

未曾有の大震災を経験して



巻頭言

岩手医科大学医学部外科学講座
教授

若林 剛

Go Wakabayashi, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

日本が第二次世界大戦後、初めてで最大の国難に直面している。時の政権と行政は国民から見て強力なリーダーシップを発揮しているとは言えまい。岩手は被災地である。盛岡は震度5強であったが、地震による家屋の倒壊等は無く人的被害もなかった。しかし、沿岸の関連病院に教室から派遣している外科医は、連日、昼夜を問わず被災者の診療にあたっている。

自分たちに出来ることをしたいと思った。ニュースで見た沿岸の被害は想像の域を超えていて、津波に襲われた町の映像によりこの災害の死者は3万人におよぶとすぐに直感した。沿岸の関連病院の院長は皆、巖刀会会員の同門である。気仙沼にある猪苗代病院、県立大船渡病院、県立釜石病院、県立宮古病院、県立久慈病院が教室の関連病院であるが、いずれの病院の被害も把握できなかった。電話が通じないからである。教室員と手分けして、4病院に状況判断に向くことにした。自らが率先して行こうと呼びかけたら、7名の教室員がすぐに同調してくれた。噂では沿岸には入れないとか、まだ津波警報が出ているので危険だとか、ネガティブな情報はいろいろあったが、とにかく沿岸に向かった。

3月14日、私の向かった県立大船渡病院は野戦病院の如くロビーまでごった返していた。病院に340名の患者と400名の職員が泊まっているという。食料が枯渇しそうで薬も燃料も無い、と八島院長から伺った。教室からの医師応援が必要ですかと尋ねると、自分たちは何とか頑張っている所以他に困っているところを優先して欲しいと言われ、八島院長の冷静さと謙虚さに改めて感銘を受けた。震災の翌日には青森から鳥取まで全国から14チームのDMATが集結したと伺った。しかし、せっかく徹夜の移動で一人でも多くの命を助けるために来ていただいたDMATも、大津波警報が解除される日曜日まで被

災した海岸線には立ち入れなかったようだ。14日の沿岸基幹病院視察の後、盛岡に戻り岩手医大病院の災害対策本部に沿岸基幹病院の現状を伝えた。そして岩手医大としても大学を挙げて、被災地支援チームを派遣することになった。

DMATは阪神大震災の教訓を生かして組織されたチームで、倒壊家屋からの救命訓練などを受けた専門的医療チームであり被災直後に威力を発揮する。しかし、今回の震災では津波被害が主体であり、被災直後の救える命はほとんどなかった。実際に機能した医療支援はJMATであったといえよう。日本医師会が都道府県単位で出動を要請し、長期の支援を目的にした。震災直後の医療支援の内容は、実は外傷や溺水などの急性疾患への対応ではなく被災者の常備薬を処方することであった。また、被災から2ヶ月経った現在では、心のケアや粉塵による肺炎対策や避難所生活に起因するストレス関連疾患対策が必要と言われている。全国からDMATあるいはJMATによって、岩手県沿岸の被災地に医療支援をいただいたことは本当に素晴らしいことで、医療者が専門的職業集団としての自立性と自発性を有していることを端的に示している。現場は、それぞれ工夫してこの未曾有の大震災に対応したが、有事に対する危機管理がわが国は本当に出来るのか不安を覚えているのは私だけであろうか？

有事に必要なのは強力なリーダーシップとトップダウンの的確な指示であろう。草の根の意見をくみ上げる余裕はなく、ワーキンググループや専門家会議などから意見を集約化していく手法は有事には向いていない。岩手県被災地の医療支援は指揮系統を一本化するためにも岩手医大が中心になって行なうべきだと私は考えたが、小川 彰学長が強力なリーダーシップを発揮し、全国から申し出があった多くの医療支援を大学が統括して管理した。被災した他県に比較し現場の混乱が少なかったとの声を聞くが、これは岩手医大、岩手県、そして岩手県医師会が三位一体となり全国からの医療支援を統括できたからではないかと考えている。

今回の大震災は、すべての日本人に何かを考えさせたのではないかと思う。自然の驚異と科学の進歩がもたらした繁栄の意味。そして、人と人の絆。自分が手術した患者で家族を失った方も多くいる。また、せっかく生体肝移植で生を受けたレシピエントが陸前高田で津波に流された。虚無的な感情から、がん検診受診率の低下や積極的ながん治療への不承知などがなければ良いがと考えている。最後に瀬戸内寂聴さんが東日本大震災に寄せた言葉がとても印象的だったので、部分的に転用させていただく。

「東北人は不言実行の辛抱強い性質であり、一度心を許したら決して裏切らない。寡黙だけど心の温かい、優しさの深い気質（中略）。人間の知識や進歩のはかなさと、自然の脅威の底知れなさに震えあがる。人間はいつの間にか思い上がり、自然の力を見くびりつつけてきたように思われる。宇宙を見極めたつもりで、無制限な大自然の一端も覗き得ていなかったのではないか。」

今年一年を振り返って



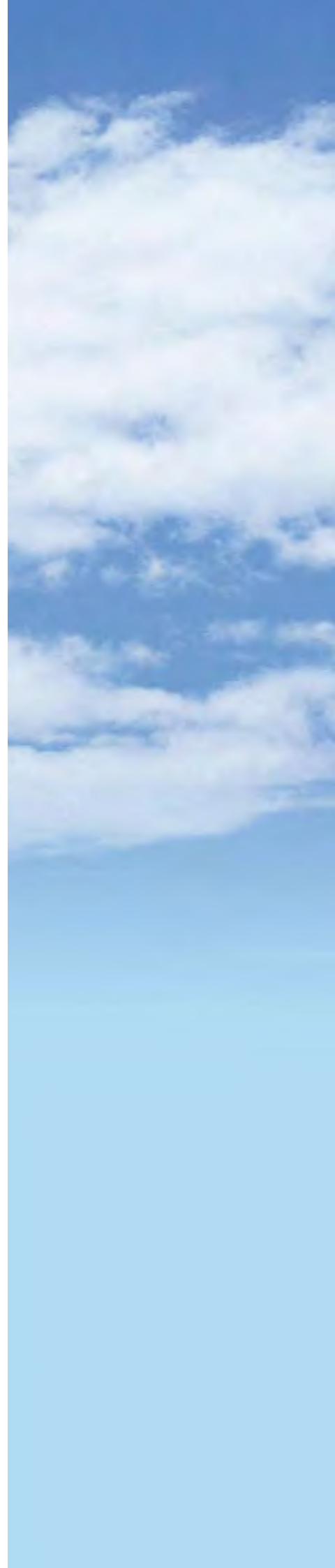
岩手医科大学外科学講座准教授

水野 大

Masaru Mizuno, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2010年はサッカーワールドカップ決勝トーナメント進出、小惑星探査機「はやぶさ」奇跡の帰還、根岸・鈴木両氏のノーベル化学賞受賞といった明るいニュースがあった一方で、宮崎での口蹄疫の蔓延、多数の死者を出した記録的猛暑、さらには一昨年発足した民主党政権が夏の参議院選挙では国民の支持を得られず大敗するなど、例年通り（？）先の読めない一年でした。一方、教室の一年を振り返りますと、良くも悪くも概ね予想通りの展開になったように思います。春の診療報酬改定では腹腔鏡下肝切除術などが新たに保険収載されたほか、噂通り、10年ぶりの診療報酬プラス改訂がおこなわれ、特に、手術点数が大幅に引き上げられ、ようやく我々外科医（教室員）が正当に評価されたと感じることができました。そしてこれが外科医の地位向上、外科志望者増へとつながってくればと淡い期待を持ちましたが、現実は甘くありません。昨年の本稿で入局者とくに本学出身者の減少に対する不安について述べましたが、その不安がいよいよ現実となってきました。医学部新卒者にアピールすべく作成した新しい卒後研修プログラムも見事空振りに終わり、本学出

身者の入局者は1名のみという事態に陥りました。いかに最近の学生の多くが草食系で楽な進路を求める傾向が強いといっても、医局の将来を考えると看過することはできません。講座発展のためには安定した入局者数が必要条件です。学内では学生に対し各教室員がこれまで以上に外科の魅力をアピールすることに加え、学生の意見を参考に臨床実習方法を見直すなどの対策を講じておりますが、どれほどの効果を期待できるかは正直なところわかりません。そこで例年のお願いにはなりますが、同門の先生方の御子弟もしくはお知り合いに医学部卒業生や研修医がおられる、あるいは先生方の施設を医学生が見学に訪れた場合には、是非とも当教室への入局を勧めていただきたいとおもいます。



今年1年の教室活動



岩手医科大学外科学講座准教授

佐々木 章

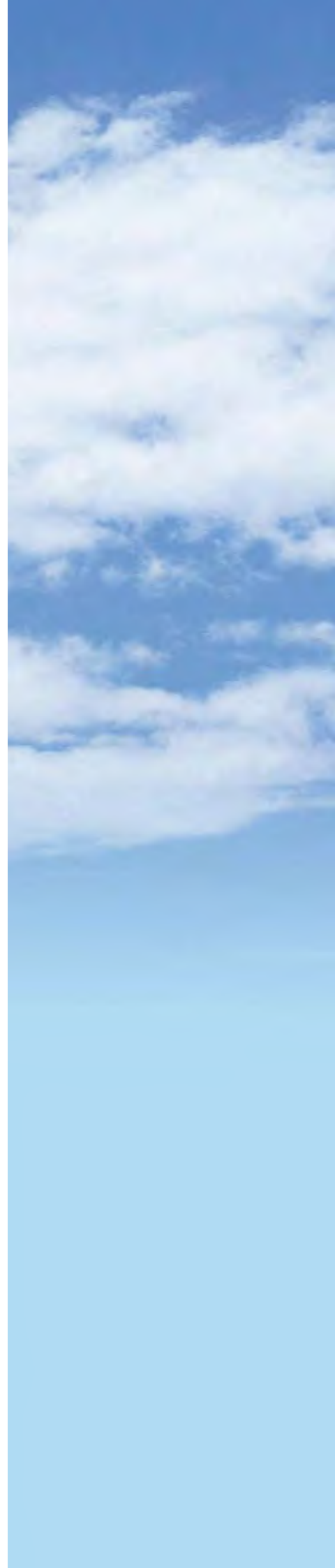
Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Associate Professor

2010年3月で4年間の医局長を終え、研究に専念できる環境を取り戻すことができました。今年、関連病院との多施設共同研究（Single-port versus multi-port laparoscopic cholecystectomy: a prospective randomized clinical trial, in submission）が実施でき、論文を投稿することができました。私が考えていた仮説通りに有意差を認めた項目は、「手術時間：単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 > 多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術、整容的満足度：単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 > 多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術」でありました。創部痛、鎮痛薬の使用回数やその他の臨床成績には差を認めないことから、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の臨床的位置づけは、informed decisionという結論でした。ご協力をいただいた花巻温泉病院、久慈病院、釜石病院、盛岡市立病院、八戸赤十字病院、二戸病院、かづの厚生病院、北上済生会病院の実務担当者には深くお礼を申し上げます。今後も学生の講義、大学院生の論文指導と教室員の臨床研究に力を入れていきたいと考えております。

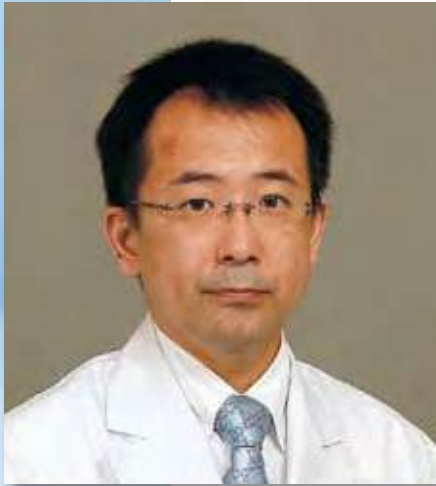
2010年の教室の業績を過去2年間と比較しますと、英文論文数（impact factor）は、2008年18編（49.9点）/2009年15編（34.2点）/2010年13編（28.6点）、国際学会発表数は、2008年36回/2009年37回/2010年30回と、いずれも減少して

おりました。この結果から推測できることは、教室員が充足しない中で手術件数増加に伴う日常診療の多忙が原因で（？）臨床研究まで手が回らない、論文執筆の時間が無い、そしてこの教室から昇進できる人は少ないということでしょうか。私は、素朴な疑問（昔の常識、今は非常識）を臨床研究で明確にする、低侵襲な手術法や新しい治療法を開発または導入して従来法との利点・欠点を明確にするなど、その後の診療に役立てる姿勢が重要と考えております。大学院生の研究テーマとして基礎研究ももちろん重要な分野と認識しておりますが、臨床グループの各チーフが主導して、clinical scientific report、translational researchを多く行っていただきたいと切に願います。

最後に東日本大震災により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。そして被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。今回の震災では、多くの先生方から激励のメールや物資をお送りいただきましたこと、誠にありがとうございました。震災地からの手術の受け入れなど色々な医療支援のご提案もありましたが、被災地への医療支援・派遣以外で実際に私が願ったことは以下のとおりでした。評議員選挙の延期（日本食道学会 ○）、学術集会の抄録延期（日本肥満症治療学会 ○、日本胆道学会 ○）、学術集会の開催（日本外科学会学術集会 ×、International Surgical Week in Yokohama○）、講演の招待（色々な地方研究会 ×）。つまり、一刻も早く医学的行事を通常とおりに開催していただくことが重要と思っております。



医局長に就任して



岩手医科大学外科学講座講師
医局長

肥田 圭介

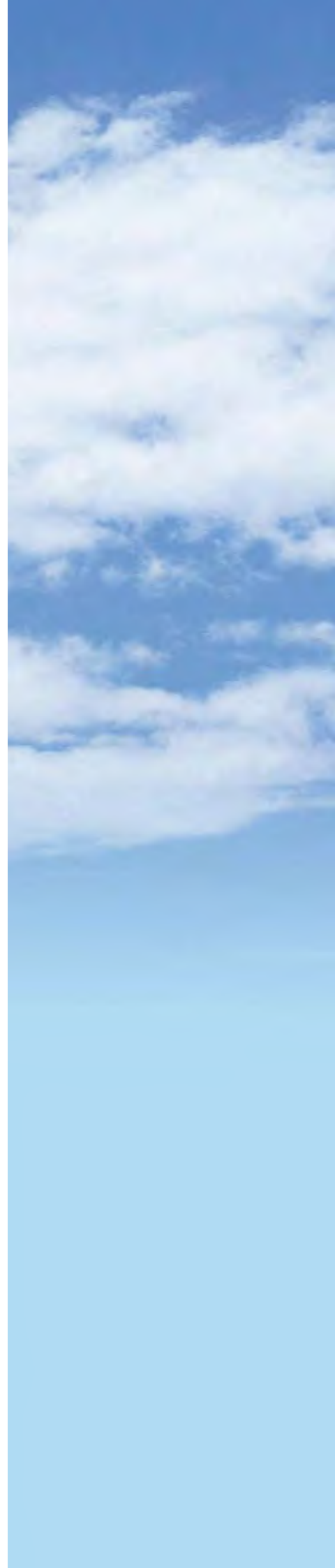
Keisuke Koeda, M.D., Ph.D.
Assistant Professor

昨年の医局運営を振り返り御報告いたします。4年間に在任された佐々木章准教授に変わり、昨年度より医局長を拝命いたしました。着任後1年が経過しましたが予想よりも細かな仕事が多く、また勝手もわからず未だ手探りの状況です。関連病院の先生方、医局員にご迷惑をおかけしたことをまずはお詫び申し上げます。

この原稿を書いている最中、3月11日に東日本大震災が発生いたしました。被害に遭われた同門の先生方、関係者各位に謹んでお見舞い申し上げます。また被災地の関連病院の先生方におかれましては日々不眠不休のご努力の毎日と推察いたします。ご自身のご健康にも留意され、診療にあたってくださいますようお願いいたします。通常診療時には手術件数の増加、大学特有の雑務の多さなどもあり、また大学院制度の関係上医局に人員を厚く配置せざるを得ない状況にあります。今回の人事異動に関しても多くの先生から様々なご意見も頂戴しました。そのような状況において緊急事態時にいかに必要なところに必要とされる応援医師を派遣できるかが重要であり医局として迅速な対応が求められる部分であると改めて認識いたしました。いまだ震災への対応は収束していませんが、今回医局が被災病院にとってお役に立ったかどうかを状況が収束し落ち着いた時点で改めて評価していただければ幸いです。

医局運営はこのような人員派遣のほか、診療、研究、教育を三本柱として運営しています。診療においては2010年の全手術数が1119件と昨年に比較し減少となりました。この要因として大学の手術枠が限界に達した事が挙げられ、予定に組み込めない症例は近郊の関連病院にお願いして医局より主治医が赴き対応をしています。来年度以降手術枠の若干の増加を見込んでいますが、一層の効率化が望まれ各診療グループ間の連携を更に密とし対応していきたいと考えます。診療内容としては教室の一つの柱でもあります低侵襲手術が各グループで積極的に導入、定着が進み他施設からの手術見学も各グループで年々増加しています。研究では論文発表78件（英文論文24件、和文論文54件）、学会発表437件（国際学会35件国内学会402件）とやや減少傾向にありましたが、シンポジウム等のいわゆる役付き演題が増加する傾向を認めていました。教育では主に臨床実習を通じ外科への勧誘に力を注いでいますが、学生に外科の魅力がなかなか伝わらず全国の傾向と同様に外科離れが進んでいる印象は否めません。今年度より実習のシステムを変更し外科の楽しさを知ってもらうことに重点を置き頑張っています。外科の魅力を伝え一人でも多くの仲間を増やすことが先の支援にもつながると考えています。

医局員一同協力し、学生、関連病院の先生方から見ても楽しそうでやりがいのある元気な医局運営に努めたいと思っています。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を何卒よろしくお願いいたします。



Department of Surgery STAFF



助教
野田 宏伸
〔平成16年卒〕

助教
小鹿 雅博
〔平成12年卒〕

助教
秋山 有史
〔平成11年卒〕

助教
藤原 久貴
〔平成10年卒〕

大学院生
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕

助教
長谷川 康
〔平成14年卒〕

助教
高原 武志
〔平成12年卒〕

大学院生
眞壁 健二
〔平成21年卒〕

助教
加藤 久仁之
〔平成16年卒〕

助教
稲葉 亨
〔平成9年卒〕

助教
板橋 哲也
〔平成12年卒〕

秘書
下川 原美保子

秘書
井上 かおり

秘書
入月 友香

講師
西塚 哲
〔平成6年卒〕

講師
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

講師
大塚 幸喜
〔平成5年卒〕

講師
新田 浩幸
〔平成5年卒〕

准教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕



助教
小松 英明
〔平成16年卒〕

大学院生
武田 大樹
〔平成20年卒〕

大学院生
八重樫 瑞典
〔平成21年卒〕

助教
高橋 正浩
〔平成11年卒〕

助教
富澤 勇貴
〔平成12年卒〕

助教
小笠原 聡
〔平成3年卒〕

助教
鴻巣 正史
〔平成13年卒〕

ポスドクター
久米 浩平

外科学講座教授
若林 剛
〔昭和57年卒〕

准教授
水野 大
〔昭和62年卒〕

講師
肥田 圭介
〔平成元年卒〕

講師
柏葉 匡寛
〔平成3年卒〕

秘書
菊池 知美

秘書
小向 貴子

秘書
岩崎 郁江

助教
伊藤 直子
〔平成12年卒〕

大学院生
川岸 涼子
〔平成21年卒〕

大学院生
小林 めぐみ
〔平成19年卒〕

助教
馬場 誠朗
〔平成16年卒〕

大学院生
石田 馨
〔平成18年卒〕

上部消化管グループ《食道》

STAFF：木村祐輔・岩谷 岳・野田芳範・鴻巣正史

専門外来

火曜
8時30分-13時30分



食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。外来診療は通常のフォローアップとともに、外来化学療法室、治療放射線科と連携し、外来放射線/化学療法を積極的に導入しています。入院治療では、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌まで、当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携し治療にあたっており、特に手術不能の高度進行癌に対しては化学・放射線療法を組み合わせた治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発・実践を行っています。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたします。是非お気軽にご連絡下さい。

連絡先 木村祐輔 E-mail: ykimura@iwate-med.ac.jp

平成22年の
ニュース

- 1月 ▶ ASCO-GIにて発表（野田芳範）
- 3月 ▶ 岩谷 岳が九州大学病院 別府先進医療センターに国内留学
- 4月 ▶ 日本外科学会 シンポジウムにて発表（木村祐輔）
- 12月 ▶ 年間食道癌手術件数26件と例年より若干減少。

平成22年 診療・研究状況報告

●入院数：72例

●手術数：26例

（胸腔鏡下食道切除術：12例うち腹臥位手術10例）

●食道癌手術年次推移 全切除数（うち胸腔鏡下手術）

2007年 28(7)例、2008年 28(17)例、2009年 32(20)例、
2010年 26(12)例

●平成22年研究報告

【教室内】

- ・「腫瘍外科領域からみたマイコプラズマ感染の意義」岩手大学農学部獣医微生物学研究室との共同研究。現在症例集積中。
- ・TRICE06「食道癌生検標本の遺伝子プロファイル解析による化学放射線療法感受性予測に関する探求的研究」症例登録中。
- ・「分子標的治療薬ZD1839を用いた老化誘導療法による食道癌治療戦略の開発」文部科学省科学研究費 基盤研究C
- ・「核内 γ H2AX発現に基づく食道癌化学放射線療法の新たな感受性予測」文部科学省科学研究費 基盤研究C
- ・「胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究」
- ・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」

・「CDDPを用いた術前化学療法を施行した食道癌患者における、イオンビーム励起エックス線分光分析によるシスプラチン体内動態の検討」

・「食道扁平上皮癌の発生・進展に関与するフォスファターゼの変異・機能解析」

・「食道癌切除術後、末梢静脈栄養補助療法の検討

【全国規模】

・JCOG0502「臨床病期Ⅰ（Clinical-T1N0M0）食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法（CDDP+5-FU）のランダム化比較試験」症例登録中。

・JCOG0909「臨床病期Ⅱ/Ⅲ（T4を除く）食道癌に対する根治的放射線療法 +/- 救済治療の第Ⅱ相試験」症例登録中。

・JCOG0807「切除不能または再発食道癌に対するDocetaxel, Cisplatin, 5-FU 併用療法の臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験」症例登録中。

●今後の研究課題

- ・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。
- ・腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手術件数を増加させる。

上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介・藤原久貴

専門外来

木曜
8時30分-16時



今年は高橋正統先生が3月をもって県立久慈病院に赴任し、代わりに4月から藤原久貴先生が八戸赤十字病院から帰局しました。今年は当科で定型化してきた腹腔鏡下胃切除術を関連病院に普及することをすすめ、関連病院への出張手術、LAGセミナーの開催等を行いました。第1回のみちのくLAGセミナーには100名を超える参加者をいただき関心の高さを実感し、また関連病院への出張手術も10病院から呼んでいただきました。次年は①腹腔鏡下手術の適応拡大（進行がんへの応用、完全鏡視下手術の導入）②術前術後化学療法による高度進行胃がんに対する集学的治療、③癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を用いた化学療法を当教室での胃がん治療の特色として更に推進していきたいと考えております。

昨年同様JCOG、がん集学的治療財団をはじめとする多施設共同研究に積極的に登録参加し胃がんの標準治療の確立に貢献していきたいと思っておりますので、更なる御紹介をお待ちしております。

平成22年の
ニュース

- 3月 ▶ IASGO Live Surgery: LADGをタイ、韓国、中国に中継
▶ 高橋正統先生、大学から県立久慈病院へ
- 4月 ▶ 藤原久貴先生、帰局
- 7月 ▶ 第1回みちのくLAGセミナー開催
- 11月 ▶ 関東腹腔鏡下胃切除研究会、ISDN回線で岩手会場として参加
▶ REGATTA日韓合同班会議参加、韓国Seoul St.Mary's Hospital見学（肥田）
- 10～12月 ▶ 千葉丈広先生、対がん協会奨学金で癌研有明病院短期研修

平成22年 診療・研究状況報告

●入院数：183例

●手術数：92例

《内訳》

胃癌 開腹切除 38例 腹腔鏡下切除 41例

その他（非切除バイパス、GIST等） 13例

●胃癌手術年次推移

切除数 2008年 104例、2009年 111例、2010年 79例

腹腔鏡下手術数 2008年 45例、2009年 49例、2010年 41例

●平成22年研究報告

- ・JCOG 0110「上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。
- ・JCOG 0501「根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・JCOG 0705「治癒切除不能進行胃癌に対する胃切除術の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。
- ・JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃がんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録中。
- ・JCOG1001「深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網膜切除の意義に関するランダム化比較第三相試験」症例登録中。
- ・JACCRO GC-05「初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法-CPT-11単独療法vs TS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較第

Ⅱ/Ⅲ相臨床試験」症例登録中。

- ・JFMC42-1002「胃全摘術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨床効果（プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験）症例登録中。
- ・JFMC43-1003「切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与法および隔日投与法のランダム化第Ⅱ相試験」症例登録中。
- ・日本外科感染症学会多施設共同試験「胃全摘手術における術後感染予防薬の投与期間に関する比較試験」症例登録中。
- ・GIST研究会「切除可能な消化管間質腫瘍（GIST）肝転移患者の治療方法に関する第Ⅱ相試験＜手術療法＞」症例登録中。
- ・「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループ「胃切除術式と胃術後障害に関する研究」解析中。
- ・平成20年度科学研究費補助金「進行胃癌化学療法後切除例における組織マイクロアレイを用いた網羅的蛋白解析」進行中。
- 今後の研究課題
 - ・進行胃癌術前化学療法（TS-1/CDDP）療法後切除検体を用いた薬物動態の解析
 - ・腹腔鏡下胃癌手術の定型化および短期／長期手術成績など
 - ・十二指腸球部可及的温存Billroth-I法再建術の有用性の検討
 - ・癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を指標とした化学療法

内分泌グループ《乳腺》

STAFF: 柏葉匡寛・稲葉 亨・滝山郁雄(非常勤講師)
小松英明・川岸涼子・松井雄介・三浦一穂(乳がん看護認定看護師)

専門外来

火・水曜日
8時30分-17時
(紹介新患13時～)



グループのPR: 乳腺チーム計11名(専門常勤医師3名、薬剤師3名、乳がん看護認定看護師1名を含む看護師5名)での診療を基本としています。術前化学療法を約30%に、センチネルリンパ節生検は過去800例以上と経験も豊富です。医師だけでなく看護師、薬剤師による親身な患者サポートによりチーム医療を実践、患者さん中心の医療をモットーとしています。セカンドオピニオン、薬物療法の相談、再発治療からの紹介も承っています。先進的な医師主導型試験と共に、ドラッグラグ解消のために国際第3相試験にも積極的に参加しています。また乳腺外科医の育成カリキュラムを推進しています。

平成22年の
ニュース

- 1月 ▶ San Antonio Breast Cancer Symposium 2009の全国TV会議で演者(柏葉)
- 2月 ▶ 乳癌診療ガイドライン: 薬物療法委員就任(柏葉)
- 6月 ▶ ASCO参加
 - ▶ 第18回日本乳癌学会総会で過去最多の演題発表
 - ▶ ランチョン演者(柏葉)
- 7月 ▶ 2010がんを知る月間市民公開シンポジウム「女性のがんを知る」仁科亜季子さんを迎えて
- 9月 ▶ がんを知る月間の講演会(柏葉、稲葉、小松)
 - ▶ 第3回院内がんサワーボードで乳癌症例の提示
 - ▶ 英国Imperial Collegeの合同会議招聘(柏葉)
- 10月 ▶ 仙台にてディベート(稲葉、小松)
 - ▶ 第2回岩手ピンクリオンウォーキング参加
- 11月 ▶ コペンハーゲンのシンポジウムに招聘(柏葉)
- 12月 ▶ San Antonio Breast Cancer Symposiumに参加
 - ▶ 過去最高150例の原発乳癌手術

平成22年 診療・研究状況報告

●入院数: 212例

●手術数: 150例

《内訳》

疾患	術式	症例数
乳癌	乳房部分切除	105例(温存率70%)
	うち内視鏡補助下	3例
	胸筋温存乳房切除	45例
	同時再建	3例
計		150例

《年次手術数推移》

	2008年	2009年	2010年
原発乳癌	128件	134件	150件

●平成22年研究報告

《臨床研究》

- ・原発乳癌におけるHER2可溶性抗原の変動: 「乳癌の臨床」優秀論文賞受賞
- ・TC療法の有用性と副作用の管理
- ・術前化学療法後の遺残腫瘍の超音波での効果予測
- ・各種治験での新規薬剤の効果と副作用の理解

《医師主導研究》

- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group) -04「術前化学療法、原発巣手術施行後、病理学的に腫瘍が残存している乳がん患者を対象にした術後補助療法におけるCapecitabine単独療法の検討」第Ⅲ相比較試験
- ・JBCRG (Japan Breast Cancer Research Group) -06「閉

経後・ホルモン感受性・neo-adjuvant anthracycline 不応性の原発性乳癌に対する術前 Letrozole 療法の第II相試験

- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「転移・再発乳がんに対するタキサン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験 (SELECT-BC)」
- ・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験 (NSAS-BC06)」

《開発治験》

- ・前治療なしのHER2陽性転移性乳癌患者における Pertuzumab +Trastuzumab + DocetaxelとPlacebo + Trastuzumab + Docetaxelの有効性及び安全性を評価する国際第III相無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験 (CLEOPATRA試験)
- ・ErbB-2陽性局所再発性又は転移性乳癌患者を対象としたNeratinib (HKI-272) とパクリタキセルの併用投与及びトラスツズマブとパクリタキセルの併用投与を第一選択療法として比較する国際第III相無作為化非盲検2群対照試験

- ・KRN125第II相臨床試験（乳癌の癌化学療法による好中球減少症に対するKRN125の用量設定試験）
- ・「アンスラサイクリンによる術前/術後補助化学療法後の転移・再発乳癌患者を対象としたLY188011 (Gemzar) 及びパクリタキセルの併用試験 (B9E-JE-MB22)」
- ・「転移・再発乳癌患者を対象としたRO4876646 (Avastin) とパクリタキセルの併用第II相試験」
- ・転移性乳癌患者を対象としたABI-007 (アブラキサン) 毎週投与とドセタキセル3週ごと投与法との比較第II相試験
- ・RO5304020 (T-DM1) のHER2陽性の局所進行・再発又は転移性乳癌患者を対象とした第II相臨床試験

●今後の研究課題

- ・Triple-negative (ER/PgR/HER2陰性) 乳癌の抗癌剤感受性予測因子の検討およびBRCA1,2変異乳癌との関連
- ・薬剤感受性と転移における乳癌幹細胞の機能の検証
- ・予後・化学療法予測因子としてのKi67の有用性の検証
- ・Trastuzumab耐性に対するProteomicsによる検証
- ・看護師・薬剤師による術後化学療法におけるPatterns of Care研究の指導・支援
- ・癌化学療法専門薬剤師、乳がん看護認定看護師の育成補助

内分泌グループ《甲状腺》

STAFF：小笠原 聡・富澤勇貴

専門外来

水曜
9時-17時



甲状腺グループは、少数(!!)精鋭(?)のチームで診療にあたっております。最近のニュースでは学会より甲状腺腫瘍診療ガイドライン2010年度版が発表されました。また当科では、術中の反回神経モニタリングや術中iPTH測定、リコンビナントTSH製剤による術後ヨードシンチ、内視鏡外科グループにて内視鏡下甲状腺手術など特徴ある治療を行っております。さらに、今年度より外来での¹³¹I 30mCiによるアブレーションを予定しております。2009年より全国規模で甲状腺未分化癌の登録がはじまり、当科の登録は現在6番目に多い施設であります。これからも未分化癌の研究・治療に力を入れていきたいと考えております。

平成22年の
ニュース

●10月 ▶小笠原がアメリカ留学より帰局

平成22年 診療・研究状況報告

●入院数：50例

●手術数：58例

《内訳》

疾患	術式	症例数
甲状腺癌	甲状腺悪性腫瘍手術	28例
甲状腺良性疾患	甲状腺切除術	11例
	内視鏡下甲状腺手術	4例
副甲状腺疾患	副甲状腺摘出術	5例
その他		10例

《年次手術数推移》

	2008年	2009年	2010年
甲状腺癌	33	32	33
甲状腺良性、その他	23	35	25
計	56	67	58

●平成22年研究報告

《教室内》

- ・「甲状腺未分化癌の白血球増多とサイトカインの検討」
- ・「抗癌剤感受性試験に基づいた甲状腺未分化癌の化学療法」

《全国規模》

- ・甲状腺未分化癌コンソーシアム
「未分化癌症例登録：現在25例登録」
- ・「リコンビナントTSHを用いたヨードシンチグラフィー」
(市販後調査)

●今後の研究課題

- ・「甲状腺未分化癌と石灰化の検討」甲状腺未分化癌コンソーシアム研究計画
- ・「甲状腺癌全摘術後の外来アブレーションの治療成績」
- ・「術中反回神経モニタリングを用いた反回神経温存の治療成績」
- ・「甲状腺超音波エラストグラフィーの有用性の検討」
- ・「PIXEを用いた甲状腺未分化癌EP療法におけるシスプラチンの腫瘍内濃度の検討」
- ・「甲状腺未分化癌におけるG-CSF細胞内シグナル伝達の検討」

内視鏡外科グループ

STAFF：佐々木 章・大淵 徹・馬場誠朗・梅邑 晃

専門外来

水曜
8時30分-12時



研究面では、英文論文8編、国際学会発表4回（シンポジウム1回を含む）と前年度に比較して増加した。臨床面では、単孔式腹腔鏡下手術の成績を従来の腹腔鏡下手術と比較した多施設共同研究・症例報告が中心となり、論文を投稿中である。

平成22年の
ニュース

- 4月 ▶ 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術が先進医療に承認
- 6月 ▶ 巖刀会学術賞、圭陵会学術賞受賞（馬場誠朗）
▶ 圭陵会共同研究助成受賞（佐々木章）
- 10月 ▶ 大淵 徹が国際親善総合病院（横浜）に国内留学

平成22年 診療・研究状況報告

- 入院数：189例
- 手術数：185例（内視鏡外科手術 73例、ヘルニア 112例）
《内訳》

疾患	術式	症例数
胆嚢良性疾患	腹腔鏡下胆嚢摘出術	22
	単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	18
	開腹胆嚢摘出術（胆嚢癌疑い）	2
甲状腺良性疾患	内視鏡下甲状腺全摘術	3
	内視鏡下甲状腺葉切除術	3
脾臓疾患	腹腔鏡下脾臓摘出術	6
	開腹脾臓摘出術（悪性リンパ腫）	1
副腎疾患	単孔式腹腔鏡下副腎摘出術（左側）	2
	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術（右側）	1
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	2
食道アカラシア	単孔式腹腔鏡下Heller-Dor手術	2
逆流性食道炎	単孔式腹腔鏡下Nissen噴門形成術	1
	腹腔鏡下Nissen手術	1
胃粘膜下腫瘍	単孔式腹腔鏡下胃局所切除術	4
急性虫垂炎	単孔式腹腔鏡下虫垂切除術	1
食道憩室	胸腔鏡下食道憩室切除術	1
後腹膜腔嚢胞	腹腔鏡下嚢胞切除術	1
膵管内乳頭粘液性腫瘍	腹腔鏡下脾臓・脾動脈・脾静脈温存尾側膵切除術	1
両側鼠径ヘルニア	腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術	1
計		73

● 平成22年研究報告

《教室内》

- ・ 胃GISTに対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術の世界初報告：終了
Sasaki A, et al. Tailored laparoscopic resection for suspected gastric gastrointestinal stromal tumors. Surgery 2010; 147: 516-520.
- ・ 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の多施設共同臨床研究：終了

Single-port versus multi-port laparoscopic cholecystectomy: a prospective randomized clinical trial (in submission)

- ・ 肥満症に対する腹腔鏡下減量手術の効果と関連合併症への影響解析：終了
（日本静脈経腸栄養学会研究助成金）
Sasaki A, et al. Results of laparoscopic sleeve gastrectomy as a single stage bariatric procedure in Japanese patients. Asian J Endosc Surg 2010; 3: 180-184.
- ・ 肥満症に対する低侵襲外科治療効果と脂肪細胞由来ホルモンの動態：継続
（平成22年度科研費 基盤研究C）
- ・ MSP法とmRNAマイクロアレイ法による肥満関連遺伝子の解析：継続
（平成22年度圭陵会学術振興会 共同研究助成）
- ・ 遠隔医療会議を利用した医師と医療従事者の教育：継続
（平成22年度地域医療研究事業）
- 《全国規模》
- ・ 肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術：先進医療に承認
- ・ がん医療を専門とする医師の学習プログラム（厚生労働省共同事業）：www.cael.jpをごらん下さい
- 今後の研究課題
 - ・ Metabolic and Diabetes surgery
 - ・ 単孔式腹腔鏡下手術における腹部実質臓器の針状圧排器具の開発
 - ・ 経管腔的内視鏡手術（NOTES）：特に胃十二指腸穿孔例に対する研究

肝胆膵グループ

STAFF：若林 剛・新田浩幸・高橋正浩・高原武志
伊藤直子・長谷川 康

専門外来

木曜
8時30分-12時30分
金曜
8時30分-12時30分
14時-17時



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡（腹腔鏡・胸腔鏡）手術、化学療法、生体肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療はなにかを考え診療にあたっております。

特に、肝疾患に対する内視鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、腹腔鏡下肝切除（部分切除・外側区域切除）が保険収載されたことで今後さらに症例数が増加することが予想されます。我々の腹腔鏡補助下肝切除術は国内初の高度医療として承認されたのち継続して行っており、生体肝移植のドナー手術にも応用されております。また、最近では肝門部胆管癌（血管合切）などに対しても腹腔鏡補助下肝切除術を導入するなど適応を拡大しております。

また、胆道癌に対するTS-1/GEMなどを用いた術後補助化学療法や膵癌に対する術前放射線化学療法など、手術成績を向上させるべく取り組んでおります。新患、手術後の患者さんの診察を週に二日間設けて行っており、新患は主に木曜日午前、化学療法は主に金曜日の外来で担当しております。

平成22年の ニュース

- 3月 ▶ 腹腔鏡補助下肝切除の手技と成績をまとめた論文（Laparoscopy-assisted major liver resections employing a hanging technique : the original procedure）がAnnals of Surgeryに掲載される。
- ▶ 生体肝移植が20例に到達。12月までに26例施行。
- 9月 ▶ 腹腔鏡（補助）下肝切除術が200例に到達。12月までに212例施行。

平成22年 診療・研究状況報告

- 入院数：281例
- 手術数：172例
- 平成22年の手術症例

《疾患別》

▶ 悪性：肝細胞癌：28例／転移性肝癌：50例／肝内胆管癌：1例／胆管癌：21例（肝門部7例、肝外14例）／胆嚢癌：10例／乳頭部癌：2例／膵癌（IPMC含む）：15例 ▶ 良性：生体肝移植ドナー、肝嚢胞、慢性膵炎など 38例 ▶ その他：脾腫、後腹膜腫瘍など 9例

《術式別》

生体肝移植：9例／肝切除：100例／PpPD：25例／PD：1例／膵体尾部切除：8例／膵全摘：2例／膵部分切除：2例／胆管切除：4例／胆石、胆嚢良性疾患手術：4例／十二指腸部分切除：2例／脾摘：3例／後腹膜腫瘍摘出：2例／バイパス（胆管、消化管）：4例／腹腔鏡下ラジオ波焼灼術：1例／Lap肝嚢胞天蓋切除：2例／非切除：3例

《年次推移》

	2008	2009	2010
肝細胞癌	21	36	28
肝内胆管癌	5	6	1
転移性肝癌	24	36	50
胆管癌	18	26	21
胆嚢癌	6	5	10
乳頭部癌	1	6	2
膵癌	18	16	15
生体肝移植	7	5	9

● 平成22年研究報告

《教室内》

- ・「大腸癌肝転移に対する肝切除前化学療法後の肝予備能評価と術後肝再生に関する研究」症例集積中。
- ・「3D-CTによる腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の術難易度予測」症例集積中。
- ・「生体肝移植術周術期における好中球エラスターゼ阻害剤投与の検討」症例集積中。
- ・「切除可能膵癌に対する術前放射線化学療法の有用性に関する検討」症例集積中。

《全国規模》

- ・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」
- ・「ゲムシタビン耐性膀胱癌に対するS-1療法とS-1+オキサリプラチン（L-OHP）併用療法の無作為化比較試験」
- ・「肝細胞癌切除例に対する術後感染症予防薬の投与期間に関するランダム化比較試験」
- ・「肝癌切除術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨床的効果」

●今後の研究課題

- ・腹腔鏡補助下肝切除術の有用性に関する多施設共同研究
- ・胆道癌術後補助化学療法としてのTS-1+GEM併用第Ⅲ相試験
- ・腹腔鏡補助下肝切除術の適応拡大
- ・開腹肝切除の低侵襲化を目指した手術手技の確立

ヘルニアグループ

STAFF：富澤勇貴・中嶋 潤・岩谷 岳・他医局スタッフ

専門外来

水曜
8時30分-12時
14時-16時

教室では、成人鼠径部ヘルニアに対して膨潤局所麻酔（TLA）下standard Kugel法を標準的に行っております。本法は全・腰麻困難例にも安全に実施でき、術直後から飲食、歩行が可能、麻酔科を含む手術室の負担軽減などの利点があり、本法導入後は手術オーダーが容易になり手術件数が増加しました。抗凝固・血小板剤内服症例にも積極的に本法を施行しております。一方で、若年成人女性に対してはpatchを使用しない鼠径ヘルニア手術法として、単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法（SILPEC法）を試みており、現在症例を集積中です。体内に異物を残したくない、より創を小さくしたいといったご希望のある患者様がいましたら、是非ご相談下さい。

平成22年の
ニュース

- 4 月 ▶ 岩谷岳先生が九州大学生体防御医学研究所（大分県）に国内留学へ
▶ SILPEC法の導入
- 8 月 ▶ 半吸収性メッシュ UPP, UHSヘルニアシステムの導入

平成22年 診療・研究状況報告

●平成22年診療報告

鼠径・大腿ヘルニア	87例
（術式別） Standard Kugel法	74例
ULTRAPRO Plug法	8例
SILPEC法	3例
Mesh Plug法	2例
（麻酔法別） 膨潤局所麻酔	72例
全身麻酔	15例

●平成22年研究報告

《教室内》

- ・静脈麻酔併用TLA下Standard Kugel法の定型化

- ・全身併存疾患症例へのTLA下Standard Kugel法の適応拡大、成績評価
- ・SILPEC法の導入、症例集積

●今後の研究課題

- ・ヘッドライトビデオシステムを用いたStandard Kugel法の教育
- ・SILPEC法の治療成績、適応の検討
- ・半吸収性メッシュによる鼠径ヘルニア修復術とStandard Kugel法との治療成績の比較検討

下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・板橋哲也・箱崎将規・加藤久仁之
千葉励子・高橋咲子・熊谷妃小江（WOCN；ストーマ外来）

専門外来

月曜
8時30分～15時
* 外来化学療法のみ
金曜AM



1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2010年12月まで864名の患者様に行ってきました。年々増加傾向にあり、2010年は、大腸癌手術件数182例のうち腹腔鏡下手術は136例でした。最近の特徴として、80歳以上の超高齢者や心疾患・脳疾患の患者様に対する腹腔鏡手術が増加しておりますが、大きな合併症無く良好な成績が得られております。これも低侵襲手術がもたらした結果と自負しております。また肛門に近い直腸癌に対しては自然肛門を可能な限り温存し、さらに根治性を高めるために術前化学・放射線治療を行っております。人工肛門になった場合でも、当院の千葉励子、高橋咲子、熊谷妃小江WOCナース3名で外来・入院ストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。再発や切除不能大腸癌に対しては全国標準化学療法を月曜日と金曜日の専門外来で板橋哲也助手を中心に行っております。

その他、岩手県内各施設から潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例のご紹介が多くなってきており、患者様のQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

術後の定期検査は開業医の先生と連携し、患者様目線のフォローアップを行っております。

平成22年の
ニュース

- 1月 ▶ 大腸癌手術総数200例以上、腹腔鏡下大腸癌手術数130例以上を目標に2010年スタート。
- 3月 ▶ 第26回岩手ストーマ研究会開催。北里大学東病院看護部の松原康美先生を講師に招聘し盛会に終了。
- 4月 ▶ 木村聡元先生から箱崎将規先生に代わり新体制でスタート。
- 9月 ▶ 第6回北東北LAC情報交換会を開催。京都府立医科大学外科消化器外科学準教授の國場幸均先生ご講演に感銘。秋田県、青森県からもたくさんの医師、看護師、臨床工学士に参加していただき盛会に終了。
- 12月 ▶ 大腸癌に対する腹腔鏡手術は目標の130例を突破。

平成22年 診療・研究状況報告

- 入院数：370例
- 手術数（全麻）：249例 * そのうち大腸癌手術は182例
《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（109例）	開腹結腸切除術	23例
	腹腔鏡下結腸切除術	86例
直腸癌（73例）	開腹高位前方切除	1例
	腹腔鏡下高位前方切除	9例
	開腹低位前方切除	6例
	腹腔鏡下低位前方切除	21例
	開腹超低位吻合（ISR含む）	2例
	腹腔鏡下超低位吻合（ISR含む）	6例
	開腹マイルス手術	4例
	腹腔鏡下マイルス手術	6例
	開腹ハルトマン手術	7例
	腹腔鏡下ハルトマン手術	8例
	開腹骨盤内臓全摘	1例
	経肛門の腫瘍切除	2例
非切除大腸癌	腹腔鏡下人工肛門造設	6例

FAP	腹腔鏡下大腸全摘	1例
大腸良性腫瘍	腹腔鏡下手術	5例
	開腹手術	2例
Crohn病（6例）	腹腔鏡下手術	3例
	開腹手術	3例
潰瘍性大腸炎（5例）	腹腔鏡下大腸全摘	4例
	開腹大腸全摘	1例
大腸癌再発	腫瘍切除	3例
直腸癌術後	一時的回腸人工肛門閉鎖	12例
イレウス	開腹イレウス解除	3例
	腹腔鏡下イレウス解除	7例
他（憩室炎・腹膜炎など）		8例
* 他科応援手術	（婦人科・泌尿器科）	9例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2008年	2009年	2010年
結腸癌全手術数	92	101	109
直腸癌全手術数	65	81	73
計	157	182	182
うち腹腔鏡下大腸癌手術	111	115	136

●平成22年研究報告

《教室内》

- ・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験」ICOG-CC01；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：196例集積中（2011年3月時点）。
- ・「結腸・直腸癌肝転移に対するベバシズマブ併用FOLFOX療法による肝切除の検討－第Ⅱ相臨床試験－」ICOG CRC ML-001；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：22例集積中（2011年3月時点）。
- ・「大腸癌術後の消化管機能に対する大建中湯の臨床的効果（比較試験）」：32例集積中（2011年3月時点）

《全国多施設共同研究》

▶JCOG

- ・0910試験「Stage Ⅲ治療切除大腸癌に対する術後補助化学療法としてのCapecitabine 療法とS-1 療法とのランダム化第Ⅲ相比較臨床試験」CAPS：症例集積中
- ・1006試験「大腸癌切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験」：症例集積中

▶がん集学的治療財団

- ・JFMC39「大腸癌術後の消化管機能異常に対する大建中湯（DKT：TJ-100）の臨床的効果」：症例集積中

▶腹腔鏡下大腸切除研究会

- ・「Clinical Stage 0-I期直腸癌に対する腹腔鏡下手術の

妥当性に関する第Ⅱ相試験」Lap-RC：症例集積終了・解析中

- ・「高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後ろ向き調査」：症例集積終了・解析中
- ・Stage Ⅳ大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」：症例集積終了・解析中

▶財団法人 先端医療振興財団 臨床研究情報センター（TRICC0901）

- ・「KRAS変異型の切除不能進行・再発大腸癌に対する3次治療としてのTS-1+bevacimab併用療法第Ⅱ相試験」SAVIOR：症例集積中

▶真皮縫合のSSI抑制効果

- ・「待機的消化器外科手術の閉創における真皮縫合の手術部位感染症（Surgical Site Infection: SSI）抑制効果に関する研究」：症例集積中

●今後の研究課題

▶臨床面

- ・内視鏡外科学会技術認定医の育成。
- ・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導

▶研究面

- ・ICOG CCとICOG CRC LMの登録数の拡大
- ・新しい臨床試験への取り組み
- ・全国多施設共同研究への積極的参加
- ・学会発表を論文化
- ・大学院生に対する学位指導

リサーチグループ《分子治療研究室》

STAFF: 西塚 哲・松尾鉄平・石田和茂・池田みゆき・
岩谷 岳(九州大学生体防御研究所)、小笠原聡

専門外来

見学受付日：毎日
抗癌剤感受性試験
受付日：毎日



臨床医学はいわゆる広義の自然科学に属しますが、物理学や生物学とは違い、自然の真理を追究することが目的ではありません。日々の臨床では、既にある程度有効と考えられている治療をきちんと施行できることが重要であり、治療が有効あるいは無効であることのメカニズムに対する議論は多くありません。しかしながら、一歩前へ進むためには、論文を読み抜くことは勿論研究者同士のコミュニケーションから得られる情報を基に、経験していないことも含めてひたすら考え抜くことが必要です。我々の研究室では、基礎的手法およびモデル細胞・動物を用いて考え抜く訓練およびその成果を論文として伝えることを最も重要な目的と位置づけています。

平成22年の ニュース

- 1月 ▶ 米国臨床腫瘍学会消化器部門シンポジウム (ASCOGI) にて石田、松尾、西塚が発表。
- 2月 ▶ 第7回Research in Oncology Seminar (中面哲也先生、国立がんセンター東病院)
- 3月 ▶ 制癌剤適応研究会 (仙台) にて松尾がシンポジウムに採択。
▶ 石田和茂、学位取得「細胞分子生物学的定量アッセイを用いた承認済抗癌剤反応特性の解析」。
▶ 第8回Research in Oncology Seminar (三森巧士先生、九州大学生体防御研究所)。
- 4月 ▶ 岩谷が九州大学生体防御研究所へ出向。
▶ 松尾、西塚が米国癌学会で発表。
▶ 医学部4年生研究室配属プログラムにより6名が参加 (大方智樹、黒川千絵、近藤新平、澤田美穂、舟田圭、三浦佐和子)。実験手技トレーニング開始。
- 5月 ▶ 第9回Research in Oncology Seminar (小笠原聡先生、米国バーナム研究所、帰朝講演)。
- 6月 ▶ 西塚が米国臨床腫瘍学会 (ASCO) をレポート (日本癌治療学会の依頼による、詳細は癌治療学会会員専用ホームページに掲載)。
▶ 第10回Research in Oncology Seminar (不破信和先生、南東北病院)。
▶ 第11回Research in Oncology Seminar (押尾晃一先生、慶應義塾大学放射線科)。
▶ 第12回Research in Oncology Seminar (下島直樹先生、慶應義塾大学小児外科)。
- 7月 ▶ 第12回Research in Oncology Seminar (下島直樹先生、慶應義塾大学小児外科)。
- 8月 ▶ 米国メモリアルスロアンケタリング癌センターよりDr. Ellen Stevensが来訪。北上川川下りに参加。第13回Research in Oncology Seminar。
▶ 石田が米国国立がん研究所Dr. Ettore Appella研究室へ留学。
- 9月 ▶ 第14回Research in Oncology Seminar (白坂哲彦先生、北里大学・大鵬薬品工業)。
▶ 医学部4年生研究室配属プログラムの学生が学外研究室で研究に従事 (米国カリフォルニア大学3名、横浜市立大学1名、九州大学生体防御研究所1名)。
- 10月 ▶ 小笠原が米国バーナム研究所より2年ぶりに帰国。
▶ スウェーデン、カロリンスカ研究所よりDr. Yenan Bryceson来訪。
- 11月 ▶ Research in Oncology Seminar (上條岳彦先生、千葉県がんセンター)。
- 12月 ▶ 医学部4年生研究室配属プログラムの学生が研究成果を発表。

平成22年 診療・研究状況報告

● 診療報告：抗癌剤感受性試験 (先進医療)

2010年合計：26例 (胃癌21例、甲状腺癌2例、下部消化管1例、肝胆膵1例、卵巣腫瘍1例)。

● 平成22年研究報告

《教室内》

- ・細胞分子生物学的定量アッセイを用いた承認済抗癌剤反応特性の解析 (学位論文、石田和茂)

- ・抗ヒト上皮成長因子抗体セツキシマブによる腫瘍増殖抑制機序の解析 (松尾鉄平)
- ・抗癌剤反応蛋白kineticsモニタリングによる細胞内タンパクネットワーク順位の決定 (石田和茂)
- ・5-FUベース胃癌・大腸癌術後補助化学療法の効果予測に有用な蛋白分子の同定 (石田和茂)
- ・細胞増殖曲線パターンを用いた抗癌剤感受性の新規判

定法（松尾鉄平、石田和茂）

- ・逆相タンパクライセートアレイによる超微量抗癌剤耐性細胞集団からの蛋白プロファイル（西塚哲、池田みゆき）
- ・癌細胞選択生存のための抗癌剤反応蛋白を介したフィードバック機構（西塚哲）

●今後の研究課題

臨床的には標準治療無効例に対する「次の一手」を提供できる抗癌剤・放射線感受性を予測できるアッセイ法の開発およびバイオマーカーの同定。基礎的には癌細胞が外部刺激（外乱）に対応して生存し続ける機構（頑健性）についての研究。

小児外科グループ

STAFF：水野 大・小林めぐみ

専門外来

火曜・金曜
10時-12時



一般小児外科外来：2010年同様、原則、火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としながら、他の曜日・時間も他の業務との兼ね合いをみながら対応しております。紹介状の有無を問わず新患患者様の診察・検査、術後患者様のフォローアップをさせていただきます。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、排便コントロール等の指導をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成22年の ニュース

- 1 月 ▶ 女児鼠径ヘルニアに対し単孔式LPEC法開始
- 2 月 ▶ 小児食道アカラシアに対し単孔式Heller Dor手術施行
- 3 月 ▶ 2007年に東北大学より専門医取得目的に赴任していた福澤太一医師が日本小児外科学会専門医取得の要件を満たし帰局。
- 4 月 ▶ 大学院生 有末篤弘が学位取得のため慶應義塾大学小児外科へ留学。
▶ 大学院生 小林めぐみ（旧姓 名郷根）が県立中部病院より帰局。

平成22年 診療・研究状況報告

●入院数：211例

●手術数：209例（全麻）

《内訳（重複あり）》

▶新生児（横隔膜ヘルニア／CCAM／壊死性腸炎／腸閉鎖など）21例▶悪性腫瘍（悪性リンパ腫／横紋筋肉腫／肺芽腫／奇形腫など）6例（含む生検）▶上部消化管（胃食道逆流症／幽門狭窄症など）23例▶下部消化管（イレウス／直腸肛門奇形など）18例▶肝胆膵脾（胆道閉鎖／胆道拡張症／遺伝性球状赤血球症など）7例▶急性虫垂炎11例▶単径ヘルニア（停留精巣含む）51例▶泌尿器系（水腎症／膀胱尿管逆流症など）19例▶呼吸器系（気管切開／漏斗胸など）14例

●過去3年間の手術数

平成20年：252件／平成21年：224件／平成22年：209件

●平成22年研究報告

《教室内》

- ・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発 動物実験継続中

《全国規模》

- ・JNBSG 日本神経芽腫芽腫研究グループ 高リスク神経芽腫臨床試験
- ・JPLT3 日本小児肝癌スタディグループ
- ・JWiTS2 日本ウィルムス腫瘍スタディグループ

高度救命救急センター

STAFF：小鹿雅博・野田宏伸・石田 馨

専門外来

24時間体制



三次外来紹介：24時間、年中無休。年間約6000件の救急搬送患者を収容しております。高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

平成22年 診療・研究状況報告

●入院数：274例

内因性疾患 110例

外傷 164例

●手術数：96例（全身麻酔）

内因性疾患（手術数）

胃十二指腸潰瘍穿孔9例

小腸イレウス4例

急性胆嚢炎4例

虫垂炎25例

大腸癌イレウス5例

大腸穿孔11例

急性虚血性腸疾患12例

嵌頓ヘルニア6例

外傷（手術数）

胸部外傷1例

横隔膜破裂1例

腸間膜・腸管損傷12例

肝損傷0例

脾損傷0例

後腹膜膿瘍2例

その他（異物等）4例

局所麻酔

気切・PEGなど29例

●平成22年研究報告

《教室内》

- ・術後敗血症に対する人工臓器を用いた血糖管理
- ・抗生剤による生体反応修飾の研究

- ・重症病態下の副腎皮質機能とステロイド補充療法の研究
- ・出血性ショックにおける凝固因子検討
- ・エンドトキシン遊離作用抗菌薬のサイトカイン産生能検討
- ・ALI/ARDSによる新規メディエーター検討
- ・PiCCO（循環モニター）を用いたALIにおける水分管理、病態解明
- ・急性虫垂炎における保存的加療（抗菌薬治療）の検討

●今後の研究課題

- ・敗血症における多臓器不全の対策。特に人工臓器（血液浄化法、人工臓器）を用いた支持療法の有用性に関する検討
- ・下部消化管穿孔に対する集学的治療（Surviving Sepsis Campaign guidelines for management of severe sepsis and septic shockの再検証）
- ・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。（S100A12, HMGB1, sRAGE, AGE, MCP1の特異的変動）
- ・重症敗血症における超微量元素の変動について。（レプチン、ラクtoferrinの変動）
- ・血糖値、インシュリンが生体反応に及ぼす影響。
- ・多臓器不全時の酸素需給動態モニタリングの開発。（代謝モニターと熱希釈法による組織酸素代謝の是正）
- ・汎発性腹膜炎に起因するDICの病態解明と治療薬の検討

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：小川雅彰・米澤仁志



平成22年度の手術件数は152件（全麻125件）でした。若林教授をはじめ、各疾患グループの先生に手術応援をいただき、大学附属病院としてクオリティの高い手術を提供出来るよう努力しております。主に外来で施行した再発・進行癌に対する化学療法件数は274件でした。特に胃癌・大腸癌においては、TDC（tumor dormancy therapy）を目指した結果、以前では考えられなかった程長期の生存を得ている患者様が複数おられ、（分子標的薬を含む）化学療法の進歩を実感しております。緩和治療については本院より多くの患者様をご紹介いただきありがとうございます。病院と自宅を行き来しながら闘病出来る環境に感謝されることが多いです。当地には、在宅ケアに熱心で先進的な地域性とケアスタッフが居り、更に連携を深めながら患者様の満足度を高める努力をしております。今後も、外科医局に貢献出来ることは積極的に行ってまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。また、なお一層地域に貢献する医療に努めてまいります。患者様のご紹介はお気軽にご相談下さい。

平成22年の
ニュース

- 1月 ▶ 若林剛教授に当院で初めてのご執刀をいただきました
- 7月 ▶ 米澤医師～中型自動二輪免許合格
- 11月 ▶ 当番世話人として第8回南部外科研究会開催
- 12月 ▶ 木村祐輔先生を招いて緩和ケア講習会開催

平成22年 診療・研究状況報告

●入院数：202例

●手術数：152例

《内訳》

病名	術式	手術数
甲状腺癌	葉切除	2
乳癌	胸筋温存乳房切除	2
胃癌	幽門側胃切除	5
	胃全摘	7
	LADG	1
	試験開腹	1
胃GIST	部分切除	1
	胃全摘	1
大腸癌	結腸切除（開腹）	9
	結腸切除（鏡視下）	13
	ストマ造設	1
直腸癌	直腸切除（開腹）	3
	直腸切除（鏡視下）	3
	マイルス	1
膀胱癌	PD	1
	DP	1
転移性肝癌	外側区切除	1
大腸癌腹腔内転移	転移腫瘍切除	1
胆石症	胆摘（開腹）	1
	胆摘（鏡視下）	16
	胆摘（SILS）	3
	鏡視下	1
鼠径ヘルニア	Kugel	18

	Mesh-Plug	2
	Potts	2
腹壁癒痕ヘルニア	根治術	2
	鏡視下根治術	1
FAP	腹腔鏡補助下大腸全摘	1
イレウス	開腹	7
	鏡視下	1
S状結腸結腸捻転	結腸切除（鏡視下）	1
十二指腸潰瘍穿孔	鏡視下縫合	2
急性虫垂炎	虫垂切除（開腹）	1
	虫垂切除（鏡視下）	11
その他全麻		5
全麻合計		125

CVポート埋込		9
その他局麻		18
局麻合計		27

全手術合計		152
-------	--	-----

うち緊急手術		12
--------	--	----

《手術件数（年度別）》

年	全麻	腰麻	局麻	計
2006	62	17	39	118
2007	78	15	33	126
2008	121	4	32	156
2009	156	0	24	180
2010	125	0	27	152

入院患者分類

疾 患	例 数
顔面・頸部	2
甲状腺・上皮小体	良性 17
	悪性 27
乳 腺	良性 1
	悪性 211
食 道	良性 9
	悪性 139
胃・十二指腸	良性 7
	悪性 192
大腸・肛門	良性 27
	悪性 301
肝・胆・膵・脾	良性 99
	悪性 261
イレウス	14
虫垂炎	18
ヘルニア・腹壁・腹膜	95
副 腎	2
その他	37
入院者合計	1,459

関連病院手術件数

病院	全手術 例数	全身麻 酔件数	緊急 手術数	腹腔鏡下 手術数	甲状 腺癌	乳癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1,372	1,015	141	477	7	138	29	115	33	18	178
盛岡赤十字病院	727	661	134	225	9	36	2	45	10	8	86
県立大船渡病院	710	461	111	81	3	33	3	40	17	19	71
盛岡友愛病院	610	548	23	69	11	147	1	5	0	1	32
県立釜石病院	553	351	48	81	3	26	0	49	7	2	74
県立久慈病院	515	338	98	128	2	19	0	29	13	13	71
八戸赤十字病院	481	413	-	120	5	37	0	50	9	5	71
県立二戸病院	440	248	56	48	1	2	5	27	5	2	83
盛岡市立病院	430	334	30	122	0	10	0	18	7	3	64
県立宮古病院	389	347	88	62	2	25	2	14	8	2	69
山本組合総合病院	378	304	58	135	9	19	0	48	2	3	54
県立江刺病院	290	83	21	18	2	5	0	7	3	1	17
かつの厚生病院	280	188	48	42	1	12	0	28	2	4	52
県立千厩病院	255	149	48	61	1	8	0	7	1	1	22
北上済生会病院	207	106	15	13	4	8	0	6	1	0	8
花巻温泉病院	152	125	12	54	2	2	0	13	2	1	30
県立軽米病院	49	8	0	1	0	0	0	0	0	0	2
県立一戸病院	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

手術件数

	件 数
全麻数	999
腰麻数	2
局麻数	118
全手術数	1,119

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2011. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2011. 12
指定	八戸赤十字病院	～ 2011. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2011. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立千厩病院	～ 2011. 12
指定	北上済生会病院	～ 2011. 12
関連	盛岡市立病院	～ 2011. 12
関連	岩手県立軽米病院	～ 2011. 12
関連	山本組合総合病院	～ 2011. 12
関連	鹿角組合総合病院	～ 2011. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2011. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2011. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2011. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2011. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2011. 12

新教室員紹介

外科学講座

長谷川 康

出身大学：慶應義塾大学

大学卒業年：2002年

出身地：長崎

趣味：ゴルフ

座右の銘：笑う門には福来る

岩手医科大学外科に入った理由：

私は、大学間交換留学制度のもと肝胆膵・移植の手術および術前術後管理を学ぶために、岩手医科大学外科学講座に入局しました。私は慶應義塾大学外科学教室に在籍しており、昨年9月まで国際親善総合病院（横浜市、287床）で勤めていました。若林教授および慶應大学北川教授のご厚意により、10月から岩手医科大学で勤務しております。

岩手医科大学の肝胆膵グループは手術症例数が非常に多

く、また、腹腔鏡手術も積極的に取り入れています。この厳しい環境の中に身を置き修業を積むことで、肝胆膵外科医として成長できると思い入局を決めました。

これからの意気込み：

仕事においては、岩手医大で肝胆膵・移植の手術を数多く経験し、患者にとって最も良い手術を提供できるようになることが最大の目標です。

また私事ですが、このような北国で生活するのは初めてです。寒さは厳しいですが岩手でなければ楽しめないことが山ほどあると思います。家族とともに、岩手県の生活を存分に楽しみたいと思っています。



外科学講座

松井 雄介

出身大学：岩手医科大学

大学卒業年：2010年

出身地：岩手県 奥州市

趣味：スキューバダイビング

座右の銘：運否天賦

岩手医科大学外科に入った理由：

学生のころ実習で外科をまわり、まず外科の「THE・体育会系」の雰囲気に関心されました。そして自分のような学生にも熱心に指導（および勧誘）してくださる外科学教室の体制にも非常に感激しました。外科は手術はもちろんですが、術前術後の全身管理や救急医療、化学療法、さらに緩和医療など幅広い知識と技術が要求され、正直大変な科だとは思いました。しかしその分やりがいもあるんだろうなと感じました。卒業間際、実はいくつか迷った科はありましたが、

最終的には外科の先生方の猛烈的な勧誘で腹をくくり、外科の勉強をさせていただきたいと思うようになりました。

これからの意気込み：

現在研修医2年目で、まだ外科医としてのスタートを切れていない自分ですが、研修終了後は臨床も研究も精一杯やり、外科の医局員として諸先輩方のお力になればと思っています。5年後、10年後にあのときもっと頑張っていれば・・・なんて後悔はしたくないので、何事も一生懸命やらせていただきます！たくさんご迷惑をおかけすることもあると思いますが、厳しく（たまに優しく）ご指導いただければ幸いです。外科医はカッコいいです。自分もカッコいい外科医になりたいです！よろしくお願いいたします。



今年度（H22年度）の新教室員として2名を紹介しましたが、全員がfreshmanというわけではありません。様々な研修プログラムを経て、今年度から新しく岩手医科大学外科教室の仲間に加わった精鋭達も紹介しております。同門の先生方には是非顔を覚えていただき、研修に訪れた際はかわいがってあげてください。

岩手医科大学医学部 外科学講座 卒後臨床研修プログラム

卒後研修担当 水野 大

当教室では、これまで卒後初期臨床研修終了者を対象とし、各人の入局前のキャリア、将来に描くキャリアパスに合わせた多数の（オーダーメイド型）後期研修プログラムを用意してきました。一昨年はさらにその上の日本外科学会専門医をすでに取得し、次のステップを目指す外科医を対象とした専門教育プログラムをスタートし、ある程度の成果が得られました。しかしその一方で、卒業時に進路を固めている学生には遠回りとも言える卒後初期臨床研修が鮮明化してきました。そこで昨年は、「卒業前に、外科医を目指す決意が固まっている学生」に向け、卒後初期臨床研修全体の規定をクリアしつつ研修期間中に「外科専門医取得に必要な関連領域の症例を効率よく経験するためのプログラム」（学内研修中心：図1）と、ひたすら「多くの手術を経験するためのプログラム」（学外関連施設研修中心：図2）を作成しました。

卒後初期臨床研修制度導入前の外科研修にかなり近づき、外科医を志す熱い希望者が現れることを期待しましたが、元々本学での研修希望者が少ない事に加え、学生が研修先をほぼ決定した後にしかアナウンスできなかったこともあり、残念ながら昨年度卒業生に本プログラムを希望する者は1名もいませんでした。毎年、よりよい外科卒後教育を目指し、各種プログラムを作成あるいは変更しておりますが、学生のアピールする時期が遅すぎるというのが実感です。多くの学生が心の中では5年生のうちに卒後研修先を絞っているという実態を考えると、今後は内容の充実もさることながら、プログラム自体を学生にいかに早い時期に理解しやすい形で伝えるかが重要であると考えます。

図1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年次	基礎研修 内 科	内 科						救急科	麻酔科	精神科	産婦人科	
二年次	地域医療	学内外科系講座で横断的に研修										

図2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年次	基礎研修 内 科	内 科						救急科	麻酔科	精神科	産婦人科	
二年次	地域医療	関連病院 外科										

平成22年巖刀会集談会報告 「乳癌」－パネルディスカッション によるコンセンサスの形成－

稲葉 亨

平成22年6月5日（土）巖刀会学術集会として乳癌をテーマとしたパネルディスカッションが開催されました。本年は当教室関連の計13施設の先生方にアンケートを御回答頂き、その結果を基に以下に述べるテーマについてパネリストの先生方を中心とした活発な討議が行われました。御出席頂きました先生方、アンケートに御協力頂いた先生方にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

1) 最新の乳癌統計

岩手県地域がん登録運営委員長である八重樫雄一先生より御提供頂いた記録ですが、乳癌罹患率（図1）と乳癌死亡率（図2）を提示致します。それぞれの岩手県の成績は全国での成績に比較して優れていましたが、ここ10年間の推移を見ますと全ての項目で増加傾向にあります。また、岩手県における発見経緯別の5年生存率（図3）に関しては、自己触診例を含

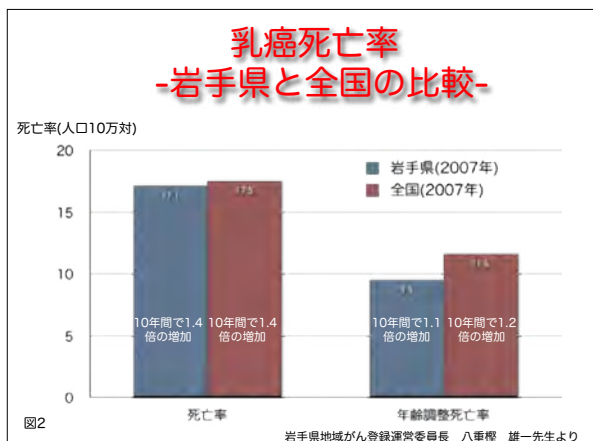
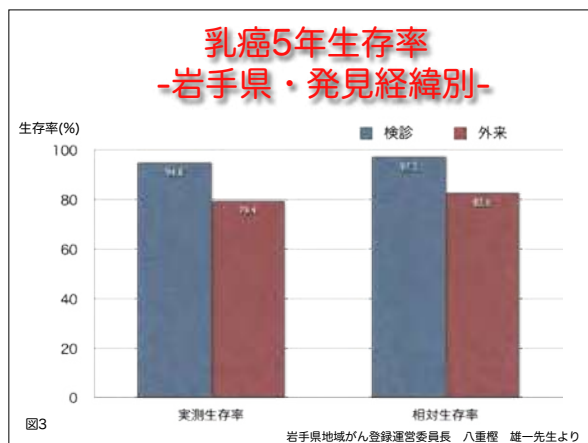
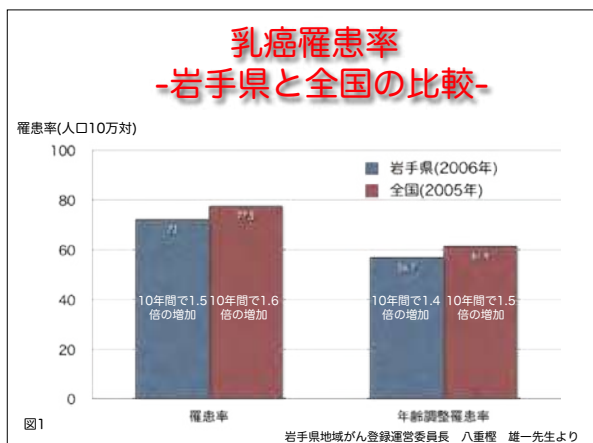
む外来発見例に比較し、マンモグラフィーにて発見頻度の高い早期乳癌例を含む検診発見例の生存率が高い傾向であり、やはりマンモグラフィー併用検診の普及による効力大きいものと考えられます。しかし欧米における検診普及による乳癌死亡率の減少に対し本邦では遅れをとっている現状から、更なる検診の啓蒙活動による検診受診率の向上が不可欠です。

2) 当教室関連施設へのアンケート結果の集積

この度、関連施設13施設と当教室を合わせた14施設の現状についての現状をアンケート結果を集積し解析・提示致し、ここから乳癌外科・いしだ外科胃腸科クリニック 石田茂登男先生、盛岡赤十字病院 畠山元先生、函館五稜郭病院 早川善郎先生、岩手県立久慈病院 下沖収先生の4人のパネリストの先生方による討議を交えて進行されました。

3) 検診施設としての基準

まずは、各施設における日本乳癌学会会員数と精中委マンモグラフィー読影試験上位判定医数、乳腺超音波試験受験医数の一覧です（図4）。乳癌学会会員の勤務施設は71.4%（10/14）、マンモグラフィー読影試験B判定以上の医師の勤務施設は85.7%（12/14）に上り、その12施設での勤務医師数



各施設での現況

大変ご多忙の中、13施設からアンケートへのご協力を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。
・ 検診施設としての基準

	乳癌学会会員	精中委MMG A+B判定	超音波試験受験
大学	4	4	有
A	3	4	無
B	1	1	有
C	2	2	無
D	0	0	無
E	1	1	無
F	1	3	無
G	0	2	無
H	1	4	無
I	1	4	無
J	0	0	無
K	1	2	有
L	3	3	無
M	0	2	無

図4

の平均は2.4人でしたが、各地域におけるマンモグラフィー併用検診の普及には更なる読影資格医師の増加が必要です。

4) 手術数の推移と温存率

各施設が増加或いはほぼ横ばいとの結果でしたが一般に乳癌患者数はしばらく増加の一途を辿ると言われていることから、妥当な結果と思われます。ただし温存率に関しては施設間差がありますが術中迅速病理診断による切除断端検索の実施が可能かどうかの問題に寄ります。

5) センチネルリンパ節生検

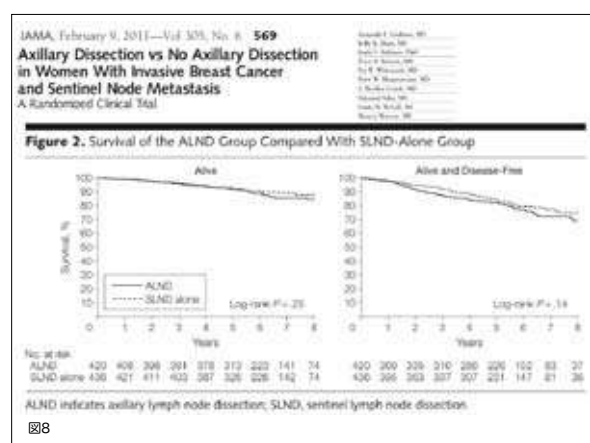
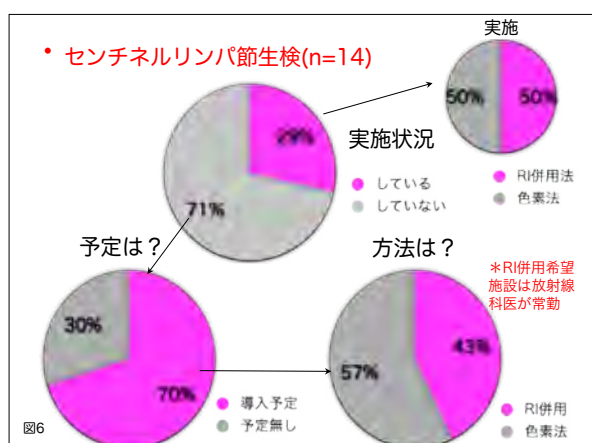
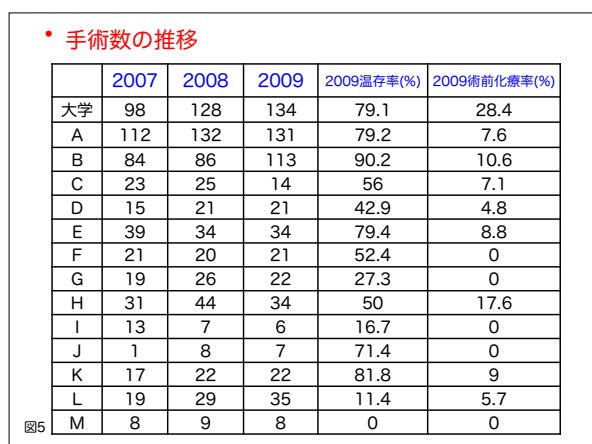
昨年春に保険適応となり乳癌領域において標準治療に定着したセンチネルリンパ節生検ですが、実施率は29%と低率の結果でした（図6）。実施施設における方法は色素法単独、併用法が半々の結果でした。一方、実施していない施設のうち、今後導入予定としている施設は70%、方法としては色素法単独が57%、RIとの併用が43%との結果でした。センチネルリンパ節生検に関するエビデンスは摘出リンパ節個数、偽陰性率で色素法に比較し併用法で良好な成績が示されており（図7）、併用法が推奨されますが、海外でのRI法単独法による成績は併用法と同等の成績が得られており、当科もRI

単独法で行っております。また、The American College of Surgeons Oncology Group（ACOSOG）のZ0011試験では乳房温存療法の適応となる腫瘍径T1-2の早期乳癌で、センチネルリンパ節生検の結果が転移個数が1-2個の患者を腋窩リンパ節郭清群と非郭清群に割り付けし5年の生存率と無病生存率を比較検討した結果、同等の成績であったと示されており（図8）、今後センチネルリンパ節生検を含めた乳癌手術治療の縮小化が加速するものと考えられます。

総括

以上、パネリストの先生方との御討議のまとめを記載致しました。

今後増加が続くと言われる乳癌患者さんの生存率向上のためには早期発見・早期治療が不可欠であります。その上で手術と、本稿では割愛致しましたが薬物療法を含めた乳癌治療における患者さんのQOLの維持を目的とした治療の縮小が問われる時代に移っており、手術治療においてはセンチネルリンパ節生検は肝要と思われます。センチネルリンパ節生検を試みたいと考えておられる先生方には薬物治療の治療指針と共に当教室より積極的にお手伝いさせていただきますので御連絡頂ければ幸いです。



テレビカンファランス

佐々木 章

岩手県内の人口10万人当たりの消化器外科専門医（2006年）は2.6人で、東京の4.0人に比べて少なく、専門医36人のうち約3割が岩手医科大学の勤務で、偏在が指摘されておりました。岩手県内の外科医療の標準化、施設間の治療較差の是正と臨床研修医の教育を目的に、2006年5月から岩手県の高速光ケーブル「いわて医療情報ネットワーク」を利用して岩手医科大学外科と県立病院外科間（二戸病院、久慈病院、宮古病院、釜石病院、大船渡病院、千厩病院）でテレビ会議「いわて遠隔外科医療カンファランス」（研究責任者：佐々木章）を行っております。岩手県内の医師、医療従事者を対象として月1回程度の遠隔医療会議を行い、最先端治療の教育、標準治療の修得、内視鏡外科手術などの手術指導・支援、がん治療の連携（緩和医療も含めて）などの教育に成果を上げています。

また、2010年からは、「いわて医療情報ネットワーク」が配備されていない関連施設（八戸赤十字病院、かづの厚生病院、山本組合総合病院、北上済生会病院、花巻温泉病院、盛岡市立病院）とのテレビ会議の普及を目指して、webカンファランスシステムである3eConferenceを導入しました。本システムは、専用のハード端末を必要とせず、webカメラとマイクのみで簡便・安価にテレビ会議を実施することが可能であり、インターネットを使って1,000人以上が同時に参加できます。今後は本システムを利用して、国内外の学会への参加、へき地医療圏との連携強化、診療支援への活用が期待できると考えています。

さらに、これらの回線とは別に高速インターネット（一般電話の31,200回線分）を利用し、動画を非圧縮で送信できるDigital Video Transfer Systemで韓国、中国、台湾、シンガポール、オーストラリアなどの海外大学病院や九州大学、産

業医科大学、藤元早鈴病院（宮崎）、豊見城中央病院（沖縄）などの国内施設、研究会（福岡内視鏡手術ファールム）との医療カンファランスや手術映像の送信も積極的に行っております。



いわて遠隔外科医療カンファランス（岩手大外科 - 県立病院外科）



福岡内視鏡手術ファールム（岩手大外科 - 福岡アクロス）

2010年10～12月 研修報告～ 癌研有明病院消化器センター(胃外科)

千葉 丈広

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、被害を受けた先生方には心からお見舞い申し上げます。

私は、2010年10月から12月まで日本対ガン協会の奨学医として癌研有明病院（胃外科）で研修させていただきました。

人手が不足している中、医局の先生方には大変感謝しております。

大学に所属している医師として、関連病院で仕事することは勿論ありますが、全く関連のない病院を実際に見る機会はそう多くはないと思います。私は医師になって8年とまだまだ若輩者ですが、関連施設以外の病院における手術手技や術後管理などを実際に自分の目で見た経験がなく、非常に興味深いことであり、また楽しみでもありました。私と同時期に癌研胃外科の研修に来た医師は他に3名おりました。彼ら



はそれぞれ埼玉（11年目）・東京（5年目）・愛媛（5年目）の先生方でした。癌研での仕事の基本システムは電子カルテであり、岩手医大でも電子カルテが取り入れられ、岩手県内でも取り入れている病院が増えてきつつあると思いますが、すべての情報は電子カルテにあり、指示出しや検査データ・画像などを確認しながら診療を行っておりました。

私が研修した消化器センター胃外科では年々症例数は増加し、昨年は約700件の胃癌手術が行われました。私がいた3ヶ月間では腹腔鏡手術と開腹手術は同じくらいの件数が行われていました。山口俊晴先生をはじめ、スタッフの先生方の佐野武先生、大山繁和先生、谷村慎哉先生、比企直樹先生、布部創也先生、シニアレジデントの窪田健先生、愛甲丞先生、尾崎知博先生、熊谷厚志先生、渡邊洋平先生の11名の先生方にお世話になりました。これだけ多くの先生方がいて、手術件数が多いのは当然と思いますが、多いときで並列3件ということもありました。手術に加えて外来診療と病棟業務も行っているため、手術件数を考慮すると人手は十分足りているとは言えないと思いました。胃癌手術は術者によって部分的に細かな手技が異なり定型化されていると言いはれ、前立ちのシニアレジデントたちも必至に対応しておりました。私もこの3ヶ月間で開腹手術の前立ちと腹腔鏡手術のカメラ持ちをさせていただきました。術後管理については合併症が全く



ないとは言えませんが、たいていクリニカルパス通りに術後約10日前後で退院となり、大学での手術とほぼ同様でした。

癌研での一日の流れは、朝7時10分頃からシニアレジデント全員で一通り病棟回診を行います。週2日は病棟でのミーティングと術前・術後カンファランスが行われます。これは当科と同様でしたが、カンファランスでは盛んに討論があり、中にはかなり厳しい質問も出たりします。カンファの間にも手術が行われているため、手術が入っている先生方はカンファに出られないことも多々ありますが、これは大学でも同じです。手術はたいてい9時頃から始まります。病棟業務でよほど何もないければ手術に入っていないレジデントの先生も外から見学する機会がありますが、多くの場合は病棟業務（検査など）で手術をずっと見ることは難しいです。外回りの先生たちは病棟の仕事が終わったあたりで、ようやく手術室に足を運びますが、標本はすでに摘出されており、その場でリンパ節を迅速診断に提出することや吻合後の内視鏡で確認するための要員になることもあります。手術が終わり、主治医が患者さんの家族へICを行い、摘出標本を病理の冷蔵庫に入れ、手が空いているレジデントが手分けをして標本を整理し、その場で一人が手術所見を書き、一人が標本を張り付けて写真を撮ってホルマリンに付け、一人がリンパ節をはずす、というように1検体につき最低2～3人でこれらの仕事を手早く流れ作業のように終わらせます。

癌研での研修中には大変だと思ったことがたくさんありましたが、やはりレジデントの先生方の仕事量は尋常ではないように思いました。これだけのハイボリュームな病院でさえ通常の臨床の仕事に加えて、臨床研究を行い、それを論文にするというかなりハードな毎日を過ごしていました。正直言えば、こういった施設で仕事をするのは自分には厳しいと思いました。しかし、研修を終えて改めて考えるとこれらのことは決してやらなくても良いことではなく、むしろ癌研では施設として特に論文を書くということに重きを置いており、当然やらなければいけないノルマとなっていました。こ



れは施設に限らないことと思ひ、思い返すと若林教授が就任したときに最初に言っておられたように、少なくとも自分が経験したもので学会発表したものを論文にするということは最低限していくべきであると改めて思ひました。

今回の研修では、胃癌の手術を日本で最も多く行っている癌研有明病院において開腹・腹腔鏡手術を間近で見ることができ、そこで行われている手術手技を学ぶことができました。開腹手術については各先生方がそれぞれの方法で行って

おり非常に勉強になりましたが、腹腔鏡手術に関しては他院で取り入れて円滑に行えるようになるには相当の経験と技術を要するものと思われました。関連施設でも胃癌に対する腹腔鏡手術をされているところはあると思いますが、大学では肥田先生・藤原先生が行っており、自分としては少しでも役に立てられるよう、さらに研鑽を積んでいきたいと思ひます。この度は大変貴重で有意義な研修をさせていただき、本当にありがとうございました。

●留学先から

米国国立がん研究所報告

石田 和茂

『医師免許』とは、かくも尊い資格なのだ。

平成22年7月より、アメリカはNational Institutes of Health (NIH、アメリカ国立衛生研究所)へ留学し約半年。私が得た一つの答えである。

NIHは日本の厚生省にあたる機関が管轄する医学研究機関であり、その中には、癌・心肺・骨格・眼病・聴覚・小児・神経・精神・歯科・看護・薬物・医学図書など27分野に細分化された研究所が集まっている。私が所属するラボはNational Cancer Institute (NCI、国立癌研究所)という癌研究を中心とした研究所に所属しており、同じ部屋にはchemical biologist、physical chemistおよびmolecular biologistなど多才なスタッフが集まっている。各人、共通のテーマに向いながらも、それぞれの分野における生命科学の真理の点を見出そうと日々研究に没頭している。その点と点はいつか線となり、そのまたいつか形となる日が来ることを信じているはずである。我々医師は、それら無数の点と努力によって形作ら



ACSに際し、若林教授、吉田先生、八重樫先生がラボを訪問されました。ボスの Dr. Ettore Appella と。

れた結果の終点に位置するであろう臨床医学分野で人間に手をかけることが許された集団なのだということを改めて痛感させられた。

そもそも、私が現在のラボに留学することが決まった後、ボスは私を迎え入れることに非常に不安を抱えていたという。聞けば、日本人医師は研究者としての信用を得ていないというのである。この理由を説明することは渡米半年にすぎない私には時期尚早であるが、自らも科学者であるという自覚が薄いのかもしれない。確かに数人の日本人医師が私の周りでも研究をしているが、留学はキャリアの通過点と考えている人が多いことが気になる。研究を生業としているスタッフと違い、医師という本業を持っていることがそうさせるのかもしれないが、それでも未知の究明に進む姿勢は日本にいても同じなのではないだろうかと疑問に感じる。これは過去の自己批判にも繋がるが、臨床の歯車に乗って満足しているようでは医師免許が泣いてしまう。そう考えながら異国の土俵で研究者と肩を並べようと必死にしがみついていく毎日である。臨床も満足に出来ない若造が何を語るか。そういう気持ちを併せ持ちながらも本稿を書かせていただいた。



スタッフ1人ずつにこのような実験台が用意されています。

九州大学生体防御研究所から

岩谷 岳

早いもので住み慣れた岩手を離れ大分に移りもう1年になろうとしております。ようやく生活にも仕事にも慣れてきたかな、というところです。施設の概要もわかってきましたが（今頃）、私がいる教室は「九州大学生体防御医学研究所分子腫瘍学」と「九州大学病院別府先進医療センター外科」という2つの名前を持っています。歴史は古く、1931年に九州大学温泉治療学研究所として設置され、1982年に医学部附属癌研究施設と統合し生体防御医学研究所（生医研）となりました。生医研は20以上の研究室で構成されておりますが、ほとんどが基礎研究室で別府施設のみ臨床診療を行っており、後者の名称も持っております。従って、病院と研究所の両方の性格を持ち、トランスレーショナル研究に適した環境です。そして博多から離れているせいか、九大病院や研究所本体からも強い束縛は受けず、独立した形で臨床・研究を行っております。外科ベット数は25床ほど、手術は年間200例ほどで、病院の規模としてはそれほど大きくはありません。そのぶん研究が盛んで九大、阪大、東大をはじめ多くの施設と共同研究も行っております。現在研究室では多数のサンプル（手術標本、末梢血・骨髄サンプルなど）を全国の共同研究施設から集め、種々のアレイによる網羅的発現解析を行い、得られた候補遺伝子・パスウェイについて細胞実験・動物実験を行いその機能を検証していくというのが1つの流れです。また、より詳細な解析のためにレーザーマイクロダイセクションを用い原発巣・転移巣の癌・正常部、上皮・間質などを分離、骨髄中細胞も癌細胞と宿主側細胞分画を分離し、各部分を比較解析しどのようなメカニズムで癌の浸潤・転移が起きるかなどを調べております。この他各研究員が3、4個づつのテーマを進めております。私はまだ論文にできるような結果は出ておりませんが、この1年でいろいろ回り道をしながら足場が固まってきた感じで、ポチポチ興味深いdataが得られつつあります。いい報告ができればと思っております。

近年の研究により、さまざまな分子標的治療薬や効果予測因子が同定されてきております。治療成績向上のため1つでも多くの臨床に活用できるような治療標的やバイオマーカーを発見していきたいと常々考えておりましたが、10年以上前に勉強した大学院生時代の頃の知識とその後の勉強不足から、どのように研究を進めていくべきか正直途方に暮れていたところもありました。私が今回研修を希望した目的は、現在のリサーチの進め方などを学び、今後どのように岩手医大での研究に生かせるかを考えることでした。失敗も多々して



研究棟からみた別府市街と別府湾

右手に見える山は国立公園の自然動物園のある高崎山です。研究所の敷地は広く、春は桜が満開となり綺麗です。右手の鬱蒼とした森の中に私の住む官舎があります。夏はいろんな生き物との戦いです。

おりますが、実験手技やアプローチ法など実際ふれてみないと分からないことも多く、大変勉強になっております。また、年齢順で今年から研究室チーフになってしまいましたので、物品の管理や研究費の使い方など研究室の運営面も学んで帰りたいと思います。本施設にある膨大なサンプルは多施設から集めているため、実は予後や臨床病理事項、治療状況が検索不能のものも多くあります。研究には岩手医大サンプルも使用させていただいておりますが、10年以上前の症例の患者データや予後のfollowなどはほぼ完璧で最も信頼性の高いセットになっております。これは大学の先生はもちろん関連病院の先生方のお力もありスムーズな情報交換ができる体制にあるからだと思います。また、当施設ではDNA/RNAレベルでの研究が軸になっておりますが、岩手医大外科研究室では蛋白レベルでの研究が非常に進んでおります。豊富な症例、詳細な患者データ、これにさまざまな研究アプローチができるだろうと、岩手に帰ってからの研究も今から非常に楽しみにしております。岩手医大と生医研との交流は私の研修以後も続けていければと考えておりますが、昨年夏には消化器外科希望の4年生の学生さんが1カ月の研修に来てくれましたし、4月からは大学院生の石橋先生もきてくれることになり、若林教授はじめ医局の先生方の後押しを感じ心強く思います。継続のためには結果を出すことが大事ですので頑張っていきたいです。

かたい話が長くなりましたので、少し街の紹介もいたします。別府温泉といえば誰でも耳にしたことがあると思いますが、圧倒的な温泉資源でまさに温泉だらけです。源泉数は2900孔と日本一で、町なかから人里離れた山の中までさまざまな温泉があります。また、1日13万キロリットルの温泉湧出量は人が入浴できる温泉としては世界一だそうです。その

おかげで、別府では温泉が暮らしに密着しております。街中のいたるところに温泉があり、自宅・アパート・マンションに温泉がついてところも多く、中には温泉付きラーメン屋もあります。湯布院温泉も近く車で20・30分です（毎月湯布院の病院に当直しにいらしています）。昔ながらの温泉街という感じの別府と静かでゆったりとした雰囲気の湯布院、大分に遊びに来た時は両方まわられるといいでしょう。食べ物・

お酒もいろいろ美味しいものがありますが、ふぐ刺しは必ずキモがついてきますので驚かれるかもしれません。美味しいですので是非びれて帰ってください。九州方面におこしの際はご連絡ください。

最後になりますが、医局・関連病院とも人手の厳しい中、研修に出させていただき本当にありがとうございます。1年後、またみなさんと仕事をするのを楽しみにしております。

国際親善総合病院より

大 瀧 徹

2010年10月より長谷川先生との交換留学により神奈川県横浜市の国際親善総合病院へ移動となりました。横浜というと皆様はみなとみらい周辺の地理をイメージされるかと思いますが病院までは横浜駅より電車で約20分かかります。距離にして約16kmですが、岩手県の地理で比喻すると盛岡駅と矢巾駅の位置関係かと思われます。当院は1867（慶応3）年、横浜中区山手町にThe Yokohama General Hospitalとして開設され第2次世界大戦直後の1946（昭和21）年には国際親善病院として発足し、1990年には横浜市泉区西が岡に移転し現在に至ります。規模としては、外来患者数：約750人/日、入院患者数：約270人/日、職員：544人、医師：常勤61人であり、病床数287床を有する総合病院です。

平成23年2月現在、亀山部長をはじめとする5名の常勤医、1名の後期臨床研修医および2名の非常勤医にて外科診療に当たっています。平成22年の手術総件数（→別表）は569件であり、その内、腹腔鏡下手術は41.5%（236件）を占め、部長を中心に腹腔鏡下手術に力をいれており、腹腔鏡手術が多い



ことが特徴として挙げられます。疾患別では鼠径ヘルニアならびに胆石・胆嚢ポリープの手術件数があわせて273件/年と、年間症例の約半数を占めております。各領域での腹腔鏡下手術をActiveに行っておりますが、とりわけ鼠径ヘルニアに対する単孔式手術（SILS-TAPP）は特筆すべきものがあります。技術的に亀山部長しか執刀できないのですが、いつの日か自分も…と日々勉強させていただいております。

一方、岩手医大の関連病院で内視鏡検査を外科で行うことはあまりありませんでしたが、当院では手術施行有無にかかわらず上部内視鏡/下部内視鏡検査も週3日施行しております。内視鏡処置に関しては、大腸ポリープに対するPolypectomyや早期胃癌に対するESD、総胆管結石に対するESTなども積極的に行っています。集約的に修練できるよい機会であり、上級医にご指導いただきながら手技の習得に努めております。

すでに転勤後6ヶ月を迎えようとしておりますが、暖かい冬に驚きながら有意義に日々を家族とともに過ごしております。恵まれた環境で研鑽できる機会をいただけた事に対し、若林教授を始め教室の皆様に感謝しております。

	腹腔鏡下手術 (内、単孔式)	年間手術件数
胃 癌	11 (5)	33
結腸癌	22 (12)	74
直腸癌	10 (0)	38
肝 癌	1 (0)	12
胆・膵癌	1 (0)	10
胆石・胆嚢ポリープ	129 (76)	135
鼠径ヘルニア	27 (22)	138
急性虫垂炎	26 (24)	65

Miami Times 最終回

高橋 正浩

今回はマイアミで経験した症例のまとめを報告する。研修した1年間にスクラブして実際に助手で入ったドナー手術は68例。ドナーの後はバックテーブルの助手に入り、レシピエント手術の見学と外回りをするため、見てきた総移植症例数は100例を超える。経験したドナーの内訳と死亡原因をグラフに示す。ドナー最年少は5ヶ月で最年長は87歳であった。87歳!?!と抵抗があったが肝臓は十分に機能しレシピエントは元気を取り戻す。一方、乳幼児症例のほとんどは虐待による脳死であった。UNOS（アメリカ臓器移植ネットワーク）のデータによると年間ドナー症例数の約1%が虐待からの提供である。日本は去年7月、臓器移植法の改正で15歳未満からの臓器提供が可能になったが虐待からの提供は許されていない。小児脳死ドナーの実状は複雑だ。日本のみならずアメリカでも厳しいドナーの状況を痛感した。主に手術場で過ごす時間が多かったため、良くてくれたのは手術場のスタッフであった。打ち解けるまではかなり厳しかったが、最後の方になれば簡単な手伝い程度は頼まれるようになったしバックテーブルも任されるようになった。言葉の壁はあったが、私を温かく受け入れてくれたマイアミの仲間はその温暖な気候のごとく陽気で楽しかった。最後に、貴重な経験をさせていただいた、Dr. Andreas Tzakisと西田聖剛先生、秘書のLinda Martin、マイアミの移植スタッフの皆様には心から感謝申し上げます。

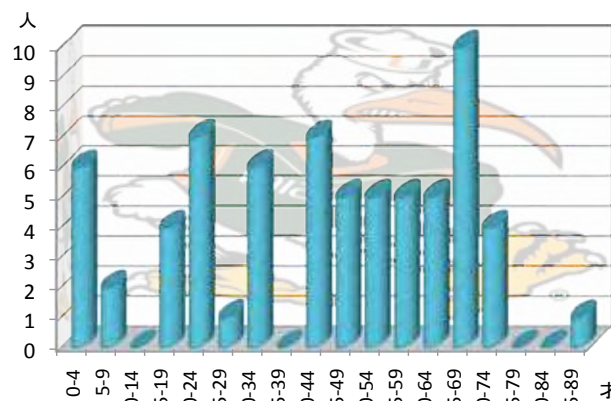


Fig 1 ドナー年齢

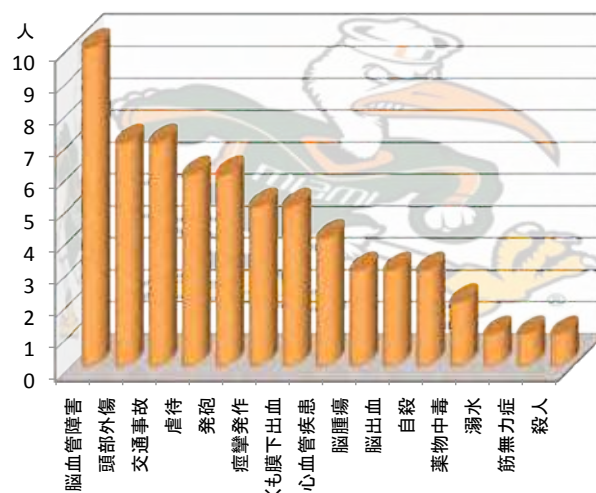


Fig 2 ドナー死亡原因



Donor で術者も経験／陽気な手術場スタッフ



The Liver and Gastrointestinal Transplant Team from left to right: Dr. Gennaro Selvaggi, Dr. David Levi, Dr. Eddie Island, Dr. Andreas Tzakis, Dr. Seigo Nishida, Dr. Akin Tekin and Dr. Jang Moon.

Dr. Tzakis 率いるマイアミ大学移植外科医



移植外科女性スタッフ
病棟師長・薬剤師・コーディネーター・レジデント



マイアミ大学移植外科 certificate
移植最前線病院での研修証明証



アメリカ移植学会 certificate
Dr. Tzakisに推薦状を書いていただいて正会員に

留学を終えて

小笠原 聡

2年間味わった異国での生活から帰国して早くも半年以上の月日が経過してしまいました。帰国後、かの地での楽しかった日々をじっくりと反芻する事もせずただ時間をやり過ごしていた私にとって今回の三陸を襲った大地震津波はとてつもない衝撃であり、輝いていた思い出なぞ一時的に何処かに吹っ飛んでしまいました。まさか帰国して一年もたたないうちに自分の人生を揺るがしうような事態が待ち受けているとはこれっぽっちも考えておりませんでした。

とは申しまして、皆様のお陰で行く事ができたアメリカ留学、少しでもその雰囲気味わっていただくためにアルバムのような形式で報告させていただきます。

Xu Lab

留学初年度はカリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 分子生物学部門、Xu Labにて幹細胞の分子生物学について勉強させていただきました。Labのテーマは「StemnessとGenetic stability」であり、与えられた私のテーマは、「幹細胞におけるPARP1とNanogの相互作用の確認」であった。幹細胞は自己複製能、再プログラム化能と多分化能を併せ持つ細胞集団であり、再生医療の切り札と目されている。この幹細胞は、しかし、腫瘍細胞と表裏一体で有るなど安全性の面で不安要素があり、その臨床応用には多くの難題が残されているのが現状です。当Labでは、幹細胞が治療に用いられた際の造腫瘍能を如何に低く抑えるかをテーマとして研究を重ね着実に業績を上げているアクティブなラボです。移植したカン細胞が一つ間違えるとガン細胞という、シャレにもならない事態をさける為に、相互に支えあう「幹細胞性を維持する因子」と「遺伝子異常を修復する因子」のコンビネーションを探し出す必要が有るという考えから、Nanog (=幹細胞性維持因子) とPARP-1

(=遺伝子修復因子) の相互作用の確認、が選ばれた (と考えてます)。最終的に、幹細胞に自己複製能をもたらすNanogはPARP以外の因子によって維持されていると結論づけ、このラボでの仕事を終えました。



写真1 (お世話になりました)
向かって右から Matteo (マット隊長、私のオーブン、最近別ラボ移籍)、Sharon、俺、Tongbiao (変な親父だが、最近Nature にimportant paper publish! congrats!!)

Reed Lab

次に所属したのは旧称「バーナム研究所」、「サンフォードーバーナム医学研究所 (Sanford/Burnham Medical Research Inst.)」のReed Labでした。PIは、apoptosis研究で著名なJohn C Reedで、最近の研究内容もapoptosisのみならずER stress, Autophagyといった、時流に乗ったものを行っています。ラボメンバーは30人程と大きく、多くの製薬会社とのコラボレーションによるprojectが稼働しています。

私の主な研究は「PODs」について、でした。細胞内には、DNA damageに対し癌抑制因子などをリクルートし、G1-arrest後のDNA修復あるいはアポトーシスを効率よく行い癌化を防いでいる核内ドメインが存在する事がわかっています。私はJohnより、癌抑制遺伝子PMLを中心とする核内ドメイン、PML-oncogenic domains (PODs) はこの核内ドメイン複合体の一つでDNA損傷の際に核内に形成されることを利用した新規DNA障害型薬剤探索コンパウンドスクリーニング、そのプロジェクトのためのシステム作りおよび予備実験を行う役目を仰せ使いました。この仕事は大規模で期間内に終わるはずもなく、現在も後任者によって進められています。



向かって右から Jimbo (Pos-doc from china, とても良い青年)、私、Dr. Shun-ichi Kitada (京大内科出身、渡米して20年)、Dr Shu-ichi Matsuzawa & Yasuko Matsuzawa (ご夫婦でReedラボの屋台骨。このお二人がいらっしゃらなければ今の私はなかったです。心より感謝!)



SBMRI Build5 私の職場



PIでありCEOのJohn かなり緊張の私



REED Lab Retreat(朝から会議室で自分の研究成果を発表、ディスカッション、夕方からDel Mar Beachでリフレッシュ! オマールやらステーキやらで家族も大喜び)



サンディエゴについて

サンディエゴについては毎回留学便りにて書かせて戴いた通りですが、太平洋側最大の軍港や空軍飛行場をもつ、“軍の街”であり、バイオ、製薬、医療機器関連の企業がクラス

ターを形成する”ハイテックの街“でもあり、はたまた、MLBのパドレスPadres、NFLのチャージャーズChargersのhometownとしても有名な都市です。そして風光明媚なLa Jollaを中心に水陸のスポーツ施設、子供だけでなく大人も楽しいレジャー施設、トーレパインゴルフ場、水族館から自然を散策するトレイルやキャンプ場など楽しめる場所が多く、”全米で最も住みたいエリア“としてすごく人気が高いところです。そんな街でどのような日常を送っていたのか少し写真で明らかにしたいと思います。



渡米したからには、thanks givingで七面鳥を焼く!の図



いとこが来米。朝からBBQ & Wine!



友人家族とキャンプ!やっぱワイン!



「異邦人〜」の久保田早紀さんご夫婦と。



みんな大好き、In-N-Out Burger!



今日はコストコ (Costco) で買い出しだ!



Catch the Whale!



お世話になったご家族とBeachでBBQ & Wine



Catch the Wave!?



家の側でも十分ピクニックエリア

最後は念願のキャンピングカー (Motorhome) で行くYellow Stone, Grand Tetonの旅です。距離にしてほぼ日本列島一往復!すごかった!



レジャーの写真ばかり多く遊んでばかりと思われたかもしれませんが、なにぶんworkしている最中は写真撮る訳にもいかずこのような構成となりましたことをお詫び申し上げます。そして、なにより留学をさせていただき心より感謝しております。今後如何なる人生を歩もうとも決して忘れる事のできない経験であったと思います。

くどいようですが、この稿を終えるにあたり留学を許可してくださった若林先生はじめ医局の先生方、特に一人で甲状腺グループを支えていた冨澤先生には心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

そして、留学する事を迷っている若い先生方には次の言葉を贈ります。

この道を行けばどうなるものか
危ぶむなかれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば
その一足が道となり
その一足が道となる
迷わず行けよ
行けばわかるさ

(by アンтониオ猪木)

最後に、今回の震災でお亡くなりになられた方にはこの場をお借りし哀悼の意を表しまして筆を置きたいと思います。

第4回「乳癌の臨床」 優秀賞を受賞して

柏葉 匡寛

この度は期せずして私の論文「原発乳癌におけるHER2/neu細胞外ドメイン測定の実用性－新規測定系ケミルミCentaur-HER2/neuでの日本人での検証－」に対し栄誉ある賞を頂きましたことを報告させていただきます。この研究は現シーメンスメディカルソリューションズ社と共に日本でのHER2の可溶性抗原（HER2-ECD）のキットのvalidationを目標に、40名の原発乳癌患者さんの術前血清を用いたHER2-ECDの変動と臨床病理学的因子との相関を検証したものです。海外では既にTrastuzumabやLapatinibといった抗HER2分子標的療法の効果予測因子として検証されていますが、日本では検査の紹介を含め初めての結果でした。非常に高価である分子標的療法剤は今後の薬剤が1番効果的か？を模索する時代から誰にどの薬剤が有効か？をバイオマーカーを用いて検証する時代に移行すると予測されますが、その様な流れの中で地道な研究が評価されたのではないかと思います。しかしこの論文は術前採血を含むバイオバンクの重要性を説かれた滝



山郁雄先生、早川善郎両先生の先見の明無くしてはあり得ませんでしたし、また術前の多忙のなか採血して下さった病棟看護師さん、稲葉亨先生の貢献なくしては日の目を見ませんでした。惜しむらくは何故英語で書かなかったかと反省していますが、学会発表＜日本語論文＜英語論文の重要性のヒエラルキーと、海外のエビデンスに恐れをなさずに臨床研究を続ける決意を再認識する良い機会となりました。ご指導賜りました若林教授をはじめ皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

第10回インテリジェント コスモス奨励賞

西塚 哲

このたび財団法人、インテリジェント・コスモス学術科学振興財団より栄誉ある賞をいただきました。同財団は、半導体レーザーの発明で有名な元東北大学総長・岩手県立大学学長の西澤潤一先生が理事長を務める「東北インテリジェント・コスモス学術機構」を出発点としており（ホームページ

より抜粋）、受賞者は東北地区の大学・研究所に属する各分野新進気鋭の若手研究者が名を連ねています。研究テーマ名は「抗癌剤治療後の再発機序に関わる基礎的検討」で、根治的手術後や化学・放射線療法奏効例での癌再発に関わるメカニズムを明らかにしようというものです。本研究では癌細胞に緑色蛍光蛋白（GFP）をコードする遺伝子を導入し、治療抵抗性の癌細胞がどのように癌の増殖に関与するかを追跡します。この研究により、再発癌治療に対する理論的基盤構築の一助となることが期待されます。

主陵会学術賞を受賞して

馬場 誠朗

2010年主陵会学術振興会の学術賞を受賞させていただき、大変光栄に思っています。会長の石川先生、そして選考委員会の先生方に深く感謝いたします。

受賞となりました論文Assessment of gastric motor function by cine magnetic resonance imaging (J Gastroenterol Hepatol. 2009 Aug;24(8):1401-6.) は、放射線被曝がない非侵襲的なcine MRIを使用して、胃運動機能が客観的に評価できるかを検討したものであります。健常人25名を対象とし、造影剤未使用下でMRIによる胃運動の評価に最適な試験食について予備的検討を行い、試験食としてゼリー 360mlが最適であることが明らかになりました。そして、胃内容積、蠕動波高 (d) と移動距離 (X) を計測し、蠕動速度 ($V=X/\text{time}$) およびgastric motility index ($GMI=V \times d$) を算出することで、胃運動の評価を行いました。また、消化管機能改善薬の効果の検討と、術後状態の評価の検討として幽門保存胃切除術 (PPG) 症例に対しても同様の検査を施行しました。消化管機能改善薬投与による検討で、投与後の振幅と速

度、GMIが投与前に比較して有意に高値であり、胃内容積は投与前に比較して有意に減少することが証明されました。術後状態の評価の検討では、食後消化器症状を有したPPG症例では、残存幽門洞から吻合部に向かう逆蠕動様の収縮波と試験食の逆流が認められ、胃内容積は試験食の残存

が多い傾向を認めました。cine MRIでは直視下に健常人と胃切除後の胃蠕動運動は観察可能であり、胃運動は定量化でき、客観的評価は可能と考えられ今後の胃運動機能の新たな評価方法となり得と考えられます。

最後に、直接論文を指導して頂きました外科学講座の佐々木章准教授、Cine-MRIの技術的な撮影法等の技術的指導を頂きました中嶋潤助教と肥田圭介講師、放射線科の技師の皆様、そして若林剛教授に深く感謝いたします。



八重樫雄一先生を悼んで

八重樫雄一先生と三陸外科懇話会

県立大船渡病院長 八島 良幸

八重樫雄一先生は昭和48年4月医局を勇退なされ、宮古病院外科に赴任いたしました。宮古病院外科は東北大学の富田外科長を最後に、岩手医大第一外科の関連施設に切り替わったためであり、その先兵隊長としての医局派遣でした。医局からは宮古出身の野田芳信先生（故）が常勤医で加わりました。他の当時のメンバーは東北大学卒研修医（近江先生、宮崎先生、昭和49年より景山先生）そして一外科からのトランク医2名でありました。

私が始めて宮古病院に勤務したのは昭和49年のトランクで、卒後3年目の私と、卒後1年目の渡辺正敏先生とペアで出張となりました。社会人にもなりきれない若い医師が多く、八重樫先生のご苦勞は大変なものであったろうと思います。「遅刻をするな」、「土足をするな」など社会人としての規律を厳しく教えられたほか、いまではあたりまえですが、「当直時の救急患者は断るな」など医師として守らなければならないこともたくさん教えられました。昭和50年8月野田芳信先生（故）にかわって、医局から日下純男先生が赴任し宮古病院は強力な体制となりました。また、昭和50年12月より岩手医大の第三外科（新津外科）からの派遣が始まりました。これは一般外科の修練のためで、医局員ほとんど全員が宮古病院外科に交代でまいりました。そして昭和51年には私が常勤医で赴任し、八重樫、日下、八島の長期のラインが築かれました。また昭和51年には山田病院に奈良坂重樹先生（故）が赴任、昭和53年には自治医大1期生の遠藤秀彦先生が宮古病院外科の初期研修医として来ました。その後も、自治医大からはとぎれることなく、伊藤達朗先生、吉田徹先生、坂下伸夫先生と一外科入局し宮古病院外科の一員となりました。八重樫先生は宮古病院に10年在任し、その10周年の記念誌を発刊し、祝賀パーティーを開催しております。

さて、三陸外科懇話会は第1回会合が昭和48年8月宮古で開催されました。八重樫先生が中心となり、当時の釜石病院高橋俊一院長（故）、大槌病院の盛合薫夫院長（故）堀井賢司先生（後の大槌病院長：故）などを中心メンバーとし、会の名称、運営方針、会費などが決められました。そして、

宮古病院、釜石病院、大槌病院、山田病院のもちまわりで3か月毎の開催が決められました。八重樫先生の考えた会の趣旨は、肩苦しい学会形式でなく、ふだん発表のできない、失敗例や、診断治療に困っているものも含めて気楽に討議を行い、そしてみんなの懇親をはかることであります。

第2回の三陸外科懇話会は昭和48年12月13日、釜石病院で行われ、このときより、演題の発表がおこなわれています。ちなみに、この記念すべき演題発表者の第1号は釜石病院外科の杓沢弘先生（故）の食道憩室の一手術治療例でありました。

さて、三陸外科懇話会の参加者は、三陸の一外科同門ならびに消化器内科の先生方、一外科のトランク医局員、三外科の医局員、自治医大卒、そして東北大学卒と多岐にわたり、三陸外科懇話会をとおしてたくさんの方の人間関係が生まれました。特に、岩手医大一外科新入医局員はほぼ全員宮古病院での研修を受け、医師としての心構え、手術の技術、酒の飲み方など八重樫先生の薫陶をうけました。また、三陸外科懇話会をとおして、若い一外科医局員が、開業している同門の小泉嘉明先生や佐々木伸也先生らと懇親を深めることができました。

これまで三陸外科懇話会は3冊の発表演題集がまとめられております

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 第1集演題集 | 昭和63年発行 | 第1-36回 |
| | 演題数183題 | 参加者数671名 |
| 第2集演題集 | 平成6年発行 | 第37-55回 |
| | 演題数115題 | 参加者数495名 |
| 第3集演題集 | 平成19年発行 | 第56-80回 |
| | 演題数111題 | 参加者数516名 |

現在でも三陸外科懇話会は続いており、寄稿時現在では、宮古病院で開催された平成22年第85回が最後であり、宮古開業の佐藤（雅）先生、豊島先生らも参加し懇親を深めました。

三陸外科懇話会の歴史を紐解くと、多くの一外科の先輩が故人になっていることにあらためて気づくとともに、これら先輩方の在りし日の笑顔を思い出すと、胸が締め付けられます。特に八重樫先生との思い出はあまりにも多く、宮古病院時代に盛岡までの鈍行列車のなか向かい合って荒巻の箱の上で花札をしたり、奥様としめしあわせて先生の服を上から下

までそろえに宮古の洋服店にいたり、カラオケがない時代
飲み屋の有線放送で歌の練習をしたり……。そして
私が釜石病院長だった平成7年、奥様から、先生が酒を飲ま
なくなった、こんなことはかつてなく、どこかが悪いと思わ
れるので釜石病院で検査してほしいとお話がありました。
釜石病院の検査でグラビッツ腫瘍が見つかり、医大泌尿
器科で当時助教授だった藤岡先生の執刀で腎臓摘出手術をう
けました。そしてその5年後には肺転移で肺切除を受けまし
た。執刀したのが、かつて三外科から宮古病院外科に勉強に
きていた、菰田研二先生であったこともなにかの縁だったの
だろうと思います。相当厳しい病状でしたが、これらのこと
をすべて克服し、八重樫先生は不死身だと周囲を驚かせまし
た。そしてその後、親交のあった釜石ロータリーの玉木弘さ
んとの関連もあり、釜石で、古希の祝い会、喜寿の祝い会、
そして傘寿の祝い会を重ねました。

肺切除をしてから10年後の平成22年7月末、八重樫先生が

ら、また肺になにかができたので手術をするとの電話をいた
だきました。平成22年8月9日岩手医大呼吸器外科で手術を施
行し、新たなる進行性の肺がんであることがわかりました。
しかし術後状態が思わしくなく、術直後より亡くなられるま
での5か月弱、重症室での人工呼吸器管理となりました。奥
様のご心労は言葉に表せず、息子さんたちからは毎日のよう
にメールでの連絡を受け、ご家族とともに一喜一憂いたしま
した。藁にもすがりたい心境のなか、病室に何度も顔を出し
ていただいた若林教授に、ご家族はとても感謝しておいまし
た。しかし治療の甲斐なく平成22年12月29日82歳の生涯を
閉じられました。岩手医大付属病院からご自宅に戻るときに
は、院内放送があり、たくさんの外科学教室員のお見送りを
受けました。さぞかし、八重樫先生は嬉しかったのではない
かと思います。先生のご冥福を心よりお祈りするとともに、
先生の教えを受けたものを代表し、先生のこれまでのご功績
を称え、ご厚情に深く感謝し、拙文を閉じさせていただきます。



宮古病院手術場スタッフ



宮古病院10年誌刊行記念パーティー



三陸外科懇話会演題集



平成元年 釜石病院長時代の八重樫先生
根浜海岸サンドフェスティバル



平成17年6月八重樫先生喜寿小泉先生還暦（釜石：幸楼）

癌登録事業における八重樫雄一先生のご功績の一端

内丸病院院長 日下 純男

教室年報より平成22年12月29日死去された同門の大先輩八重樫雄一先生の癌登録事業上の功績についての寄稿依頼がありました。平成2年1月1日より実施されている岩手県地域がん登録事業における八重樫先生の業績につきましては、事業発足以来がん登録運営委員長としてご活躍され、既に皆様ご存知のところであります。ここでは、それ以前の八重樫先生の院内がん登録での業績について述べます。

私は、先生から県立宮古病院で昭和50年（1975）から57年（1982）まで外科臨床のみならず、医師としての社会生活一般の指導も頂きました。昭和54年頃だったと思いますが、外科外来で「院内癌登録を始めた」と話され、院長・副院長のミーティングでの決定事項の形で時を置かず、昭和55年（1980）1月1日から県立宮古病院で「院内MN登録票」による悪性腫瘍登録が始まりました。この事は平成22年（2010）9月5日付け岩手日報「世界は今 県人レポート 95」に、松坂方士さん（弘前大学医学部卒、現在ロンドン大学キングスカレッジ医学部客員研究員として留学、がん登録のシステム論を研究中との事です。）が「かつて勤務した県立宮古病院では1980年から がん登録が開始された。日本ではかなり早い時期の開始で、全国に誇れるデータの蓄積だ。勤務していた時には気にしていなかったが、今では がん登録に不思議な縁を感じている。」と述べ、高く評価しています。登録事業は、昭和55年2月18日71才の胃がん患者の登録を第1号として、平成22年（2010）12月31日までの31年間で、10,318例を集積しているとの事です。31年間の長さを感じるの、登録例数の多さだけではなく、登録票の名称にもあります。当時は、患者さんに「癌」と病名を告知する事は避けて、最後まで悪性疾患の病名は伏せるという時代でした。「MN登録票」の名称にも八重樫先生の苦勞が思われます。この登録票は、現在の県地域がん登録票の原型とも考えられますので、歴史の振り返りとして、記載項目を列記します。1) 登録番号 2) 登録年月日 3) 患者氏名 4) 外来患者カルテ番号 5) 生年月日 6) 入院患者退院番号 7) 現住所 8) 本籍 9) 診断名 10) 紹介医 11) 初診月日 12) 入院月日 13) 転科々名 14) 転科年月日 15) 退院年月日 16) 死亡年月日 17) 追跡調査年月日・調査内容 であります。

同年8月5日の第15回三陸外科懇話会で、先生は「当院における院内悪性新生物登録について」と題して発表し、参加した県立釜石、大槌、山田、千厩病院の先生達に、院内MN登

録の機運が生まれたと思われます。なお、三陸外科懇話会も先生が昭和48年（1973）宮古病院に赴任し同年8月、当時、県立釜石病院長高橋俊一、県立大槌院長盛合薫夫、副院長堀井賢司先生と語り合い設立し、平成23年3月4日現在第86回を数えるまで開催されております。先生は平成7年3月県立病院定年退職後も、本懇話会の名誉会員として毎回参加され、「地域がん登録」に関する報告、話題を提供し、後輩外科医の教育をして下さいました。県立宮古病院の「院内MN登録」を根付かせて、八重樫先生は昭和58年4月県立釜石病院長に赴任、釜石病院で院内MN登録を更に進展させ、記入項目は26項目に増えて行きます。そして、岩手県の委託を受け、県医師会三大成人病登録調査委員会委員長として、昭和63年（1988）～平成1年（1989）の調査期間をおき、岩手県地域がん登録実施調査報告書をまとめ上げられ、引き続き岩手県地域がん登録運営委員長として、平成2年（1990）1月1日より岩手県地域癌登録を実施・運営されました。

先生は、平成2年4月県立大船渡病院長として転任、同院でも「院内がん登録」を開始され、平成7年（1995）3月に定年退職され、以後県立病院名誉院長として、県立大船渡病院、釜石病院の発展に寄与されました。また、地域がん登録委員長として、平成16年（2004）第66回日本臨床外科学会（総会長 斎藤和好教授）において、シンポジウムNo.8「がん検診の有用性」において「地域がん登録よりみたがん検診の効果」を口演し全国に向け岩手県地域がん登録の成果を発信しております。このように長期間にわたり、責任を持って運営に当たられたからこそ現在のような他県に誇りうる地域がん登録体制が出来たと思います。平成2年当初の「岩手県医師会 悪性新生物患者届出票」は記入項目26項目でしたが、開始以来数回の項目改正・追加を行い、作業能率・正確性の向上につとめ、平成18年（2006）以来、現在の31項目からなる「届出票」になっています。ここに至るまでには、県内病院では、最多の癌患者を治療する、岩手医大付属病院、県立中央病院の院内癌登録と県地域がん登録との記入項目の共通化が大切と考えられた八重樫先生は大変苦勞されておりました。平成18年がん対策基本法制定以来、平成19年以降、がん診療連携拠点病院が県内に9病院となり、届け出登録票が増加するにつれて、届け出病院、受け手県癌登録室の仕事量も増えて、登録作業のIT化が必要と考えられておられた矢先の死去で、岩手県地域がん登録の発展の為に大きな指導者を失い大変残念な事でした。

八重樫先生のご冥福をお祈り致します。

2011年2月28日 1\$ ¥81.67～68 1Euro ¥112.40～44



関連病院懇話会 (2010.1.9)

関連病院の多くの先生方にお集まり頂き、貴重なご意見を頂きました。



若林 剛教授による年頭所感



水野 大准教授



肥田圭介講師



西塚 哲講師



佐々木 章准教授



盛岡市立病院
須藤隆之先生



岩手県立久慈病院
阿部 正院長

新年会

引き続き行われた新年会では、
小川 彰学長から新年のご挨拶を頂戴しました。



岩手県立千厩病院
坂下伸夫副院長と新田講師



「なかなか難しいよね…」
池田健一郎先生



小川 彰学長



齋藤和好名誉教授
による乾杯の御発声

ASCO-GI (2010.1.22-24)

OrlandoでASCO-GIが開催されました。当教室からは4題の演題を発表しました。



発表無事終了！何とか乗り切りました！



全員集合！



ASCO-GIの参加の後、高橋正浩先生の
留学先である、マイアミ大学の先生方と。

みちのくウィンターセミナー (2010.1.30-31)

今年も、全国からご高名な先生方をお招きして、貴重なご講演を頂きました。



東京大学 瀬戸泰之教授より「これからの食道癌治療」と題して、ご講演を頂きました。



東京医科歯科大学 小嶋一幸先生より「腹腔鏡下胃切除の現況と展望」と題して、ご講演を頂きました。



名古屋大学 竹田伸先生より「膀胱癌に対する拡大手術と補助化学療法」と題して、ご講演を頂きました。



埼玉医科大学 小山勇教授より「肝切除における出血量削減の戦略」と題して、ご講演を頂きました。



みちのくウィンターセミナー・懇親会 (2010.1.30)



若林 剛教授



齋藤和好先生



森 昌造先生



学んで、飲んで、滑って・・・また来年もお待ちしています！



船曳 孝彦先生



竜 崇正先生



松野正紀先生



北川雄光教授



丸山圭一先生



ご高名な先生方から貴重なお話を沢山お伺いできました。



川原英之先生



尾形佳郎先生



中村隆司先生

5

May

第4回Early Exposure Seminar (2010.5.10)

京都府立医科大学 大辻栄吾教授、大阪市立大学 大杉治司教授をお招きして、学生に向けたご講演を頂きました。



多くの方にお越しいただきました。



学生への糸結び実習。大杉先生自らご指導頂きました。



「上手ですよ」 佐々木 章准教授の優しいまなざし。



女子学生に優しい柏葉匡寛講師
「乳腺に興味ない？」



「天才なんじゃない？」指導上手の野田芳範助教。外科医ひとりゲットなるか？



「外科に入ってみない？」直接交渉中！

第13回岩手内視鏡外科研究会 (2010.5.22)

ご講演頂いた、杏林大学 森 俊幸教授と、若草第一病院 山中英治先生。森先生からは「単孔式腹腔鏡手術」について、山中先生からは「内視鏡外科周術期管理のクリニカルパスと連携」についてお話を頂きました。



7 July

北上川ゴムボート川下り (2010.7.25)

外科学講座恒例の北上川ゴムボート川下り大会！みんな無事で何より。



トリヤー！・・・って
ちょっとずれてるよ。



ああ楽しかったネ！ご苦労様でした。



食道グループ発進！



大塚先生夫妻チーム



台湾から来られた林夫妻を囲んで。楽しんで頂けましたか？



センパイ浮き輪入れてま
すよね？え？入ってない？



お父さん、風船みたい
だーい好き！



「おいしいよ。ホラ食べてごらん」
「いやア、ケーキがおいしいのオ・・・」



「超楽しかったア !!」

医師会野球大会 (2010.8.22)



なんか“持ってそう”な
背中！結果は？



打てなかったけど、参加す
ることが大事なんだよな！



いやあ、いい汗かきました！ご苦労様！

8 August

10
October

35th ESMO 2010 Congress, Milan, Italy (2010.10.8-12)



若林教授と、同行した川岸涼子先生と武田大樹先生

35th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologist (IASGO) 2010 Congress, Cairo, Egypt (2010.10.20-23)



第3回東北ヘルニア研究会 (2010.11.27)

11
November



特別講演を頂いた、みやざき外科・ヘルニアクリニック 宮崎恭介先生



ランチョンセミナーでご講演頂いた、東京慈恵会医科大学 諏訪勝仁先生



大変多くの方にご参加頂き、熱心な質問が多数寄せられました。



ランチョンセミナーの座長を務めて頂いた、盛岡赤十字病院 川村英伸先生



小林めぐみ先生



教室から参加した吉田雅一先生



中嶋 潤先生



懇親会にて。お疲れ様でした。

巖刀会忘年会 (2010.12.4)

12
December



若林 剛教授挨拶



岩手県医師会長 石川育成先生より
ご挨拶を頂きました。



慶応義塾大学から来られた長谷川先生
これからよろしく！



全員集合！今年も一年大変お世話になりました。

医局大忘年会 (2010.12.28)



若い者には負けらんねー！（水野准教授 前列中）
伊藤先生かわいい！（前列右）



若い者には負けられません！
（橋本ICU師長 右から2番目）



イエー！ オタクチーム
（右から新田講師、板橋英教先生、
高原先生、伊藤先生、高橋正治先生、
遠藤先生、留学中の林先生、長谷川先生）

岩手県立二戸病院

Iwate Prefectural Ninohe Hospital

巖刀会の諸先生におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。恒例により当科の一年間を振り返り近況をご報告いたします。

平成22年の診療体制では、4月に長年当地域の医療に貢献された菅原 聡先生が県立宮古病院へ転勤し、新たに佐藤直夫先生を消化器外科長として迎えたのが大きな出来事でした。先生は花巻市出身で横浜船員保険病院から当院への移動となりました。また、先生を迎えたことで、平成23年1月から念願の日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設に認定されました。

そこで現在は、坂本 隆（副院長）、佐藤 一（外科長）、佐藤直夫（消化器外科長）、川崎雄一郎（外科医長）、野田宏信（外科医長）の5名が常勤の外科医となっています。常勤スタッフに加え、昨年と同様、圏域から県立軽米病院の葛西敏史先生（火曜日午後）、県立一戸病院の石川 徹先生（月曜日午後）に定期的手術応援として来ていただいております。また、教室から、柏葉匡寛先生（月曜日乳腺外来）、藤原久貴先生（月曜日外来）、新田浩幸先生（金曜日外来）、に定期的診療応援をいただきました。さらに、腹腔鏡下脾摘出術、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術（SILS）、腹腔鏡下大腸切除術、肝胆脾手術などで、ご専門とされる先生にご指導をいただきました。若林剛教授にも平成22年



6月、大変ご多忙中のところ手術指導にご来院いただきました。

当科からの診療応援としては、一戸病院金曜日外来（坂本）、九戸地域診療センター月曜日・水曜日外来（佐藤 一・佐藤直夫）、軽米病院隔週木曜日外来（坂本）、その他適時軽米病院、一戸病院の手術応援を行っています。

以上の診療体制で、当科では、広い医療圏（二戸市、一戸町、軽米町、九戸村、葛巻町、青森県三戸町、田子町など）から来院する患者に対しては集約化とも言うべき体制で対応し、一方患者・家族が地元での治療を希望する場合には可能な限り答えるというスタンスで、圏域が一体となった診療を行っています。

院内では、DPC病院への移行（6月）、病棟での電子カルテへの移行（6月）が主たる出来事でした。これから低侵襲手術、在宅緩和ケア、外来がん化学療法のニーズがますます高まってくると思われ、対応すべく努力を続けて行きたいと考えています。今後も一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

岩手県立軽米病院

Iwate Prefectural Karumai Hospital

カシオペア圏域は医療の分担化が進み、二戸病院では地域の中核病院として主に癌・脳卒中・心臓疾患などの急性期を、当院は後方病院としてリハビリや介護福祉施設までの連携病院という位置づけとなり、それぞれが生き残るべく健闘しております。

そこで、当院で力を入れているのは、リハビリはもちろん、NST・褥瘡・感染対策・緩和ケアといった分野です。また、介護福祉分野は今まで我々があまり関与しなかったところですが、慢性期を担当するようになってその割合が増えてきています。介護・福祉・障害・生保など各々に法律やシステムがあって、担当が縦割りになっていてどこに相談したらいいのかもわからず、町や県の担当者と折衝す



ることも度々あります。

急性期をとらない場合、慢性期の患者層が中心となり、ともすれば医師・コメディカルスタッフのモチベーションが低下することが懸念されますが、近郊の病院で同じような患者層を取り合う仕組みのままだと、病床稼働率も外来・入院数も稼げません。実際、他の圏域の県立病院ではその迷いがあるためか、どんどん悪循環に陥っている例

を良く聞きます。

また、県立病院では医師以外にも「定数条例」のために圧倒的にマンパワーが足りない部分があり、必要なスタッフを配置できずに加算をとれないところが多くあります。今後は、もっと厳しい改革（集中と分散）が求められてくるものと思います。

医局には第2・3週の土日の応援をいただいております、本当



に感謝に堪えません。応援にいらっしゃる先生方の交通の便や、大学での診療に迷惑のかからないよう、負担を感じないような体制を今後も考えていきたいと思っています。

写真は県立病院対抗野球とお祭り、そして軽米町にドクターヘリが来たときのものです（病院から10分ほどの野球場）。当直医は救急車で良いと言いましたが、「是非ヘリで何う」とのことで、余計に時間がかかりました（笑）。



岩手県立久慈病院

Iwate Prefectural Kuji Hospital

2010年、県立久慈病院の活動報告をします。

スタッフとしては年度初めの4月から人員の交代があり、阿部院長、下沖副院長、遠野外科長、高橋医長、馬場医長の常勤医になりました。また、3ヶ月交代で一人ずつではありましたが、大学院生の2年目研修医、川岸研修医、八重樫研修医、眞壁研修医の3氏が非常に優れた働きをしてくれました。それに加え心臓血管外科/救急医学講座の皆川救命救急科長には血管外科、肺外科を中心に活躍していただいております。

医局からは毎月第1木曜日の小児外科外来に水野大准教授、第3木曜日の乳腺外来に柏葉匡寛講師に外来診療の他手術もご指導をいただいております。手術応援では肥田医局長には高橋医長と久慈病院のLADG立ち上げに御尽力いただきました。また、新田講師、大塚講師には何度もお手伝いいただきました。ハイレベルの手術を間近で見られ大変ありがたいことと感謝しています。

そして今年の特徴は今年度から就任された石川県立中央病院呼吸器外科出身の佐藤日出夫久慈保健所長が診療応援をしてくれたことです。呼吸器外来の応援のほか、院内カンサーボードに参加し、消化器内科から紹介される肺癌等の呼吸器疾患や、縦隔腫瘍などの患者さんを皆川科長とVATSで手術をしてくださいました。外科スタッフも手伝いに入りますが、腹腔鏡手術に応用できそうな手技もあ



り勉強になります。

手術件数は2010年の集計では総数515、全麻338、腹腔鏡下手術が128件（25%）とここ10年でいずれも最多件数でした。手術に関して大変充実した1年でした。

学術的には論文掲載は2件、地方会以上の主要な学会発表は23件、同座長2件でそのうち研修医の発表は7件でした。また、毎月1回の抄読会を始めました。大学院研修医の自分の研究分野の関連した論文の紹介は普段接しない基礎分野でも日常診療に関連していることがよくわかり、大変興味深いものがありました。

来年度は馬場医長、研修医の3氏が医局に戻ります。大変寂しいことで、1年目の大学院研修医松井医師に今後の活躍を期待します。また、進路未定の研修医には外科の楽しさを伝えて何とか仲間になってくれるよう誘いたいと思います。

盛岡赤十字病院

Morioka Japanese Red Cross Hospital

2010年盛岡赤十字病院外科チームを振り返ってみます。
 スタッフは常勤4名（杉村、川村、藤澤、畠山）は変わらず、そこに医局からの派遣医師と時期に応じた初期研修医の4～6名で診療に当たっております。年ははじめには派遣医師、研修医もいない時期がありました。4月になって吉田雅一先生、10月から鶴木和久先生が派遣され、年を越すことができました。このスタッフ数ではなぜ足りないか、それは手術症例数の増加、外来化学療法例数の増加にあります。手術件数は、全手術症例727例（平成21年685例、平成20年648例）、全身麻酔症例661例（同597例、509例）とこの2年間で160例ほどの増加でありました。内視鏡下手術225例（全麻例の34%）、緊急手術134例（同20%）は前年とほぼ同じ割合でした。外来化学療法症例も増え、全180例、1615回の抗癌剤治療が行われ、外科担当症例は132例（73%）、1366回（85%）で、こちらにかかわる負担も年々大きくなってきております。地域連携PEGパスの導入によりPEG症例も17例増加し、74例でした。V-ポート挿入は院内全て外科が担当し66例と前年とほぼ同数でありました。確かに1時間前後で終わる処置（PEG、V-ポートなど）、手術（Lap-C、Kugelなど）が増えてがん関連はほぼ同数から若干の増加程度ですが、それなりに時間と人手が必要なのは確かです。大学と違った意味での忙しさがあると思います。学会活動もないがしろのしているわけではありません。昨年は論文1件、学会研究会発表17件、講演2件、学会



研究会の司会4回でした。市民公開講座につせき健康塾を外科主催で始めて院外でふれあいランドに出向き、スタッフが分担してがんの話をしてきました。

週間予定としては、月曜が医局カンファランス、木曜が内科外科病理薬剤部を含めた術前術後再発症例などの合同カンファランスを朝7:30頃より開催しております。地域連携関連の講演会、勉強会を年数回開催しております。

以上のように、日々の診療に追われる毎日、盛岡に居ながら平日の研究会にはなかなか参加できずしております。土曜日の研究会には可能な限り出席するように心がけております。当院スタッフ4名は皆外科学会専門医であり、内3名は指導医です。若手中堅医の研修病院として医局と交流していければと考えております。

笑いと笑顔をもっとにチームワーク良く、フットワークを軽くして院内を走り回っております。

盛岡友愛病院

Morioka Yuuai Hospital

盛岡友愛病院外科は現在、長澤 茂（院長）、吉田 弘之、西成 尚人、中島 隆之、藤井 祐次、松谷 英樹の計6名で診療を行っております。昨年は春にDPCを導入したため、入退院の流れの調整や、パス・薬剤の変更等々、年明けから振り回されましたが、特に大きなトラブルもなくスムーズに移行することが出来ました。

2010年の総手術件数は前年よりもさらに増加して1699件。うち外科は610件（全麻548件）でしたが、これら外科手術件数の中には、当院で採用しているオープンシステムによる手術が含まれています。当院では平成9年から外科



と整形外科を中心とした病院オープンシステムを導入しました。要するに、われわれが患者さんを預かり、充実した麻酔・手術室・術後管理を紹介医に提供して入院・手術を

アシストするわけですが、患者さんの立場で考えても、初診から関わっている開業医師が信頼できる施設を利用して自ら手術を行い、退院後のfollow upまで一貫した医療を提供するシステムは、患者さんの治療に対する安心感を増すだけでなく、紹介医のモチベーションを高め、患者さんと医療者の良好な人間関係を築くためにも重要で、実際多くのメリットがあると感じています。外科では昨年、『いしだ外科胃腸科クリニック』、『プレスト齊藤外科クリニック』、『たにむらクリニック』でシステムを利用していました。当院でシステムを利用した外科の手術件数は年間約100例を超え、外科と整形外科を合わせると年間約200例になります。医師数の減少甚だしい岩手県では、まだ

まだメスを揮っていただかなくてはならない外科系開業医も多いと感じています。これからも微力ながら、お手伝いできれば幸いです。

増加する手術件数はもちろんのこと、人工透析室や一部老朽化した病棟の環境を改善する目的で、現在当院では、手術室・透析室を含めた病棟の建て替えを検討しています。限られた敷地内での大規模な建て替えは、かなりの時間とエネルギーが必要になると思われます。加えて今年は病院機能評価の更新が11月にあるためこれに向けて忙しくなりますが、職員一丸となって取り組むことでこれまで以上に協調性が増し、それぞれの和が深まることを期待したいと思います。

盛岡市立病院

Morioka Municipal Hospital

当院は、常勤1名と岩手医大外科医局派遣医師2名の計3名で診療を行っております。平成21年度は、野田宏伸先生、平成22年度は、藤田倫寛先生、武田大樹先生を医局より派遣いただきました。当院の恒例行事となりました第3回キッズセミナーも無事若林先生をお迎えして開催することが出来ました。これからも続けていきたいと思っております。横浜で行われた第23回日本内視鏡外科学会では、野田



先生に当院の症例を口演して頂き、夜には歴代市立病院のOBの先生達（2代目大淵徹先生、3代目千葉丈広先生、4代目野田宏伸先生、5代目藤田倫寛先生）と中華料理を肴に懇親会が出来ました。今後も当院の症例で若い先生に学会発表頂きその後に懇親会を開催出来たらと思って



おります。平成23年2月には、藤田先生に第一子の女の子が誕生しました。また、当院の症例を用いて千葉丈広先生、藤田先生に日本内視鏡外科学会の技術認定試験を受けて頂きました。結果は、未着ですが、吉報を信じております。今後も当院で腹腔鏡下手術を数多く経験頂き、多くの先生方に技術認定医試験を受験して頂ければと思っております。武田先生は、初胃全摘、初低位前方切除、初TANKO LAC、初PPPD等経験頂き、いずれも完遂出来ました。今後の成長が非常に楽しみな逸材です。先日仙台にて腹腔鏡下ヘルニアセミナーが開催され、最近当院で標準術式としているSILS TAPPについて3人で学び、その後牛タン、盛岡に帰ってきて焼き肉を楽しみました。当院は、中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院として使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、必ず引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

岩手県立釜石病院

Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

平成22年度の釜石病院外科は、遠藤秀彦院長（S53卒）を筆頭に、吉田徹（S59卒）、小原眞（H5卒）、石黒保直（H12卒）の常勤4名に加えて岩手医大で研修を終えた藤井仁志先生を迎え、木曜日には板橋英教先生の応援をいただきスタートしました。三陸沿岸地域の医者不足は依然変わりません。今年も大槌病院の外来応援2回／週、当直応援2回／月は継続して行いました。岩手医大からの派遣がなくなった消化器内科の常勤医を自治医大大宮医療センターより1人迎えましたが、大切な消化器内科医が疲弊しないようにと、外科のメンバーで消化器内科患者の外来および入院患者の診療カバーを行っております。消化器外科にとって消化器内科医の存在は不可欠であり、早急な大学からの派遣復帰が望まれるところであります。

こうした厳しい状況の中で、平成22年の手術件数は、総手術数553件、全身麻酔が351件と過去最高であった昨年の件数をさらに上回りました。医局の先生方のご指導により、腹腔鏡手術の件数も次第に増加しておりますが、特に今年はSILS手術の指導を受け、「単孔式と多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の前向きランダム化臨床試験」の万国外科学会での発表権利を頂きました。

今年は3月に病院機能評価version6を受審、4月からDPC導入と、慌ただしい年になりましたが、手術件数の増加と外来化学療法の件数の増加で外科の売り上げは右肩上がり



となっております。

今年から当院で開設された総合診療科の所属医師の一人である伊藤千絵先生が、外科を専攻する希望を持っていただき、現在入局の準備中であります。

月1回の抄読会も継続して行い、最新の知見をスタッフ全員で取得するとともに、当院に還元できる事はないかを検証し時流に遅れない診療を心がけております。

また地域再生基金25億円の獲得により、待望の放射線治療が平成24年度より開始できる見込みとなり、設計および開設準備が着々と進んでおります。病院全体としても少数精鋭部隊の日夜の奮闘の成果で平成12年度から連続10年の黒字経営となり、「自治対立優良病院総務大臣表彰」を受けました（全国で4病院）。今後も医局の先生方のご指導を仰ぎながら更なるレベルアップを目指して頑張りたいと思っております。

岩手県立大船渡病院

Iwate Prefectural Ofunato Hospital

内陸では、大雪で交通が麻痺したり、除雪に多くの労力を要した今年の冬も、沿岸南部の大船渡の気候は温暖で、全く除雪の必要はありませんでした。

病院としては、今年で開設13年目となる救命救急センターを併設しておりますが、現救命救急センター長の盛直久副院長が、平成23年3月で退職され、3名いた麻酔科の常勤医の撤退が決定してしまいました。予定手術の麻酔は応援医師の協力を頂ける可能性はありますが、臨時手術や土日は、自家麻酔となり負担が増えることが予想されます。また、延び延びになっていた電子カルテの導入が、いよいよ平成24年に決定し、その準備にかかっております



が、二戸病院や胆沢病院で導入した電子カルテの状況を聞くと導入後の混乱や診療時間の延長が懸念され対策に頭を悩ませております。電子カルテを導入済みの各施設の先生

からご助言頂ければ幸いです。

外科スタッフは、八島良幸院長、藤社 勉消化器外科長、村上（緩和医療科長：現在緩和ケアチーム専従）（以上、岩手医大外科）の他、東北大学第二外科の小山田 尚第一外科長（移植班）、玉手 義久第二外科長（血管班）、上村 卓詞救急医療科長（食道班）、三浦禎司第二外科医長（食道班）、尾崎 雄飛医長、後期研修医の横澤友樹医師でしたが、尾崎 雄飛医長は、平成23年3月で退職予定です。

平成22年の手術件数は、若干減少しましたが、肝胆膵系の手術、血管系の手術が多いことが特徴と思われます。

北上済生会病院

Kitakami Saiseikai Hospital

□平成22年の出来事

- 須原医師：8月で退職し沢内病院へ異動
- 米山医師：県立中部病院緩和ケア科にて週一回の研修
- 青木：NST設立、活動
- その他：院内の取り組みとして、医療クラーク部門の設立により医師の負担軽減を図り、限りある医療資源の集中化を図っています

□業績

- 手術
 - ◇ 全麻件数 106例、全手術件数 207例と昨年より増加
- 学会発表
 - ◇ 青木：日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、全国済生会学会にて発表

□臨床研修医の研修状況

- H22年は2名の外科研修を受入れ、各々3ヶ月間一般外科、救急領域の指導を行ってきました。残念ながらH23年度の臨床研修医はマッチングがなく、今後のリクルートが課題です。

教室からは、肥田圭介医局長に腹腔鏡下胃切除術のご指導をいただき感謝しております。また、岩手緩和ケアテレビカンファレンス、緩和ケア医師研修会では、木村祐輔講師に多大なるご指導、ご助力をいただき感謝しております。当地域から治療のため岩手医大外科に入院または通院しておられる患者さんがおられましたなら、当院でのfollow up、転院等に関して、可及的迅速に対処したいと思っています。

臨床試験等なかなか十分な協力ができず、心苦しく思っておりますが、続けて、ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



□今後の課題

- 2011年秋のオーダリングシステム導入に向け、クリニカルパスを中心とした診療内容のbundle化を推進することにより、安定した医療サービスを提供する
- 医療の効率化と心のこもった医療の提供の両立
- 鏡視下手術の増加
- 北上市は地理的に交通の拠点となっており、大学からのアクセスもよいため、今後は今まで以上に同門の先生方とのコミュニケーションを深め、地域医療の更なるレベル向上に努めたいと考えています。

岩手県立江刺病院

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県奥州市の北東部にあたる江刺（えさし）はアイヌ語で「境界」を意味し、はるか平安時代には蝦夷（えみし）の地の南の最前線でした。蝦夷の安倍貞任は朝廷からの独立を目指し、源頼義率いる朝廷軍に前九年の合戦で激突しました。そして約1000年経った今、岩手県立江刺病院は、岩手医科大学外科学講座の南の「境界」の関連病院です。

江刺は、肥沃な北上平野の穀倉地帯で、ブランド米の「江刺金札米」や平成22年には1個36,000円の高値だった「江刺りんご」を売り出すなど、商人氣質のある伝統の町です。また江刺は、奥州藤原三代の祖、藤原清衡の生誕の地であることから「えさし藤原の郷」を立ち上げました。大河ドラマのロケ地としての地位を確立し、平成22年の龍馬伝では福山雅治が来訪しています。

平成22年の江刺病院の出来事としては、川村副院長兼外科長に、4月から私（塩井、平成13年卒）が増員され、二人三脚でがんばっています。バランス麻酔、手術、外来診療、化学療法、緩和医療、介護までの一連のシーケンスを責任をもって行うことで、外科に限らず一医師として総合的なスキルアップをさせていただいております。全身麻酔の手術件数も昨年の1.3倍に増加し、症例にも恵まれております。副院長である川村先生は、来年の病院機能評価を控えてその準備にも忙しくしています。平成22年3月に



当院の整形外科が不在となったことから外科医師で整形外科外来および病棟をカバーし、また在宅を希望の患者さんには積極的に訪問診療を行っております。病院医局内の連携もよく、可能な限り断らない救急診療を目指し、救急車受け入れ台数も年々増加しています。

月曜日には肥田講師（岩手医科大学）に外来を、火曜日には隔週で松尾先生に外来を、水曜日には岩手医科大学病理学講座の大学院生の菅野先生に外来・手術・当直を、平日当直を菊池先生（まごころ病院）に応援いただいております。肝切除については岩手医科大学新田講師に応援いただきました。（文責：塩井）

写真は、川村先生の50歳（知命）の誕生日です。「五十にして天命を知る」です。

函館五稜郭病院

Hakodate Goryoukaku Hospital

“Life（人生）、その中に大きなif（もし）あり”（巖谷大四、『おにやらい』）。また、英語の「ライフ」には、「人生」のほかに、「命」や「生活」という意味もある。

我々の職業は、人生・命・生活を左右する出来事が、常に身の回りに存在する。医療事故や不慮の患者の急変、はたまた急な転勤・人事異動など……。常に、if（もしも）、ということを考えておかねばならない。

幸いなことに？平成22年度 函館五稜郭病院外科では、大きな事故もなかったことに、ホッとしている。手術症例は、総手術件数1372件、全身麻酔下手術1015件と、徐々にではあるが増え続けている。腹腔鏡手術も、胃・大腸・肝臓・胆嚢・虫垂etc 443件と多く、特に、腹腔鏡下大腸手術は、



東北・北海道地区では、岩手医大外科に次いで2番目の症例数（128件）であった。また、船渡先生を中心に、単孔式手術（胆嚢・大腸・虫垂・GIST・卵巣）も導入し、整容性の高い手術を目指している。治療に関しても、JCOG（胃癌）の臨床試験を中心に、現在、29件の臨床試験に参

加し、治療を行っている。

スタッフは、高金明典診療部長、小林 慎科長以下、外科医6名の計8名の体制で行っている。“えっ？8名も外科医がいるの？”と、よく言われるが、慌ただしい毎日、手術・日常診療には、研修医の助けが必要となっているのが現状である。しかし、各疾患毎に担当者を決め、手術や治療方針のスタンダード化が軌道に乗ってきたと思われる。スタッフも、皆、頼もしい人たちである。今後も、この体制を崩さず、がん拠点病院としての役割を果たしていきたいと考えている。

山本組合総合病院

Yamamoto Associated General Hospital

平成22年度の当院の外科スタッフは大山健一、飯島信（鹿角組合病院より）、鷗木和久（当院研修医より）の3名体制で9月まで診療を行いました。当初は10月から鷗木が大学へ戻ると2名体制になる予定でしたが、若林教授のご厚意武田雄一郎（大学より）がスタッフに加わることになり、現在常勤医3名体制で診療を行っております。

トピックスとしては、外来化学療法室のベッド数が4床から8床になり、またDPCが本格的に導入されたことから外来化学療法の件数が増え、全体で月平均100件前後の症例数となっております。また外科の入院ベッド数を53床から29床に減りましたが、稼働率が上昇し単価も上昇したことで外科の医業収入が昨年比月当たり10～30％程度の増収となりました。現在は電子カルテ導入に向けて新たな取り組みを行っております。また秋田県では県統一のがん地域連携パスが作成されましたので、こちらも遅ればせながら現在導入に向けて取り組んでおります。

平成22年度の総手術件数は378件で全身麻酔手術が304件となっており、昨年と比較して総件数で46件、全麻件数で59件の増加となっており、さらに一昨年と比較すると総件数で109件、全麻件数で108件の増加となっております。手術件数増加は医師会の先生方から多数のご紹介を頂いた賜物であり、今後も更にコミュニケーションを密にしていきたいと考えております。

また特に腹腔鏡下手術が増加しており、平成22年度の腹腔鏡下手術は135件でした。おもな内訳は、胆嚢摘出術が41例（腹腔鏡下率95.3％）、ヘルニア（ソケイ、大腿、

当院は、岩手医大の関連病院としては、唯一、北海道（函館市）にある。海を越えるため、非常に遠くに感ずるが、先日、新幹線も青森まで延び、幾分、盛岡との交通の便も良くなっている。近年中には、新幹線の函館開通も予定されている。

平成23年度 新たな年がスタートした。さまざまな“if”が起こるかもしれないことを常に意識して危機管理をしなければならないが、予期せぬ“if”が起きないことを願いたい！



腹壁瘻痕）手術が40例（同67.2％）、虫垂切除術が15例（同93.7％）、イレウス手術が10例（同71.4％）でした。近田院長が赴任されてから5mmスコープを2本購入していただいたことで、緊急手術への使用や一日2件の使用が可能となり、腹腔鏡下手術の適応を拡大できたことが件数の増加に繋がったと思います。

医局から遠く離れた当院ですが、若林先生をはじめとし、大学の先生方が厭わずにお手伝いに来てくださることで、安心して診療を行うことができております。今後ご助力を賜りながら更に精進していきたいと思いますのでご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、現在常勤医がアラフォー3名で全員科長になってしまい他科と比較してフレッシュ感が少なくなりました。医局から見ると陸の孤島のような当院ですが、経験を積むという点では理想的な病院だと思いますので、是非若い先生方に来ていただきフレッシュな風を吹き込んでもらえたらと思っています。

かづの厚生病院

Kazuno Kosei Hospital

当院は平成22年5月1日に移転・新築が完了し、鹿角組合総合病院から「かづの厚生病院」に病院名を変更致しました。（当地を知らない人は、鹿角を「しかつの」と読んでしまいます）。同年5月23日には、若林教授に座長の労を執って頂き、国立がんセンター（現国立がん研究センター）の津金先生をお招きし、開院記念市民公開講座を開催いたしました。

医療圏は鹿角市；35,541名、小坂町；6,147名、岩手県八幡平市の一部となっています。

外科スタッフは、常勤医の阿部薫、木村聡元、4～9月は遠藤史隆、9月～3月からは石田馨の三人体制と平成22年4月から増員していただき、診療・手術に励んでいます。また、大学医局からは隔週の月曜日に手術応援、毎週金曜日に米沢仁志先生の外来診察応援をいただいています。

木村・石田は一週交代で大学へ研修に行ってもらい、最新の知見を当院へ還元してもらっています。

手術件数は前年と比較し、全体数は増加しており、特に結腸・直腸癌手術件数が増加していました。下部消化管グループの木村先生のおかげで、美しい鏡視下手術も可能となりました。急患手術数は例年以上で、遠藤史隆効果を堪能させていただきました。（彼の赴任初日に、穿孔性十二指腸潰瘍のプレゼントを頂き、年間急患数の71%が彼の赴



任期間中でした。）石田馨も臨床・研究に熱心なのですが、妙に話が古臭く、年齢詐称疑惑が持たれています。

以上のように数年ぶりの人事および増員を喜んでいましたが、非常に残念なことに平成23年4月からは、常勤二人体制に戻ります。

センチネルリンパ節検索や術後放射線療法の必要な乳癌患者や食道癌患者等は、大学医局での治療をお願いし、病状が落ち着いてからは当科でもフォローさせて頂いています。

当院でも若手の先生が十分な診療・手術経験が得られるのはもちろんのこと、術者としての経験も豊富に得られます。大部分の手術を若手の先生にお願いしていますので、我こそはと考えている先生は「かづの」に行きたいと挙手してください。何人でも大歓迎します。大学医局よりの御支援には大変感謝申し上げます。今後とも更なる御支援・御鞭撻をお願いいたします。

外科紹介医療機関

2010年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
青森県立はまなす医療療育センター	盛 島 利 文	031-0833	青森県	八戸市	大久保字大塚17-729
あおりPETセンター	佐々木 泰 輔	036-8183	青森県	弘前市	大字品川町31-3
青森労災病院	河 津 俊太郎	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
秋田組合総合病院	阿 部 栄 二	011-0911	秋田県	秋田市	飯島字西袋273-1
あさくらクリニック	朝 倉 慎 一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
安代診療所	和 田 進	028-7534	岩手県	八幡平市	荒屋新町144番地1
あすみのクリニック	斉 藤 宏 之	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字湯舟沢479-2
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ神経内科クリニック	阿 部 隆 志	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町6-6 熊長ビル1F
あべ内科消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
阿部内科小児科医院	阿 部 知 成	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-1-2
飯島医院	飯 島 仁	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鵜飼字狐洞1-277
いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
石鳥谷医療センター	鎌 田 桂	028-3163	岩手県	稗貫郡石鳥谷町	八幡5-47-2
板倉医院	板 倉 紀 子	023-0862	岩手県	奥州市	水沢区福吉町6-7
一関病院	加 藤 栄 一	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
猪苗代病院	猪苗代 盛 貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7
岩手医大 循環器センター	岡 林 均	020-8505	岩手県	盛岡市	中央通1-2-1
岩手医大 花巻温泉病院	猪 又 義 男	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
岩手県対ガン協会	狩 野 敦	020-0835	岩手県	盛岡市	永井14-46
岩手県立 胆沢病院	松 本 登	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立 一戸病院	高 田 耕	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	字砂森60-1
岩手県立 磐井病院	鮫 名 勉	029-0131	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立 江刺病院	小 岡 文 志	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
岩手県立 大槌病院	岩 田 千 尋	028-1111	岩手県	上閉伊郡大槌町	新町8-14
岩手県立 大船渡病院	八 島 良 幸	022-0002	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立 釜石病院	遠 藤 秀 彦	026-0055	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立 軽米病院	横 島 孝 雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
岩手県立 久慈病院	阿 部 正	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1 番
岩手県立 千厩病院	伊 藤 達 朗	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立 中央病院	佐々木 崇	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立 中部病院	北 村 道 彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17地割10
岩手県立 二戸病院	鈴 木 彰	028-6103	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立 沼宮内病院	佐 藤 芳 行	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7
岩手県立 宮古病院	佐 藤 元 昭	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶇ヶ崎1-11-26

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
岩手県立 山田病院	及 川 修 次	028-1321	岩手県	下閉伊郡山田町	山田第5地割66番地1
岩手晴和病院	田 嶋 宣 行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
岩手保養院	森 莊 祐	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
植田内科消化器科医院	植 田 修	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字穴口183-3
白井循環器呼吸器内科	白 井 康 雄	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-2-6
内丸病院	日 下 純 男	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
えいづか内科胃腸科クリニック	永 塚 健	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-1-7
江村胃腸科内科医院	江 村 洋 弘	020-0044	岩手県	盛岡市	城西町7-33
鶯宿温泉病院	石 田 薫	020-0573	岩手県	雫石町	南畑32-265
おおうち消化器科内科クリニック	大 内 健	027-0077	岩手県	宮古市	館合町1-8
大通胃腸科内科	鈴 木 恒 男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通り1-3-44 F
おかだ外科内科クリニック	岡 田 伸 之	027-0025	岩手県	宮古市	実田2-5-10
岡田消化器科内科医院	岡 田 健 男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
荻野病院	荻 野 忠 良	020-0865	岩手県	盛岡市	本宮1-6-12
小原クリニック	小 原 紀 彰	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2-22-15
小保内医院	小保内 寿 人	020-0827	岩手県	盛岡市	鉾屋町5-21
柏原医院	柏 原 紀 文	028-0304	岩手県	遠野市	宮守町字下宮守28-75
かつの厚生病院	松 谷 富美夫	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
かつら内科クリニック	桂 泰 鴻	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
加藤胃腸科内科医院	加 藤 博 巳	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺中田207
かねこ内科クリニック	金 子 能 人	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-1-63
川井中央診療所	高 木 秀 峯	028-2302	岩手県	下閉伊郡川井村	川井5-101-1
川久保病院	尾 形 文 智	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
川村内科医院	川 村 光 郎	020-0883	岩手県	盛岡市	志家町4-4
川守田医院	川守田 安 彦	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	北日詰八反田53-1
菅整形外科医院	菅 義 行	024-0071	岩手県	北上市	上江釣子16-51-2
菅整形外科・皮膚科クリニック	菅 栄 一	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字川原38-1
菅野小児科医院	菅 野 恒 治	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸2-11-36
喜田医院	喜 田 恵 治	761-0104	香川県	高松市	高松町2500-5
北上済生会病院	斎 藤 和 好	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8
工藤内科医院	工 藤 博 司	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-7-13
久保田医院	久保田 公 宜	020-0147	岩手県	盛岡市	大館町26-3
熊谷内科胃腸科医院	熊 谷 和 久	025-0097	岩手県	花巻市	若葉町3-1-7
栗原クリニック	栗 原 英 夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
黒川産婦人科医院	黒 川 賀 重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51

か

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
慶應義塾大学病院	武 田 純 三	160-8582	東京都	新宿区	信濃町35
孝仁病院	井 筒 俊 彦	020-2252	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
国際親善総合病院	村 井 勝	245-0006	神奈川県	横浜市泉区	西が岡1-28-1
国保 綾里診療所	中 舘 敏 博	022-0211	岩手県	大船渡市	三陸町綾里字平舘75-2
国保 金ヶ崎病院	阿 部 俊 和	029-4503	岩手県	胆沢郡金ヶ崎町	西根鏈水98
国保 葛巻病院	山 本 雅 彦	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻16-1-1
国保 沢内病院	石 川 清	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田2-68
国保 西根病院	三 浦 義 明	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1
国保 普代村診療所	叶 城 倫 子	028-8333	岩手県	下閉伊郡普代村	10-4-1
国立がんセンター中央病院	嘉 山 孝 正	104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
国立病院機構盛岡病院	和 田 裕 一	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
小坂内科消化器科クリニック	小 坂 陽 一	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1
児島内科小児科医院	児 島 陽 一	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ3-11-36
後藤医院	後 藤 尚	028-1351	岩手県	下閉伊郡山田町	長崎4-12-10
後藤泌尿器科皮膚科医院	後 藤 康 文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
小林脳神経外科医院	小 林 東 洋	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-7-34
こんの脳神経外科神経内科クリニック	今 野 譲 二	023-0818	岩手県	奥州市	水沢区字東町33-1
西城病院	西 城 健	021-0871	岩手県	一関市	八幡町2-43
済生会岩泉病院	柴 野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
ささき医院	佐々木 正 孝	020-0816	岩手県	盛岡市	中野1丁目27-10
坂井医院	坂 井 博 毅	028-4307	岩手県	岩手郡岩手町	五日市10-151-1
桜井医院	岩 崎 雅	023-0054	岩手県	奥州市	水沢区吉小路3
桜町病院	柴 崎 啓 一	184-8511	東京都	小金井市	桜町1-2-20
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
佐々木内科小児科医院	佐々木 勉	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	30地割80-8
さとう胃腸科内科医院	佐 藤 治	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野一丁目11-25
さとう消化器科内科クリニック	佐 藤 慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
佐藤整形外科医院	佐 藤 知 義	023-0852	岩手県	奥州市	水沢区山崎8-1
佐藤内科クリニック	佐 藤 公 也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4F
佐藤皮膚科医院	佐 藤 雅 子	020-0133	岩手県	盛岡市	青山3-6-3
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
さわやかクリニック	田 村 茂	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字江刈内10-47-2
三愛病院	山 内 文 俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-31-31
三陸病院	三 浦 正 彦	027-0048	岩手県	宮古市	板屋1-6-36
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2

さ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
篠村外科医院	篠 村 達 雅	020-0524	岩手県	岩手郡雫石町	寺の下105-12
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正 和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋 正 博	024-0094	岩手県	北上市	本通り4丁目13-6
市立田沢湖病院	佐々木 英 人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
紫波地域診療センター	小 野 満	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字三本木32
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
鈴木こう門科クリニック	鈴 木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
鈴木整形外科	鈴 木 正 弘	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字石仏20-1
鈴木内科医院	鈴 木 知 己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
せいてつ記念病院	鈴 木 啓 之	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
仙台オープン病院	宮 川 菊 雄	983-0824	宮城県	仙台市	宮城野区鶴が谷5-22-1
草加市立病院	高 元 俊 彦	340-8560	埼玉県	草加市	草加2丁目21番1号
総合花巻病院	後 藤 勝 也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
総合水沢病院	半 井 潔	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
平館クリニック	土 谷 正 彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平館第11-10-10
高橋内科胃腸科クリニック	高 橋 真	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字菓子1186-14
高松病院	田 中 哲 夫	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町4-8
滝沢中央病院	伊 藤 浩 信	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鶴飼字狐洞1-104
たぐち脳神経外科クリニック	田 口 壮 一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通り1丁目4-19
田村医院	田 村 健 二	020-0833	岩手県	盛岡市	西見前15-112
足澤整形外科医院	足 澤 國 男	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰中新田252-2
ちだ内科・外科クリニック	千 田 明 紀	020-0824	岩手県	盛岡市	東安庭1丁目23-60
土川内科医院	土 川 伍 朗	020-0145	岩手県	盛岡市	上厨川字横長根76-3
照井内科消化器科医院	照 井 虎 彦	025-0072	岩手県	花巻市	四日町3丁目5-8
東海大学医学部付属八王子病院	北 川 泰 久	192-0032	東京都	八王子市	石川町1838
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0151	岩手県	岩手郡滝沢村	大釜字吉水103-1
とちない脳神経外科クリニック	栃 内 秀 士	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央3-17-10
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
都南病院	橋 本 光 彦	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前6-40-1
十和田市立中央病院	蘆 野 吉 和	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
十和田東病院	和 田 幸 子	034-0001	青森県	十和田市	大字三本木字里ノ沢1-247
内科クリニックすずき	鈴 木 康 之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
中村医院	沖 恵	020-0066	岩手県	盛岡市	上田3-4-38

た

な

な

は

ま

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
新里医院	新 里 滋	028-0516	岩手県	遠野市	穀町13-1
西島こどもクリニック	西 島 浅 香	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-19-11
西島産婦人科医院	西 島 光 茂	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-19-11
西松園内科医院	齊 藤 恵 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-1
二戸クリニック	青 木 光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
二宮内科クリニック	二 宮 一 見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
ハートフルもりおか（老健）	立 花 崑	020-0384	岩手県	盛岡市	永井14地割15番地1
はじめこどもクリニック	高 橋 肇	025-0097	岩手県	花巻市	若葉町1-2-33
八戸市立市民病院	三 浦 一 章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1
八戸赤十字病院	瀬 尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
原田内科脳神経機能クリニック	原 田 達 男	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸3-2-1
坂東内科クリニック	坂 東 武 志	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原1-3-17
東八幡平病院	及 川 忠 人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台2-8-2
平井医院	平 井 博 夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰字下丸森138-2
ひろし外科肛門科	吉 田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1-3-10
ブレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字宮沢5-1
平和台病院	中 村 周 治	028-3311	岩手県	紫波郡紫波町	犬淵南谷地108-3
細井外科医院	細 井 照 彦	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原2-1-2
堀江医院	堀 江 寛	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田6-143
松園第一病院	河 嶋 寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野3-2-1
松園第二病院	石 川 洋 子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
間山皮膚科医院	間 山 岩 夫	026-0034	岩手県	釜石市	中妻町1-17-20
三島内科医院	佐 藤 倫 郎	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34
水沼内科循環器クリニック	水 沼 吉 美	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2-11-12
水町クリニック	水 町 重 範	160-0703	東京都	新宿区	西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル3階
三井記念病院	高 本 眞 一	101-8643	東京都	千代田区	神田和泉町1番地
宮古山口病院	及 川 暁	027-0063	岩手県	宮古市	山口5-3-20
村田小児科医院	村 田 淳	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町3-4
もりおか胃腸科内科クリニック	佐 藤 邦 夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
もりおか往診クリニック	木 村 幸 博	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前6-85-1
もりおかこども病院	米 沢 俊 一	020-0102	岩手県	盛岡市	上田松屋敷11-14
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-15-1
盛岡赤十字病院	沼 里 進	020-0856	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
盛岡友愛病院	長 澤 茂	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10

ま

や

わ

医療機関名	院長	郵便番号	住所		
森整形外科	森 茂 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2
もりた整形外科	盛 田 健 郎	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸1-3-8
森谷医院	森 谷 耕太郎	020-0114	岩手県	盛岡市	高松3-11-29
八角医院	八 角 有 紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2
山崎内科医院	山 崎 一 郎	022-0003	岩手県	大船渡市	盛町字内ノ目7-20
やまだ胃腸科・内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
ゆとりが丘クリニック	高 橋 邦 尚	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字土沢541
ヨシザワ病院	芳 沢 正 幸	023-0881	岩手県	奥州市	水沢区北田14-1
吉田消化器科内科医院	吉 田 俊 巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16
吉田整形外科・リウマチ科クリニック	吉 田 昌 明	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目9番28号 岩井ビル2階
吉田内科呼吸器科医院	吉 田 雅 美	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第2地割79-3
吉浜診療所	中 舘 敏 博	022-0102	岩手県	大船渡市	三陸町吉浜字上野93番地1
予防医学協会	高 橋 牧之介	020-0834	岩手県	盛岡市	永井14-42
わたなべ肛門科クリニック	渡 邊 正 敏	020-0062	岩手県	盛岡市	長田町14-39

1. 学術論文

1-1 英文論文

1. Obuchi T, Sasaki A, Nitta H, Koeda K, Ikeda K, Wakabayashi G, Minimally invasive surgical enucleation for esophageal leiomyoma: report of seven cases. **Dis Esophagus**, 2010 ; 23(1) : 1-4.
2. Reinhold WC, Reimers MA, Lorenzi P, Ho J, Shankavaram UT, Ziegler MS, Bussey KJ, Nishizuka S, Ikediobi O, Pommier YG, Weinstein JN, Multifactorial Regulation of E-Cadherin Expression: An Integrative Study. **Mol Cancer Ther**, 2010 ; 9(1) : 1-16.
3. Nakajima J, Sasaki A, Otsuka K, Obuchi T, Nishizuka S, Wakabayashi G, Risk factors for early postoperative small bowel obstruction after colectomy for colorectal cancer. **World J Surg**, 2010 ; 34(5) : 1086-1090.
4. Sasaki A, Nitta H, Otsuka K, Kimura Y, Obuchi T, Wakabayashi G, Concomitant laparoscopic splenectomy and cholecystectomy. **Surg Laparosc Endosc & Percutan Tech**, 2010 ; 20(2) : 66-68.
5. Sasaki A, Suto T, Nitta H, Shimooki O, Obuchi T, Wakabayashi G, Laparoscopic excision of retroperitoneal tumors: report of three cases. **Surgery Today**, 2010 ; 40(2) : 176-180.
6. Sato H, Nakamura S, Habano W, Wakabayashi G, Adachi Y, Human intestinal spirochaetosis in northern Japan. **J Med Microbiol**, 2010 ; 59 : 791-796.
7. Sasaki A, Koeda K, Obuchi T, Nakajima J, Nishizuka S, Terashima M, Wakabayashi G, Tailored laparoscopic resection for suspected gastric gastrointestinal stromal tumors. **Surgery**, 2010 ; 147(4) : 516-520.
8. Chiba T, Kimura Y, Takahashi H, Tairabune T, Nagasawa Y, Mori K, Yonezawa Y, Sugawara A, Kawaguchi S, Kawamura H, Nishizuka S, Kudo K, Fujiwara K, Ikeda K, Wakabayashi G, Takahashi K, Influence of body fat in cancer patients on residual content of used fentanyl matrix patches. **Palliative Care Research**, 2010 ; 5(2) : 206-212.
9. Nitta H, Sasaki A, Fujita T, Itabashi H, Hoshikawa K, Takahara T, Takahashi M, Nishizuka S, Wakabayashi G, Laparoscopy-assisted major liver resections employing a hanging technique: the original procedure. **Ann Surg**, 2010 ; 251(3) : 450-453.
10. Sasaki A, Obuchi T, Nakajima J, Kimura Y, Koeda K, Wakabayashi G, Laparoscopic Heller myotomy and Dor fundoplication for achalasia: long-term outcomes and effect on chest pain. **Dis Esophagus**, 2010 ; 23(4) : 284-289.
11. Sugai T, Habano W, Jiao YF, Toyota M, Suzuki H, Tsukahara M, Koizuka H, Akasaka R, Koeda K, Wakabayashi G, Suzuki K, Molecular analysis of single isolated glands in gastric cancers and their surrounding gastric intestinal metaplastic mucosa. **Oncology Reports**, 2010 ; 23(1) : 25-33.
12. Kikkawa T, Sato N, Kojika M, Takahashi G, Aoki K, Hoshikawa K, Akitomi S, Shozushima T, Suzuki K, Wakabayashi G, Endo S, Significance of measuring S100A12 and sRAGE in the serum of sepsis patients with postoperative acute lung injury. **Dig Surg**, 2010 ; 27 : 307-312.
13. Sasaki A, Umemura A, Nishizuka S, Nakajima J, Uesugi N, Wakabayashi G, Results of laparoscopic sleeve gastrectomy as a single stage bariatric procedure in Japanese patients. **Asian J Endosc Surg**, 2010 ; 3(4) : 180-184.
14. Shioi Y, Hasegawa T, Otsuka K, Fujisawa K, Itabashi T, Kimura T, Wakabayashi G, Mue Y, Uesugi N, Sugai T, Primary retroperitoneal spindle cell liposarcoma: pathological and immunohistochemical findings. **Pathol Int**, 2010 ; 60(6) : 472-476.
15. Tanabe M, Kawachi S, Obara H, Shinoda M, Hibi T, Kitagawa Y, Wakabayashi G, Shimazu M, Kitajima M, Current progress in ABO-incompatible liver transplantation. **Eur J Clin Invest**, 2010 ; 40(10) : 943-949.
16. Pandey PR, Okuda H, Watabe M, Pai SK, Liu W, Kobayashi A, Xing F, Fukuda K, Hirota S, Sugai T, Wakabayashi G, Koeda K, Kashiwaba M, Suzuki K, Chiba T, Endo M, Fujioka T, Tanji S, Mo YY, Cao D, Wilber AC, Watabe K, Resveratrol suppresses growth of cancer stem-like cells by inhibiting fatty acid synthase. **Breast Cancer Res Treat**, 2010
17. Takahashi G, Sato N, Yaegashi Y, Kojika M, Matsumoto N, Kikkawa T, Shozushima T, Akitomi S, Aoki K, Ito N, Hoshikawa K, Suzuki Y, Inoue Y, Wakabayashi G, Endo S, Effect of linezolid on cytokine production capacity and plasma endotoxin levels in response to lipopolysaccharide stimulation of whole blood. **J Infect Chemother**, 2010 ; 16(2) : 94-99.
18. Ishida K, Nishizuka S, Noda H, Matsuo T, Otsuka K, Wakabayashi G, Characterization of clinically-used anticancer agents by quantitative cellular and molecular assay platforms. **The Journal of The Iwate Medical Association**, 2010 ; 62(5) : 363-375.
19. Sasaki J, Wakabayashi G, The sac is located in the round ligament in an external inguinal hernia: New anatomical evidence to more accurately explain the mechanism of testis descent. **The Journal of The Iwate Medical Association**, 2010 ; 62(5) : 395-403

1-2 和文論文

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 佐々木 章, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 箱崎 将規, 片桐 弘勝, 細井 信之, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 若林 剛, 直腸癌に対する腹腔鏡下手術. **外科治療**, 2010 ; 102(1) : 77-84.

2. 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛, 生体肝移植後の C 型肝炎再発治療. **今日の移植**, 2010; 23(1): 47-54.
3. 片桐 弘勝, 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛, 栄養過多の具体的疾患とその対策. **Surgery Frontier**, 2010; 17(1): 75-77.
4. 川崎 雄一郎, 菅原 聡, 佐藤 一, 坂本 隆, 自己整復により発症した鼠径ヘルニア偽還納の 1 例. **日本臨床外科学会雑誌**, 2010; 71(1): 230-234.
5. 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 阿部 京子, 若林 剛. 【知っていますか? OR 最新トピックス】内視鏡手術の最新手技・機器③ 腹腔鏡下肝切除術. **オペレーティング**, 2010; 25(2): 137-139.
6. 岩谷 岳, 川村 英伸, 中嶋 潤, 板橋 哲也, 野田 芳範, 若林 剛, 鼠径ヘルニア偽還納の 1 例. **日本臨床外科学会雑誌**, 2010; 71(2): 556-559.
7. 加藤 久仁之, 千葉 丈広, 大山 健一, 小松 正代, 腸重積をきたした若年発症小腸 GIST の 1 例. **日本臨床外科学会雑誌**, 2010; 71(2): 426-430.
8. 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 大塚 幸喜, 若林 剛, 特集 肝癌治療の現状 腹腔鏡下肝切除術. **癌と化学療法**, 2010; 37(3): 396-398.
9. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐藤 譲, 若林 剛, 特集 肥満に対する外科治療 岩手医科大学外科学講座における肥満症に対する腹腔鏡下スリープ状胃切除術の適応と術後成績. **成人病と生活習慣病**, 2010; 40(3): 307-310.
10. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 若林 剛, 【VI 各種疾患、病態における静脈・経腸栄養の実際】食道疾患 食道癌周術期. **日本臨床**, 2010; 68(3): 288-291.
11. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 若林 剛, 特集 肥満治療 新しい治療 腹腔鏡下スリープ状胃切除術. **治療学**, 2010; 44(4): 115-116.
12. 佐々木 章, 大淵 徹, 若林 剛, 症例 腹腔鏡下スリープ状胃切除術の 1 患者. **治療学**, 2010; 44(4): 136-137.
13. 御供 真吾, 目黒 英二, 早川 善郎, 小林 慎, 高金 明典, 若林 剛, 関節リウマチに続発した消化管アミロイドーシスによる横行結腸穿孔の 1 例. **外科**, 2010; 72(4): 439-443.
14. 柏葉 匡寛, 石黒 洋, 大野 真司, 川端 英孝, 中村 清吾, 坂東 裕子, 増田 慎三, 戸井 雅和, TC 療法 現在のコンセンサス 臨床エビデンスからの視点による TC 療法の展開 (解説). **CANCER BOARD 乳癌**, 2010; 3(1): 28-38.
15. 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛, 腹水. **消化器外科**, 2010; 33(5): 685-687.
16. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 高原 武志, 中嶋 潤, 佐々木 章, 若林 剛, 【マスターしておきたい縫合・吻合の実際 より安全・確実に行うために】縫合・吻合の実際 胸・腹腔鏡手術における縫合・吻合の実際 肝・胆手術. **外科治療**, 2010; 102: 682-685.
17. 星川 浩一, 小鹿 雅博, 遠藤 重厚, 【外科当直医必携】当直における患者・家族との接し方 救急車搬送された患者への接し方. **消化器外科**, 2010; 33(5): 972-973.
18. 梅邑 晃, 遠藤 義洋, 鈴木 雄, 梅邑 明子, 郷右近 祐司, 北村 道彦, 切除不能進行大腸癌に対する緩和手術としての人工肛門造設術症例の検討. **日本臨床外科学会誌**, 2010; 71(5): 1126-1131.
19. 若林 剛, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 佐々木 章, 腹腔鏡補助下ドナー肝切除. **外科**, 2010; 72(5): 494-499.
20. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 佐々木 章, 高原 武志, 藤田 倫寛, 若林 剛, 腹腔鏡下肝切除の定型手技. **手術**, 2010; 64(5): 579-585.
21. 千葉 健史, 木村 祐輔, 高橋 宏彰, 平船 寛彦, 長澤 佳昭, 森 薫, 米澤 裕司, 菅原 敦子, 川口 さち子, 川村 英伸, 西塚 哲, 工藤 賢三, 藤原 邦彦, 池田 健一郎, 若林 剛, 高橋 勝雄, がん患者の体脂肪量が使用済みフェンタニルマトリックス型パッチの残存量に及ぼす影響. **Palliat Care Research**, 2010; 5(2): 206-212.
22. 板橋 英教, 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 高原 武志, 若林 剛, 超音波外科吸引装置 (CUSA). **手術**, 2010; 64(6): 863-865.
23. 梅邑 晃, 遠藤 義洋, 鈴木 雄, 梅邑 明子, 北村 道彦, 続発性消化管アミロイドーシスによる汎発性腹膜炎の 1 例. **日本臨床外科学会誌**, 2010; 71(6): 1628-1633.
24. 高橋 正統, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 佐々木 章, 若林 剛, Upside down stomach を呈する食道裂孔ヘルニアに胃癌を併存した 1 例. **日本臨床外科学会雑誌**, 2010; 71(6): 1501-1506.
25. 佐藤 葉子, 一ノ渡 学, 水野 大, 若林 剛, 鈴木 健二, 佐藤 成大, 0.5w/v% クロロヘキシジングルコン酸塩含有アルコール製剤を用いた Waterless 手術時手指消毒法の実践的評価. **日本環境感染学会雑誌**, 2010; 25(4): 211-216.
26. 菅野 将史, 及川 浩樹, Histone deacetylase 6 の発現抑制が肝細胞癌培養株の浸潤・転移能に与える影響. **岩手医学雑誌**, 2010; 62(3): 203-212.
27. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 眞壁 健二, 武田 大樹, 石橋 正久, 片桐 弘勝, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 若林 剛, 【腹腔鏡下肝切除】腹腔鏡補助下による肝切除術. **消化器外科**, 2010; 33(9): 1431-1438.
28. 若林 剛, 腹腔鏡下ラジオ波焼灼術. **日本医事新報**, 2010; 4502: 79-80.
29. 梅邑 晃, 北村 道彦, 遠藤 義洋, 梅邑 明子, 郷右近 祐司, 直腸癌術後腎臓刺入部再発腫瘍に Mohs' chemosurgery を施行した 1 例. **癌の臨床**, 2010; 56(1): 15-18.
30. 梅邑 晃, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 高橋 正統, 若林 剛, 乳糜腹水を伴った絞扼性イレウスの 1 例. **日本腹部救急医学会雑誌**, 2010; 30(6): 847-850.

31. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 藤井 大和, 片桐 弘勝, 梅呂 晃, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛, 【外科医のための大腸癌の診断と治療】大腸癌の外科治療 腹腔鏡下手術 左半・S 状結腸切除術 そのコツとピットフォール. **臨床外科**, 2010; 65(11): 319-325.
32. 塩井 義裕, 菅井 有, 幅野 渉, 佐々木 章, 若林 剛, 非腫瘍性胆嚢における分離上皮のメチル化解析. **岩手医学雑誌**, 2010; 62(4): 227-236.
33. 高橋 正統, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 佐々木 章, 若林 剛, 放射線化学療法奏効後、根治切除を施行した高度進行食道胃接合部癌の5例. **癌と化学療法**, 2010; 37(11): 2169-2171.
34. 杉立 彰夫, 木村 祐輔, 板橋 哲也, 池田 みゆき, 石田 和茂, 野田 宏伸, 松尾 鉄平, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐藤 綾子, 高橋 智輝, 若林 剛, シスプラチン剤形変更による抗癌効果. **癌と化学療法**, 2010; 37(12): 2274-2276.
35. 大淵 徹, 下沖 収, 佐々木 章, 皆川 幸洋, 阿部 正, 若林 剛, 絞扼性イレウスの診断で手術した左傍十二指腸ヘルニアの1例. **外科**, 2010; 72(13): 1572-1575.
36. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 鴻巣 正史, 西塚 哲, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛, 食道癌に対する外科治療の限界. **癌の臨床**, 2010; 56(3): 205-211.
37. 大塚 幸喜, 佐々木 章, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛, 完全直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 変法直腸固定術. **外科治療**, 2010; 103(6): 613-618.
38. 吉川 智宏, 小鹿 雅博, 高橋 学, 星川 浩一, 秋富 慎司, 遠藤 史隆, 藤井 大和, 松本 尚也, 小豆嶋 立頼, 菊池 哲, 小野寺 誠, 藤野 靖久, 高橋 進, 柴田 繁啓, 鈴木 泰, 井上 義博, 遠藤 重厚, 敗血症性 ARDS に対する PMX-DHP 施行時の IL-18 値と肺酸素化能の検討: 症例報告. **エンドトキシン血症救命治療研究会誌**, 2010; 14(1): 186-191.
39. 小鹿 雅博, 吉川 智宏, 秋富 慎司, 菊池 哲, 小野寺 誠, 藤野 靖久, 井上 義博, 若林 剛, 遠藤 重厚, 【虫垂炎】「薬で散らす」の功罪. **治療**, 2010; 92(12): 2716-2722.
40. 小飯塚 仁彦, 菅井 有, 幅野 渉, 肥田 圭介, 若林 剛, 膵管分離法を用いた非化生膵管・癌膵管のメチル化解析. **岩手医学雑誌**, 2010; 62(3): 189-201.
41. 若林 剛, 世界における腹腔鏡下肝切除の情勢. **消化器外科**, 2010; 33(9): 1397-1405.
42. 大山 健一, 千葉 丈広, 加藤 久仁之, 若林 剛, Direct Kugel 法を用いて修復した Spigel ヘルニアの1例. **外科**, 2010; 72(6): 665-668.
43. 柏葉 匡寛, 若林 剛, 乳がん術前化学療法の現況と効果予測因子. **Mebio**, 2010; 27(2): 48-53.
44. John E. Pippen, 柏葉 匡寛, 相良 安昭, 中山 貴寛, 増田 慎三: 標準治療を構築するための臨床試験力ーUS Oncology の取り組みから学ぶー, **CANCER BOARD 乳癌**, 2010; 4(1): 31-38.
45. 柏葉 匡寛: DIF と乳癌, **コンセンサス癌治療**, 2010; 9(3): 162-164.
46. 若林 剛, 新田 浩幸, 高原 武志: 腹腔鏡補助下ドナー肝右葉切除術, **Digestive Surgery NOW No. 11 腹腔鏡下肝切除術と知っておきたい高難易度肝切除術**, 2010; 60-79
47. Nitta H, Sasaki A, Wakabayashi G, Laparoscopic hepato-biliary-pancreatic surgery. **日本臨床**, 2010; 68(7): 1341-1344.
48. 佐々木 章: 腹腔鏡 (補助) 下肝切除術のコツと注意点, **手術**, 2010; 65(3): 361-366.

2. 著 書

1. 若林 剛: **標準外科学**. 北島 政樹, 加藤 治文, 畠山 勝義, 北野 正剛編, 医学書院, 東京, 2010, 581-602
2. 新田 浩幸, 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除と腹腔鏡補助下肝切除, **肝胆膵高難度外科手術**. 日本肝胆膵外科学会高度技能医制度委員会編, 医学書院, 東京, 2010, 286-294
3. 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛: 生体肝移植後の肝癌多発肺転移に対して Sorafenib が著効した1症例, **肝細胞癌の分子標的治療**. 工藤 正俊編, アークメディア, 東京, 2010, 175-181
4. 佐々木 章, 新田 浩幸, 若林 剛: 術式別の手術手技 外側区域切除術, **腹腔鏡下肝切除術**. 金子 弘真, 若林 剛編, 南山堂, 東京, 2010, 51-54
5. 佐々木 章, 若林 剛: 脾臓 単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術, **消化器 単孔式腹腔鏡下手術**. 北野 正剛編, 南山堂, 東京, 2010, 93-100
6. 高原 武志, 新田 浩幸, 若林 剛: 肝中心静脈閉塞症 Venocclusive disease (VOD), **肝・胆道系症候群 (第2版) - その他の肝・胆道系疾患を含めて -**. 瓦谷 秀治編, 日本臨床, 大阪, 2010, 94-98
7. 片桐 弘勝, 高原 武志, 伊藤 直子, 新田 浩幸, 若林 剛: 肝外門脈瘤, **肝・胆道系症候群 (第2版) - その他の肝・胆道系疾患を含めて -**. 瓦谷 秀治編, 日本臨床, 大阪, 2010, 70-73
8. 西塚 哲: ライセートアレイ, **バイオチップ実用化ハンドブック**. 金子 周一, 堀池 靖浩編, NTS, 東京, 2010, 167-174
9. 西塚 哲: その他の検出技術一発色法, **バイオチップ実用化ハンドブック**. 金子 周一, 堀池 靖浩編, NTS, 東京, 2010, 96-102
10. 金子 弘真, 若林 剛編: **腹腔鏡下肝切除術**. 南山堂, 東京, 2010
11. 西塚 哲, 石田 和茂, 松尾 鉄平, 野田 宏伸, 岩谷 岳, 若林 剛: **分子細胞治療フロンティア 2010**. 外科分子細胞治療研究会編, 飯田橋パピルス, 東京, 2010

12. 柏葉 匡寛：閉経前ホルモン感受性症例の術後内分泌療法の標準レジメンは何か？ **EBM がん化学療法・分子標的治療法** 西條 長宏，大津 敦，古瀬 純司，中川 和彦，徳田 裕，南 博信，畠 清彦，田村 和夫編，中外医学社，東京，2010,280
13. 柏葉 匡寛：閉経後ホルモン感受性症例の術後内分泌療法の標準レジメンは何か？ **EBM がん化学療法・分子標的治療法** 西條 長宏，大津 敦，古瀬 純司，中川 和彦，徳田 裕，南 博信，畠 清彦，田村 和夫編，中外医学社，東京，2010,284
14. 柏葉 匡寛：Triple Negative 乳癌における術後化学療法の感受性：EBCTCG メタアナリシスから **Triple Negative 乳癌** 戸井 雅和編，南山堂，東京，2010,90
15. 柏葉 匡寛：Triple Negative 乳癌における術後化学療法のレジメン選択 **Triple Negative 乳癌** 戸井 雅和編，南山堂，東京，2010,91
16. 柏葉 匡寛：Triple Negative 乳癌における術後化学療法の各薬剤の感受性 **Triple Negative 乳癌** 戸井 雅和編，南山堂，東京，2010,93
17. 柏葉 匡寛：分子標的薬および新規薬剤の感受性 **Triple Negative 乳癌** 戸井 雅和編，南山堂，東京，2010,95
18. 柏葉 匡寛：今後の展望 **Triple Negative 乳癌** 戸井 雅和編，南山堂，東京，2010,96
19. 佐々木 章，若林 剛：Ⅱ章 周術期管理の実践－ガイドラインに基づくエキスパートオピニオン 2 外科手術 D. 腹腔鏡下手術 **静脈血栓塞栓症予防ガイドブック－エキスパートオピニオン** 富士 武史，左近 賢人編，南江堂，東京，2010,167-170.

3. 学会発表

3-1 国際学会

ASCO GI(American Society of Clinical Oncology),Orland Florida,2010/1/22~1/24.

1. Noda Y : Physical distribution monitoring of platinum by PIXE in esophageal cancer patients after cisplatin administration, Poster Presentation.
2. Ishida K, Nishizuka S, Noda H, Matsuo T, Ikeda M, Kozai M, Wakabayashi G : Chemosensitivity prediction of clinically used anticancer agents with quantitative proteomic profiling using reverse-phase lysate microarrays,Poster Presentation.
3. Iwaya T, Kimura Y, Noda Y, Nishizuka S, Matsuo T, Ishida K, Wakabayashi G : Evaluation of primary chemotherapy with docetaxel, cisplatin and fluorouracil for advanced esophageal squamous cell carcinoma,Poster Presentation.
4. Matsuo T, Nishizuka S, Iwaya T, Ishida K, Noda H, Ikeda M, Kozai M, Wakabayashi G : Quantitative protein monitoring for cetuximab sensitivity prediction in colorectal cancer,Poster Presentation
5. Otsuka K, Itabashi T, Sasaki A, Kimura T, Nishizuka S, Kimura Y, Nitta H, Kashiwaba M, Koeda K, Wakabayashi G : Short and Long-term Outcomes of Laparoscopic Surgery for Colorectal Cancer in Elderly Patients,Poster Presentation

12th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons,Tokyo,2010/3/23~3/24.

1. Tomisawa Y, Ogasawara S, Nishizuka S, Kashiwaba M, Inaba T, Takeda Y, Komatu H, Kawagishi R, Wakabayashi G : Clinical Study of Anticancer Drug Sensitivity Testing for Undifferentiated Thyroid Cancer,Poster Presentation.

12th World Congress of Endoscopic Surgery(SAGES&CAGS),National Harbor,2010/4/14~4/17.

1. Wakabayashi G : What Has Happened and What Do We Have to Do?,Oral Presentation.

101st ANNUAL MEETING American association for cancer research,Washington DC,2010/4/17~4/21.

1. Matsuo T, Nishizuka S, Iwaya T, Ishida K, Noda H, Ikeda M, Kozai M, Wakabayashi G : Quantitative cell signaling analysis for cetuximab sensitivity prediction in colorectal cancer,Poster Presentation.
2. Nishizuka S, Ishida K, Matsuo T, Noda H, Iwaya T, Wakabayashi G : Therapeutic efficacy prediction by quantitative protein analysis in response to anti-cancer agents,Poster Presentation.

9th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association,Buenos Aires, Argentina,2010/4/18~4/22.

1. Wakabayashi G : Hybrid liver resection,Invited Presentation.
2. Sasaki A : Left pancreatic resection,Symposium.
3. Katagiri H, Nitta H, Takahara T, Itabashi H, Fujita T, Ito N, Kimura Y, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A, Mizuno M, Wakabayashi G : Difficulty prediction by 3D-CT for the laparoscopic-assisted hepatectomy of living donor liver transplantation,Poster Presentation.
4. Umemura A, Sasaki A, Nakajima J, Obuchi T, Baba S, Nitta H, Koeda K, Kimura Y, Otsuka K, Nishizuka S, Shibuya S, Umemura A, Suzuki Y, Mizuno M, Wakabayashi G : Intraoperative endoscopic sphincterotomy using rendezvous technique for the case with difficulty in cannulating into common bile duct,Poster Presentation.
5. Umemura A, Sasaki A, Nakajima J, Obuchi T, Baba S, Nitta H, Koeda K, Kimura Y, Otsuka K, Nishizuka S, Mizuno M, Wakabayashi G : Concomitant laparoscopic splenectomy and cholecystectomy,Poster Presentation.
6. Nitta H : Laparoscopy-assisted major liver resections employing a hanging technique: the original procedure,Poster Presentation

10th American Transplant Congress, San Diego, 2010/5/1~5/5.

1. Takahashi M, Nishida S, Fan J, Romano A, Tekin A, Island R. E, Moon I. J, Levi M. D, Tzakis G. A : Use of the Bilateral Anterior Rectus Fascia Turnover Method for a Difficult Abdominal Closure after Retransplantation of the Liver with Liver Abscess, Poster Presentation.

2010 DIGESTIVE DISEASE WEEK, New Orleans, 2010/5/1~5/5.

1. Wakabayashi G : SSAT, Symposium.

17th Czech-Japan Surgical Symposium, Kanazawa, 2010/6/5~6/7.

1. Wakabayashi G : Laparoscopic Hepatectomy for Hepatic Malignancies, Luncheon Seminar.

56th Annual Congress of the Japan Section, Tokyo, 2010/6/12.

1. Wakabayashi G : Laparoscopic liver resection from lateral sectionectomy to donor hepatectomy, Oral Presentation.

18th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery, Geneva, Swiss, 2010/6/16~6/19.

1. Sasaki A, Nakajima J, Obuchi T, Baba S, Umemura A, Nishizuka S, Kimura Y, Nitta H, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G : Single incision laparoscopic gastric resection for gastric submucosal tumors, Poster Presentation.

16th ANNUAL INTERNATIONAL CONGRESS ILTS, Hong Kong, China, 2010/6/16~6/19.

1. Wakabayashi G : Fulminant Liver Failure, Chairman.

92nd Annual Meeting & Expo The Endocrine Society, San Diego, 2010/6/19~6/22.

1. Tomisawa Y, Ogasawara S, Kashiwaba M, Nishizuka S, Inaba T, Takeda Y, Komatsu H, Tanimura T, Kawagishi R, Wakabayashi G : Analysis of inflammatory cytokines associated leukocytosis for Anaplastic Thyroid Carcinoma, Poster Presentation.

9th International Conference of The Asian Clinical Oncology Society (ACOS), Japan, Gifu, 2010/8/25~8/27

1. Wakabayashi G : The present status of HCC treatment in Asian countries, Chairman

12th WORLD CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY FOR DISEASES OF THE ESOPHAGUS, Kagoshima, 2010/9/2~9/5.

1. Kimura Y, Iwaya T, Noda Y, Konosu M, Koeda K, Nishizuka S, Otsuka K, Nitta H, Sasaki A, Mizuno M, Wakabayashi G : Salvage esophagectomy after definitive chemoradiotherapy for esophageal cancer, Poster Presentation.
2. Noda Y, Nishizuka S, Kimura Y, Iwaya T, Konosu M, Sera K, Wakabayashi G : Physical distribution monitoring of platinum by PIXE in esophageal cancer patients after cisplatin administration, Poster Presentation.

14th INTERNATIONAL THYROID CONGRESS, Paris, 2010/9/11~9/16.

1. Suzuki S, Miyauchi A, Sugino K, Sugitani I, Yoshida A, Fujimori K, Okamoto T, Ito K, Tomisawa Y, Tanaka K, Tori M, Wada N : ANAPLASTIC THYROID CARCINOMA (ATC) IN JAPAN : ESTABLISHMENT AND ANALYSIS OF A MULTICENTER DATABASE, Oral Presentation

11th International Conference on Systems Biology, Edinburgh, 2010/10/10~10/14.

1. Nishizuka S, Ishida K, Matsuo T, Ikeda M, Shimura T, Young L, Wakabayashi G : Biological Information Extraction Associated With Cancer Chemosensitivity Using High Dimensional Protein Data Monitoring, Poster Presentation.

20th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (IASGO), Cairo, Egypt, 2010/10/20~10/23

1. Wakabayashi G : Laparoscopy-assisted major liver resections employing a hanging technique : The hybrid procedure, Invited Presentation
2. Wakabayashi G : Donor Issues in Liver transplantation, Chairman
3. Wakabayashi G : General Laparoscopy I , Chairman
4. Wakabayashi G : Laparoscopy-assisted live donor hepatectomy, Invited Presentation
5. Umemura A : Analysis of Cases of Colostomy as Palliative, Poster Presentation

18th United European Gastroenterology Week, Barcelona, Spain, 2010/10/23~10/27.

1. Nakajima J, Sasaki A, Koeda K, Baba S, Fujiwara H, Obuchi T, Umemura A, Wakabayashi G : Assessment of gastric motor function after pylorus-preserving gastrectomy by cine magnetic resonance imaging, Poster Presentation.

American College of Surgeons (ACS) 96th Annual, America, 2010/10/3~10/7.

1. Wakabayashi G : Minimally Invasive Hybrid Technique for Hemi-hepatectomy, Cine Clinic Presentation.

ESMO Congress, Milano, 2010/10/8~10/12.

1. Nishizuka S, Ishida K, Matsuo T, Wakabayashi G : Quantitative high-dimensional monitoring of proteins in response to anti-cancer agents, Poster Presentation.

The 4th Scientific Meeting of the Japan-Hungary Surgical Society JAPAN-HUNGARY SURGICAL SOCIETY, Yokohama, 2010/11/18~11/20.

1. Matsuo T, Nishizuka S, Ishida K, Iwaya T, Ikeda M, Wakabayashi G : Quantitative protein monitoring of colorectal cancer cell line in response to cetuximab, Oral Presentation.
2. Umemura A, Sasaki A, Nakajima J, Obuchi T, Baba S, Nishizuka S, Kimura Y, Nitta H, Ostuka K, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G : Laparoscopic Splenectomy for Severe Thrombotic thrombocytopenic Purpura : A Case Report, Oral Presentation.
3. Konosu M, Kimura Y, Iwaya T, Noda Y, Koeda K, Nishizuka S, Nitta H, Otsuka K, Kashiwaba M, Sasaki A, Mizuno M, Uesugi N, Sugai T, Wakabayashi G : A Case of Esophageal Melanosis with Esophageal Cancer, Poster Presentation.
4. Chiba T, Nishizuka S, Fujiwara H, Takahashi M, Nishinari Y, Uesugi N, Sugai T, Fukushima N, Tamura G, Koeda K, Wakabayashi G : Tissue microarray protein expression profiling of advanced gastric cancer treated by preoperative chemotherapy, Poster Presentation.
5. Kimura T, Otsuka K, Itabashi T, Hakozaiki M, Kato K, Fujisawa K, Akiyama Y, Nishizuka S, Kimura Y, Nitta H, Koeda K, Mizuno M, Sasaki A, Wakabayashi G : Intraoperative laparoscopic ultrasonography for scanning liver metastasis during colorectal cancer surgery, Oral Presentation.

10th ELSA Meeting incorporated with 3rd Congress of VAES, Hanoi, Vietnam, 2010/11/25~11/27.

1. Wakabayashi G : Laparoscopic liver resection from pure to hybrid technique, Invited Presentation.
2. Wakabayashi G : SINGLE PORT-GI, Chairman.

INTENSIVE COURSE IN LAPAROSCOPIC GENERAL SURGERY, Taiwan, 2010/12/17~12/18.

1. Wakabayashi G : Laparoscopic hepatectomy : State of the Art, Invited Presentation.
2. Wakabayashi G : Impact of laparoscopy-assisted hepatectomy in liver surgery, Invited Presentation.

3-2 国内学会

第 27 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 京都, 2010/2/12~2/13.

1. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 熊谷 妃小江, 山田 麻紀子, 佐々木 ひろ子, 千葉 励子, 佐々木 章, 若林 剛 : 直腸癌手術における covering ileostomy の功罪, 一般口演.

第 25 回日本静脈経腸栄養学会, 東京, 2010/2/25~2/26.

1. 富澤 勇貴, 池田 健一郎, 新田 浩幸, 小笠原 聡, 中嶋 潤, 青木 毅一, 古屋 純一, 織田 展輔, 阿部 里紗子, 遠藤 龍人, 三浦 吉範, 佐藤 祐子, 豊巻 和司, 栗谷川 洋子, 高橋 麻衣子, 遠藤 桂, 若林 剛 : 経口摂取困難となった頭頸部癌患者に対する PTEG を用いた長期経腸栄養管理の有効性, 一般示説.

第 82 回日本胃癌学会, 新潟, 2010/3/3~3/5.

1. 高橋 正統, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 渡辺 陽太郎, 若林 剛 : Upside down stomach を呈した食道裂孔ヘルニアに胃癌を合併した 1 切除症例, 一般示説.
2. 高橋 正統, 肥田 圭介, 遠藤 昌樹, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 渡辺 陽太郎, 若林 剛 : 経腹的アプローチにて胃内手術 (ESD) を施行した早期胃癌の 1 切除症例, 一般示説.
3. 渡辺 陽太郎, 肥田 圭介, 高橋 正統, 遠藤 昌樹, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 若林 剛 : 経腹的アプローチにて胃内手術 (ESD) を施行した早期胃癌の 1 切除症例, 一般示説.

第 46 回日本腹部救急医学会, 富山, 2010/3/18~3/19.

- * 若林 剛 : 忘れられない症例 2, 司会.

第 115 回日本解剖学会, 盛岡, 2010/3/28~3/30.

1. 若林 剛 : 外科医が求める解剖学教育, シンポジウム.

第 110 回日本外科学会, 愛知, 2010/4/8~4/10.

1. 松尾 鉄平, 西塚 哲, 石田 和茂, 野田 宏伸, 池田 みゆき, 小財 恵, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛 : 大腸癌における cetuximab 感受性予測のための蛋白定量モニタリング, 一般口演.
2. 野田 芳範, 西塚 哲, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 高橋 正統, 木村 聡元, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 世良 耕一郎, 若林 剛 : CDDP 投与後食道癌症例における組織内白金濃度と抗腫瘍効果との関連性, 一般口演.
3. 野田 宏伸, 西塚 哲, 石田 和茂, 松尾 鉄平, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛 : ライセートアレイを用いたシスプラチン耐性胃癌細胞集団の蛋白分子プロファイル, 一般口演.
4. 高原 武志, 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛 : 腹腔鏡補助下ドナー肝切除の現状とその妥当性 安全性確立への定型化とドナーへの身体的苦痛の軽減から, パネルディスカッション.
5. 川村 英伸, 岩谷 岳, 杉村 好彦, 畠山 元, 藤澤 健太郎, 若林 剛 : 再発しないための Kugel 法の工夫, 一般ビデオ.

6. 箱崎 将規, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 池田 健一郎, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における Crohn 病に対する腹腔鏡下手術の治療成績, 一般口演.
 7. 岩谷 岳, 木村 祐輔, 野田 芳範, 御供 慎吾, 木村 聡元, 西塚 哲, 肥田 圭介, 高橋 正統, 石田 馨, 佐々木 章, 若林 剛: 高度進行食道癌に対する術前化学療法としての Docetaxel/CDDP/5FU(DCF) 療法の可能性, 一般口演.
 8. 大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: Virtual Reality simulator(Laparoscopy VR) を用いた内視鏡外科実習と評価, 一般口演.
 9. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 細井 信之, 船渡 治, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 音声入り未編集ビデオを用いた腹腔鏡下大腸癌手術の外科教育, パネルディスカッション.
 10. 水野 大, 福澤 太一, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛, 小泉 淳一, 猪飼 秋夫, 松本 敦, 高橋 信, 小山 耕太郎, 門崎 衛: 先天性心疾患合併小児外科疾患の治療戦略, パネルディスカッション.
 11. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 肥満症に対する腹腔鏡下袖状胃切除術の治療効果, 要望演題.
 12. 木村 祐輔, 池田 健一郎, 岩谷 岳, 野田 芳範, 御供 真吾, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 食道癌に対する外科治療の限界 食道癌に対する外科治療の適応と限界, シンポジウム.
 13. 西塚 哲, 石田 和茂, 松尾 鉄平, 野田 宏伸, 岩谷 岳, Toni Hollway, Lynn Young, 若林 剛: 臨床検体由来の細胞機能情報解析, サージカルフォーラム.
 14. 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 川岸 涼子, 上杉 憲幸, 若林 剛: 乳腺外科医が示すべき Surgical Oncologist としての基礎研究の方向性, サージカルフォーラム.
 15. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡補助下ドナー肝右葉切除術における 3D-CT を用いた術難易度予測, 一般口演.
 16. 新田 浩幸, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 肝切除術における自動縫合器の位置づけ, 一般口演.
 17. 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 文広, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: cStage IV 胃癌に対する化学療法後胃切除の意義, 一般口演.
 18. 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 佐々木 章, 板橋 英教, 大淵 徹, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 中嶋 潤, 若林 剛: 肝胆膵領域における腹腔鏡下手術, ワークショップ.
 19. 石田 和茂, 西塚 哲, 小財 恵, 池田 みゆき, 松尾 鉄平, 野田 宏伸, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 蛋白マイクロアレイを用いた抗癌剤感受性予測法の検討, サージカルフォーラム.
 20. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 池田 健一郎, 若林 剛: StageIV 大腸癌に対する腹腔鏡下手術, 一般口演.
 21. 中嶋 潤, 佐々木 章, 肥田 圭介, 馬場 誠朗, 大淵 徹, 高橋 正統, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: Cine-MRI による幽門保存胃切除術後の機能評価, ワークショップ.
 22. 若林 剛: 定型化された腹腔鏡下肝切除の手術手技, ビデオセッション.
 23. 高橋 正統, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 千葉 文広, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における Surgical stageIV への外科治療の検討, 一般口演.
 24. 馬場 誠朗, 下沖 収, 板橋 英教, 皆川 幸洋, 眞壁 健二, 吉田 雅一, 武田 大樹, 小松 英明, 鴻巣 正史, 阿部 正: 鼠径ヘルニアにおける Direct Kugel 法の有用性, 一般口演.
 25. 大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: Virtual Reality simulator (Laparoscopy VR) を用いた内視鏡外科実習と評価, 一般口演.
 26. 肥田 圭介: 鏡視下手術から学んだ開腹胃切除術-Harmonic を用いたリンパ節郭清の実際, ブースセミナー.
- * 若林 剛: 鏡視下手術・胆膵, 司会.

第 8 回日本ヘルニア学会, 千葉, 2010/4/16~4/17.

1. 梅邑 晃, 岩谷 岳, 中嶋 潤, 川村 英伸, 高橋 正統, 野田 芳範, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 全身合併症を併存した鼠径ヘルニアに対する局所麻酔下 Standard Kugel 法の手術成績, ラウンドテーブルディスカッション.
2. 板橋 哲也, 岩谷 岳, 中嶋 潤, 川村 英伸, 大淵 徹, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 野田 芳範, 西塚 哲, 佐々木 章, 若林 剛: 鼠径部ヘルニア嵌頓例に対する局所麻酔下 Standard Kugel 法の検討, ラウンドテーブルディスカッション.
3. 中嶋 潤, 佐々木 章, 岩谷 岳, 川村 英伸, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 西塚 哲, 木村 祐輔, 肥田 圭介: 当科におけるポートサイトヘルニアの予防と治療, パネルディスカッション.

第 22 回日本肝胆膵外科学会, 仙台, 2010/4/16~4/17.

1. 箱崎 将規, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 藤井 大和, 西塚 哲, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 肝内胆管癌の治療戦略 ~再発形式からの検討~, 一般示説.
2. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除術のポイントとピットフォール, ランチョンセミナー.
3. 藤井 大和, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 藤田 倫寛, 箱崎 将規, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 脾頭十二指腸切除後に残脾全摘・脾合併切除を施行した 2 例, 一般示説.

4. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 肝胆脾外科領域手術における閉腹時の真皮縫合の有用性, 一般示説.
5. 眞壁 健二, 八重樫 瑞典, 川岸 涼子, 吉田 雅一, 武田 大樹, 馬場 誠朗, 鴻巣 正史, 皆川 幸洋, 下沖 収, 阿部 正, 上杉 憲幸, 菅井 有: 急性膵炎を伴わずに発症し、結腸と穿通した膵膿瘍の 1 例, 一般示説.
6. 高原 武志, 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 胆道癌の集学的治療～術式別に投与量を調節する Gemcitabine+S-1 併用術後補助療法～, パネルディスカッション.
7. 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 板橋 英教, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 完全腹腔鏡下肝切除術の経験, ビデオシンポジウム.
8. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤井 大和, 箱崎 将規, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: パーチャル画像を用いた肝移植ドナーに対する腹腔鏡補助下肝切除術の手術計画, シンポジウム.
9. 新田 浩幸, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡 (補助) 下肝切除術の適応と合併症, ワークショップ.
10. 板橋 英教, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当院における十二指腸乳頭部癌手術症例の検討～#16 リンパ節郭清の意義も含めて～, 一般示説.
11. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: LigaSure ImpactTM を使用した肝全摘, 一般ビデオ.
 * 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除の適応と合併症, 司会.
 * 若林 剛: 肝胆脾外科領域における化学療法の最新の話, 司会.
 * 新田 浩幸: 腹腔鏡下肝切除 -1, 司会.
 * 新田 浩幸: NOTES, single port surgery-2, 座長.

第 47 回日本小児外科学会, 愛知, 2010/6/17~6/19.

1. 水野 大, 福澤 太一, 有末 篤弘, 名郷根 めぐみ, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 重症心身障害症例に対する小児外科医の役割, シンポジウム.
2. 福澤 太一, 水野 大, 有末 篤弘, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛, 鳥谷 由貴子, 中辻 幸恵, 遠藤 幹也: 当院での小児がん治療における小児外科医の役割, シンポジウム.
3. 名郷根 めぐみ, 水野 大, 福澤 太一, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛, 遠藤 幹也, 中川 温子: 術前化学療法が著効し全摘し得た膵芽腫の 1 乳児例, 一般示説.
 * 水野 大: ポスターセッション 胃十二指腸疾患, 司会.

第 22 回日本内分泌外科学会, 大坂, 2010/6/11~6/12.

1. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 小鹿 雅博, 星川 浩一, 柏葉 匡寛, 西塚 哲, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 谷村 武弘, 川岸 涼子, 若林 剛: 甲状腺未分化癌における炎症性サイトカインの検討, 一般示説.

第 35 回日本外科系連合学会, 東京, 千葉, 2010/6/17~6/18.

1. 肥田 圭介, 高橋 正統, 藤原 久貴, 千葉 丈広, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 安全な腹腔鏡下胃切除術を行うためにー主要血管切離における視野展開の工夫とコツ, ビデオシンポジウム.
2. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術における第一助手の役割, ビデオシンポジウム.
3. 高原 武志, 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当教室での生体肝移植の現況, ワークショップ.
4. 馬場 誠朗: 急性虫垂炎を契機に DIC を発症した骨髓異形成症候群の 1 例, 一般示説.

第 26 回日本 DDS 学会, 大阪, 2010/6/17~6/18.

1. 杉立 彰夫, 木村 祐輔, 板橋 哲也, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 高森 吉守, 若林 剛: キトサン / シスプラチン ー抗癌効果ー, 一般口演.

第 15 回日本緩和医療学会, 東京, 2010/6/18~6/19.

1. 木村 祐輔, 曾根 美雪, 大畑 光彦, 若戸 清香, 古谷 純一, 織田 展輔, 長澤 昌子, 若林 剛: 岩手県におけるテレビ会議システムを用いた緩和ケア学習会の実践, 一般示説.

第 18 回日本乳癌学会, 札幌, 2010/6/24~6/25.

1. 稲葉 亨, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 富澤 勇貴, 小松 英明, 川岸 涼子, 滝山 郁雄, 上杉 憲幸, 若林 剛: Primary systemic therapy(PST)後の乳房温存術における切除範囲の検討, シンポジウム.
2. 柏葉 匡寛: 血清 HER2 タンパクの臨床における応用と将来展望, シンポジウム.
3. 柏葉 匡寛: 個別化治療におけるタキサンとの役割, ランチョンセミナー.
4. 柏葉 匡寛: ASCO/CAP 変更に伴う原発乳癌における HER2 発現の再検証, 一般口演.

第 65 回日本消化器外科学会, 山口, 2011/7/14~7/16.

1. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下手術の適応と手技の工夫, 要望演題.

2. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 肥田 圭介, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における食道癌手術における再建法と治療成績, 企画関連口演.
3. 中嶋 潤, 櫻井 滋, 山田 友紀, 小野寺 直人, 木村 祐輔, 野田 芳範, 佐々木 章, 水野 大, 諏訪部 章, 佐藤 譲, 小林 誠一郎, 若林 剛: 当院における抗菌薬適正使用ガイドライン導入の効果, 一般示説.
4. 御供 真吾, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 石田 馨, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下手術にて診断治療し得た開腹既往のないイレウス 8 症例, 一般示説.
5. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 小林 隆史, 若林 剛: ハイリスク症例に対する腹腔鏡下大腸手術の適応と成績～超高齢者を中心に～, パネルディスカッション.
6. 板橋 英教, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 十二指腸乳頭部癌の検討～# 16 リンパ節郭清の意義も含めて～, 一般口演.
7. 遠野 千尋, 坂下 伸夫, 伊藤 達朗, 八重樫 弘, 若林 剛: 直腸癌肝転移癌と鑑別を要した真菌球を形成した肝アスペルギルス症の 1 例, ポスター.
8. 箱崎 将規, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 肝内胆管癌の治療戦略～再発形式からの検討～, ポスター.
9. 梅邑 晃, 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 新田 浩幸, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 若林 剛: 当科における同時腹腔鏡下脾臓及び胆嚢摘出術症例の検討, ポスター.
10. 星川 浩一, 佐藤 信博, 八重樫 泰法, 小鹿 雅博, 高橋 学, 若林 剛, 遠藤 重厚: 敗血症における細胞内シグナルタンパク同時多項目定量およびサイトカイン・ケモカイン産生能の検討, 一般口演.
11. 遠藤 史隆, 小鹿 雅博, 片桐 弘勝, 吉川 智宏, 星川 浩一, 遠藤 重厚, 若林 剛: 術後敗血症性ショック症例における heart rate control の検討, 一般口演.
12. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 藤澤 健太郎, 藤井 大和, 箱崎 将規, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: ハイリスク症例に対する腹腔鏡下大腸手術の適応と成績～超高齢者を中心に～, パネルディスカッション.
13. 藤井 大和, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 局所進行食道癌 (cT4NxMO) に対する Salvage surgery の治療成績, 要望演題.
14. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 直腸癌手術における covering ileostomy の検討, 要望演題.
15. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 高橋 正浩, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 臨床的臍液瘻と当科における管理の変遷, 一般示説.
16. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 下部直腸癌に対する腹腔鏡下低位前方切除術の定型化した術野展開, ビデオシンポジウム.
17. 片桐 弘勝, 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 胆道癌に対する HPD の治療成績, 要望演題.
18. 馬場 誠朗: 特発性小腸穿孔の 2 例, 一般示説.
19. 高原 武志, 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 胆道癌の集学的治療術後補助化学療法～Gemcitabine+S-1 併用療法 Phase I study を終えて～, ワークショップ.
20. 松尾 鉄平, 西塚 哲, 石田 和茂, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 大腸癌における cetuximab 感受性予測のための細胞内シグナル伝達解析, 一般口演.
21. 西塚 哲, 石田 和茂, 松尾 鉄平, 岩谷 岳, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 細胞ライセートマイクロアレイによる蛋白ネットワーク解析と臨床応用, 企画関連口演.
22. 鴻巣 正史, 下沖 収, 皆川 幸洋, 馬場 誠朗, 武田 大樹, 吉田 雅一, 川岸 涼子, 眞壁 健二, 八重樫 瑞典, 阿部 正: 当院における直腸癌術前放射線療法の取り組み, ポスター.
23. 若林 剛: ランチョンセミナー 33・いよいよ幕開け! 腹腔鏡下肝切除・世界の動向, 招待講演.
 * 若林 剛: ランチョンセミナー 13・腹腔鏡下大腸手術のエキスパートテクニック～EnSeal が創る新しい世界～, 司会.
 * 大塚 幸喜: 大腸 鏡視下手術 4, 座長.
 * 若林 剛: パネルディスカッション 8・分子生物学を応用した消化器癌の悪性度診断, 司会.

第 64 回日本食道学会, 福岡, 2010/8/31～9/1.

1. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛: T4MO 食道癌に対する治療成績～Salvage surgery の有用性～, ワークショップ.

第 3 回日本肥満症治療学会, 東京, 2010/9/10～9/11.

1. 佐々木 章, 若林 剛: Metabolic surgery の適応と禁忌, 特別講演.
2. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の適応と成績, シンポジウム.

第 69 回日本癌学会, 大阪.

1. 杉立 彰夫, 木村 祐輔, 板橋 哲也, 野田 宏紳, 松尾 鉄平, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 若林 剛: A Novel Anticancer Drug Delivery System-Chitosan/Cisplatin-, 一般口演.

2. Noda Y, Nisizuka S, Kimura Y, Iwaya T, Konosu M, Nitta H, Otuka K, Kasiwaba M, Koeda K, Sasaki A, Mizuno M, Wakabayashi G : Physical distribution monitoring of platinum by PIXE in esophageal cancer patients after cisplatin administration, 一般示説.
3. Tomisawa Y, Ogasawara S, Kojika M, Hoshikawa K, Nakajima J, Sasaki A, Tanimura T, Nishizuka S, Wakabayashi G : Analysis of inflammatory cytokines for Anaplastic Thyroid Carcinoma, 一般示説.

日本胆道学会, 広島, 2010/9/24~9/25.

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 胆道癌の術後補助化学療法 (GS 療法), ワークショップ.

第 31 回日本肥満学会, 前橋市, 2010/10/1~10/2.

1. 佐々木 章, 若林 剛: 肥満外科治療における術式選択, シンポジウム.

第 37 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 高松市, 2010/10/9~10/10.

1. 水野 大, 小林 めぐみ, 佐々木 美香, 塚原 央之, 若林 剛: 小児胃食道逆流症に対する単孔式腹腔鏡下噴門形成術, 一般口演.
2. 小林 めぐみ, 水野 大, 佐々木 美香, 塚原 央之, 若林 剛: 小児食道アカラシアに対し単孔式腹腔鏡下 Heller Dor 手術を施行した一例, 一般口演.

第 14 回日本肝臓学会, 横浜, 2010/10/13~10/14.

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 滝川 康裕, 鈴木 一幸, 若林 剛: Mizoribine を用いた生体肝移植後の C 型肝炎再発治療戦略, 一般示説.

第 43 回日本甲状腺外科学会, 倉敷市, 2010/10/14~10/15.

1. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 小鹿 雅博, 星川 浩一, 佐々木 章, 中嶋 潤, 西塚 哲, 若林 剛: 甲状腺未分化癌患者の手術前後における炎症性サイトカインの推移の検討, 一般示説.

第 18 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2010), 横浜, 2010/10/13~10/16.

1. 西塚 哲, 若林 剛: 定量生物学の癌治療への応用, サージカルフォーラム.
2. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の治療経験, 一般示説.
3. 野田 芳範, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 遠藤 史隆, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌手術症例における術前化学療法と術後感染症の関連性, 一般示説.
4. 梅邑 晃, 北村 道彦, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 高橋 正統, 野田 芳範, 渋谷 俊介, 梅邑 明子, 佐々木 晃, 若林 剛: Y 字型胃管を用いた食道バイパス手術の手術手技と有用性について, 一般示説.
5. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 —手技のコツと短期成績—, シンポジウム.
6. 御供 真吾, 新田 浩幸, 高原 武志, 石田 馨, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: スニチニブが著効し切除し得た腎細胞癌巨大肝転移の 1 例, 一般示説.
7. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下結腸左半切除の手術手技 —脾結腸曲授動のコツ—, シンポジウム.
8. 新田 浩幸, 高原 武志, 若林 剛: 上腹部正中切開からの前方アプローチによる Hanging Technique と自動縫合器を用いた新しい開腹肝右葉切除術, シンポジウム.
9. 大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 特発性血小板減少性紫斑病に対する単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術, 一般示説.
10. 肥田 圭介, 高橋 正統, 若林 剛: 腹腔鏡下胃切除術の地域における普及と技術の伝承—胃がん治療の均てん化を目指して—, パネルディスカッション.
11. 馬場 誠朗: 特発性大腸穿孔の 3 例, 一般示説.
 - * 若林 剛: 我が国における肥満症治療, 司会.
 - * 若林 剛: 消化器外科医に必要ながん性疼痛管理と緩和ケアの基礎知識, 司会.
 - * 若林 剛: 大腸癌化学療法—バスと連携でこんなに簡単!?, 座長.

第 23 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2010/10/18~10/20.

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 細井 信之, 船渡 治, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: audio visual education による腹腔鏡下大腸癌手術の標準化, シンポジウム.
2. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡 (補助) 下肝切除術の現状と今後の展望, パネルディスカッション.
3. 赤平 律子, 庄司 弘美, 吉田 景, 熊谷 美佐子, 阿部 京子, 新田 浩幸, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡補助下肝切除術の器械出しの工夫, 一般口演.
4. 佐々木 章, 大淵 徹, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 中嶋 潤, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 馬場 誠朗, 下沖 収, 大山 健一, 島袋 誠守, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下手術の適応疾患と成績, スポンサーシンポジウム.
5. 藤田 倫寛, 新田 浩幸, 高原 武志, 石橋 正久, 板橋 英教, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 須藤 隆之, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡補助下ドナー肝切除の現状, シンポジウム.

6. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 腹腔鏡下胃切除術における総肝動脈リンパ節 (No.8a) 郭清の工夫, 要望演題.
7. 小林 めぐみ, 水野 大, 中嶋 潤, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術, 一般口演.
8. 馬場 誠朗, 佐々木 章, 下沖 収, 川岸 涼子, 八重樫 瑞典, 眞壁 健二, 吉田 雅一, 武田 大樹, 鴻巣 正史, 大淵 徹, 高橋 正統, 皆川 幸洋, 中嶋 潤, 遠野 千尋, 若林 剛, 阿部 正: 単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した特発性血小板減少性紫斑病の1例, 一般口演.
9. 梅邑 晃, 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 教室における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討—術後疼痛と整容の面から—, 一般口演.
10. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 西成 悠, 高橋 正統, 藤原 久貴, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大: 腹腔鏡下胃切除術における簡便な肝圧排法, 一般口演.
11. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: ESD 非治癒切除例に対する腹腔鏡補助下胃切除術 (LAG) の成績, 一般口演.
12. 中嶋 潤, 佐々木 章, 水野 大, 小林 めぐみ, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 富澤 勇貴, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 若林 剛: 若年成人女性鼠径ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法 (SILPEC 法) の適応, パネルディスカッション.
13. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: Harmonic と EnSeal を駆使した効率的な腹腔鏡下大腸全摘, スポンサードシンポジウム.
14. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 食道癌に対する胸腔鏡下手術 - 左側臥位と腹臥位による治療成績の比較, 一般口演.
15. 水野 大, 小林 めぐみ, 中嶋 潤, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 小児に対する単孔式腹腔鏡下手術, 一般口演.
16. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 小林 隆史, 鈴木 健二, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 心・肺疾患既往を有する腹腔鏡下大腸切除術の安全性の検討, パネルディスカッション.
17. 大淵 徹, 佐々木 章, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 中嶋 潤, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 胃 GIST に対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術, 要望演題.
18. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 木村 祐輔, 西塚 哲, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: Stage IV 大腸癌に対する腹腔鏡下手術の有用性, パネルディスカッション.
19. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 小林 隆史, 鈴木 健二, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 心・肺合併症を有する症例に対する腹腔鏡下大腸切除術の適応について, パネルディスカッション.
- * 若林 剛: 招請講演3: The Current Status of Laparoscopic Liver Surgery - 2010, 司会.
- * 若林 剛: ランチョンセミナー7: これが完全腹腔鏡下右肝切除だ!, 司会.
- * 大塚 幸喜: 一般講演 大腸・肛門良性②, 座長.
- * 佐々木 章: 一般演題 脾臓③, 座長.

第 46 回日本移植学会, 京都, 2010/10/20~10/22.

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: ドナー身体的保護の観点からの腹腔鏡補助下ドナー肝切除, シンポジウム.

第 63 回日本胸部外科学会, 大阪, 2010/10/25.

1. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 進行食道癌 (cT4NxMO) に対する根治的放射線化学療法後の Salvage esophagectomy の臨床的検討, 優秀演題.

第 48 回日本癌治療学会, 京都, 2010/10/28~10/30.

1. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 食道癌集学的治療における外科治療の役割, 一般口演.
2. 稲葉 亨, 西塚 哲, 柏葉 匡寛, 武田 雄一郎, 小松 英明, 川岸 涼子, 若林 剛: HER2 陽性乳癌における HER family シグナル伝達系関与蛋白の発現順序の解明の試み, 一般口演.
3. 西成 悠, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 水野 大, 佐々木 章, 細井 信之, 玉澤 佳之, 塚原 智典, 牛尾 晶, 佐瀬 正博, 若林 剛: 放射線併用化学療法と TS-1 単独投与により長期完全奏功期間が認められている食道浸潤胃癌の一例, 一般示説.
4. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 藤澤 健太郎, 細井 信之, 船渡 治, 秋山 有史, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 腹腔鏡下大腸癌手術の標準化のための教育システム - audio visual education -, シンポジウム.
5. 御供 真吾, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 胆膵領域における second line 化学療法としての GEMOX 療法の検討, 一般口演.
6. 野田 芳範, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科における食道癌術前化学療法による術後感染症のリスク検討, 一般示説.
7. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 小穴 修平, 中村 隆二, 鈴木 一幸, 若林 剛: 局所進行癌に対する術前治療としての GEM/S-1/Radiation 療法 (GSR) ~ Phase I study, Feasibility study ~, パネルディスカッション.

8. 鴻巣 正史, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 膀胱癌化学療法における Gemcitabine・5-FU 相互作用の検証, 一般口演.
 9. 千葉 丈広, 西塚 哲, 高橋 正統, 藤原 久貴, 上杉 憲幸, 菅井 有, 福島 紀雅, 田村 元, 肥田 圭介, 若林 剛: 進行胃癌における治療前の生検組織検体および化学療法後の摘出標本を用いた組織マイクロアレイによる病理学的検討, 一般口演.
 10. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 渡辺 陽太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 高度進行胃癌に対する初回治療としての DOC/S-1 療法の検討, 一般口演.
- * 若林 剛: 肝臓 薬物療法, 座長.

第 37 回日本低温医学会, 東京, 2010/11/11~11/12.

- * 若林 剛: Lecture of the president, 座長.

第 59 回日本農村医学会, 盛岡, 2010/11/12.

- * 若林 剛: 大腸癌化学療法～XELOX + Bevacizumab 療法を中心に～, 座長.

第 53 回日本甲状腺学会, 長崎, 2010/11/11~11/13.

1. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 梅田 晃, 馬場 誠朗, 石田 馨, 若林 剛: 急性炎症を伴い診断に苦慮した甲状腺乳頭癌の広範壊死の 1 例, 一般示説.

第 23 回日本外科感染症学会, 東京, 2010/11/18~11/19.

1. 野田 芳範, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 木村 聡元, 御供 真吾, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当科での術前化学療法後食道癌手術症例における術後感染状況, 要旨演題.
 2. 星川 浩一, 高橋 学, 吉川 智宏, 秋富 慎司, 小野寺 ちあき, 小鹿 雅博, 遠藤 重厚, 若林 剛: 末梢血刺激による抗菌薬の endotoxin release と cytokine production の検討, 特別企画.
- * 若林 剛: パネルディスカッション 1, 司会.

第 37 回日本臓器保存生物医学会, 新潟, 2010/11/19~11/20.

1. 長谷川 康, 田辺 稔, 加藤 幸成, 金子 美華, 島津 元秀, 若林 剛, 河地 茂行, 尾原 秀明, 篠田 昌宏, 成松 久, 北島 政樹, 北川 雄光: 抗血液型抗体中和療法—ABO 血液型不適合移植に対する新たな治療戦略, シンポジウム.

第 26 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 横浜, 2010/11/20.

1. 水野 大, 小林 めぐみ, 中島 潤, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 重症心身障害者に対する単孔式腹腔鏡下噴門形成術, シンポジウム.

第 4 回肝臓内視鏡外科研究会, 横浜, 2010/11/20.

- * 若林 剛: 特別講演, 司会.

第 72 回日本臨床外科学会, 横浜, 2010/11/21~11/23.

1. 藤原 久貴, 肥田 圭介, 高橋 正統, 千葉 丈広, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 寛, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 胃癌腹膜播種に対する TS-1 + CDDP 腹腔内投与の長期生存に関する検討, 一般示説.
2. 小林 めぐみ, 水野 大, 中島 潤, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 小児胃軸捻転症に対し単孔式腹腔鏡下胃固定術を施行した一例, 一般口演.
3. 秋山 聖華, 小林 めぐみ, 水野 大, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 低出生体重児における肥厚性幽門狭窄症の一例, 一般口演.
4. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当教室の生体肝移植の現況, 一般口演.
5. 小川 雅彰, 中嶋 潤, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 若林 剛, 出口 博之, 谷田 達男: 上行結腸癌術後に肝転移・肺転移切除を経て 7 年目に膀胱転移を切除した 1 例, 一般口演.
6. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 高原 武志, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 星川 浩一, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 肝胆膵外科領域手術における創部真皮縫合と創感染に関する検討, 一般口演.
7. 御供 真吾, 高原 武志, 新田 浩幸, 梅田 晃, 板橋 英教, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 胆道癌の集学的治療～術後補助化学療法から second line 化学療法まで～, 一般口演.
8. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 直腸癌に対する安全な腹腔鏡下 TME / TSME の手技, ビデオシンポジウム.
9. 中嶋 潤, 佐々木 章, 岩谷 岳, 川村 英伸, 富澤 勇貴, 石田 馨, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 鼠径ヘルニアにおける膨潤局所麻酔下 Kugel 法, 一般ビデオ.
10. 馬場 誠朗, 下沖 収, 皆川 幸洋, 川岸 涼子, 八重樫 瑞典, 眞壁 健二, 高橋 正統, 遠野 千尋, 上杉 憲幸, 菅井 有, 阿部 正: 完全切除し得た後腹膜腫瘍の 2 症例, 一般示説.
11. 木村 祐輔, 岩谷 岳, 野田 芳範, 鴻巣 正史, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 木村 聡元, 千葉 丈広, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 高度進行食道癌に対する DCF 療法による術前化学療法の可能性, 一般口演.
12. 遠藤 史隆, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 家族性大腸ポリポシス術後に発生した難治性デスモイド腫瘍の一例, 一般示説.

13. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: イレウスを契機に発見された小腸間膜デスマイド腫瘍の1例, 一般示説.
 14. 新田 浩幸, 佐々木 章, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高原 武志, 高橋 正浩, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 肝臓に対する腹腔鏡(補助)下肝切除術における手技の工夫と成績, ビデオシンポジウム.
 15. 千葉 丈広, 肥田 圭介, 藤原 久貴, 西成 悠, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: イレウスを契機に発見された小腸間膜デスマイド腫瘍の1例, 一般示説.
 16. 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 食道アカラシアに対する単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 手術, 一般ビデオ.
 17. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 早期胃癌に対する機能温存手術としての腹腔鏡補助下幽門保存胃切除術(LAPPG)の手技と機能評価, 要望ビデオ.
 18. 野田 芳範, 木村 祐輔, 岩谷 岳, 鴻巣 正史, 西塚 哲, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 術前化学療法を施行した食道癌症例の組織内 CDDP とその効果, 一般示説.
 19. 梅邑 晃, 新田 浩幸, 佐々木 章, 高橋 正浩, 高原 武志, 伊藤 直子, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 肥田 圭介, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 西塚 哲, 水野 大, 若林 剛: 当科における腹腔鏡下肝切除術, 要望演題.
 20. 水野 大, 小林 めぐみ, 中嶋 潤, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 小児食道良性疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術, 要望演題.
 21. 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 片桐 弘勝, 星川 浩一, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 新しい bipolar device を用いた肝離断の経験, 要望演題.
 22. 大淵 徹, 佐々木 章, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 坂本 隆, 佐藤 一, 阿部 正, 下沖 収, 伊藤 達朗, 遠藤 秀彦, 吉田 徹, 八島 良幸, 菅野 千治, 若林 剛: 遠隔医療会議を利用した医師と医療従事者の教育, 一般口演.
 23. 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 松井 雄介, 川岸 涼子, 眞壁 健二, 高橋 正統, 遠野 千尋, 皆川 幸洋, 下沖 収, 阿部 正: 骨髄異形成症候群の白血化と急性虫垂炎を併発した1例, 一般口演.
- * 若林 剛: ビデオシンポジウム5 肝胆膵悪性腫瘍に対する内視鏡手術の導入—手術手技の工夫、評価と展望, 司会.
- * 大塚 幸喜: 一般講演 大腸 6, 座長.
- * 肥田 圭介: 胃・十二指腸(悪性)-20, 座長.

第 65 回日本大腸肛門病学会, 静岡, 2010/11/26~11/27.

1. 板橋 哲也, 大塚幸喜, 木村聡元, 箱崎将規, 加藤久仁之, 藤沢健太郎, 秋山有史, 若林 剛: covering ileostomy 造設法の工夫, 一般口演.
2. 木村 聡元, 大塚 幸喜, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 若林 剛: 大腸癌遠隔および主リンパ節再発に対し摘出術を施行した5例, 一般示説.
3. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 若林 剛: ピットフォールの経験から得た腹腔鏡下低位前方切除術の定型化, ビデオシンポジウム.
4. 箱崎 将規, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 加藤 久仁之, 梅邑 晃, 佐々木 章, 若林 剛: 当院における大腸癌イレウス症例の検討, 一般示説.
5. 梅邑 晃, 大塚幸喜, 板橋哲也, 木村聡元, 箱崎将規, 加藤久仁之, 若林 剛: 傍ストーマヘルニアの小腸嵌頓による絞扼性イレウスの1例, 一般示説.
6. 加藤 久仁之, 目黒 英二, 秋山 有史, 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 高金 明典, 若林 剛: von Recklinghausen 病患者に発症した多発大腸腺腫を伴った横行結腸癌の1例, 一般口演.
7. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 梅邑 晃, 細井 信之, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 若林 剛: 弾む! 大腸手術 —僕らの歩んだラバロスコピックサージェリー— 腹腔鏡下大腸手術が上手になりたい!, ランチョンセミナー 1-6

第 32 回バイオマテリアル学会, 広島, 2010/11/29~11/30.

1. 杉立 彰夫, 木村 祐輔, 板橋 哲也, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 若林 剛, 高森 吉守: キトサン/シスプラチンによる抗癌効果, 一般口演.

第 38 回日本肝臓学会東部会, 東京, 2010/12/2~12/3.

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 滝川 康裕, 鈴木 一幸, 若林 剛: Mizoribine を用いた生体肝移植後の新しいC型肝炎治療戦略, パネルディスカッション.

第 26 回日本小児がん学会, 大阪, 2010/12/17~12/19.

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 若林 剛, 中辻 幸恵, 遠藤 幹也, 中川 温子: 多発転移, 多臓器浸潤を呈し外科的血管内腫瘍摘出術を含む集学的治療にて救命し得た原発不明小児がんの一例, 一般示説.

3-3 研究会・セミナー等

第 1 回日本肝がん分子標的治療研究会, 神戸市, 2010/1/16.

1. 松尾 鉄平, 西塚 哲, 石田 和茂, 岩谷 岳, 若林 剛: 大腸癌 cetuximab 感受性予測のための蛋白定量モニタリング, 一般口演.
2. 高原 武志, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 板橋 英教, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 柏葉 匡寛, 佐々木 章, 水野 大, 池田 健一郎, 若林 剛: 肝移植後の肝臓再発に対する集学的治療~ Sorafenib の使用も含めて~, 一般口演.

第4回みちのくウィンターセミナー, 盛岡市, 2010/1/30.

- * 木村 祐輔: 特別講演1「これからの食道癌治療」, 座長.
- * 肥田 圭介: 特別講演2「腹腔鏡下胃切除の現状と展望」, 座長.
- * 高原 武志: 特別講演3「膵癌に対する拡大手術と補助化学療法」, 座長.
- * 新田 浩幸: 特別講演4「肝切除における出血量削減の戦略」, 座長.

肝臓内視鏡外科研究会第2回ハンズオンセミナー, 福島, 2010/2/6~2/7.

1. 新田 浩幸: 腹腔鏡下肝切除術~手技とポイント・その1~, 一般口演.
- * 若林 剛: コースコーディネーター, 世話人.

第一回単孔式内視鏡手術研究会, 東京, 2010/2/20.

1. 佐々木 章, 大山 健一, 千葉 丈広, 中嶋 潤, 大淵 徹, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術, 一般口演.
2. 大淵 徹, 佐々木 章, 肥田 圭介, 中嶋 潤, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 若林 剛: 胃 GIST に対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術, 一般口演.
3. 大塚 幸喜, 佐々木 章, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 水野 大, 若林 剛: 早期大腸癌に対する単孔式腹腔鏡下手術の経験, 一般口演.

第7回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/2/25.

- * 西塚 哲: 特別講演『がん特異的免疫療法の開発』, 司会.

第3回岩手県 XELOX 講演会, 盛岡, 2010/3/5.

- * 若林 剛: ペパシズマブ併用レジメンの肝切除の可能性, 座長.

第2回岩手 Neuroendocrine Tumor シンポジウム, 盛岡市, 2010/3/13.

- * 若林 剛: 消化管神経内分泌腫瘍の臨床の進歩, 座長.

第32回東北小児がん研究会, 仙台市, 2010/3/13.

1. 有末 篤弘, 福澤 太一, 水野 大, 若林 剛, 遠藤 幹也, 中辻 幸恵, 鳥谷 由貴子, 中川 温子: 巨大脾芽腫の1乳児例, 一般口演.

第43回制癌剤適応研究会, 仙台市, 2010/3/12.

1. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 西塚 哲, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 川岸 涼子, 若林 剛: 予後因子としての抗癌剤感受性試験からみた甲状腺未分化癌の生物学的特性, 一般口演.
 2. 板橋 哲也, 西塚 哲, 池田 みゆき, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: ヒト大腸癌細胞株パネルの薬剤感受性プロファイル, 一般口演.
 3. 石田 和茂, 西塚 哲, Lynn Young, 志村 勉, 松尾 鉄平, 野田 宏伸, 岩谷 岳, 若林 剛: ライセートアレイを用いた抗癌剤反応性蛋白 kinetics の解析, 一般口演.
 4. 西塚 哲, 肥田 圭介, 石田 和茂, 高橋 正統, 松尾 鉄平, 池田 みゆき, 岩谷 岳, 若林 剛: 進行・再発胃癌症例に対する細胞増殖曲線パターンによる抗癌剤感受性判定, 一般口演.
 5. 松尾 鉄平, 西塚 哲, 石田 和茂, 岩谷 岳, 若林 剛: 大腸癌 cetuximab 感受性予測のための細胞内シグナル伝達解析, シンポジウム.
- * 若林 剛: 大腸癌における抗 EGFR 抗体の治療戦略, 座長.

第23回東北甲状腺談話会, 仙台市, 2010/3/12.

1. 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 谷村 武宏, 川岸 涼子, 西塚 哲, 若林 剛: 甲状腺未分化癌患者における白血球増多の原因と炎症性サイトカインの検討, 一般口演.

第9回東日本肝移植周術期研究会, 東京, 2010/3/13.

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 藤田 倫寛, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 拡大右葉グラフトの肝静脈再建, 一般口演.

第8回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/3/18.

- * 岩谷 岳: 特別講演『癌の治療成績向上のための分子生物学的アプローチ』, 司会.

第26回岩手ストーマ研究会, 盛岡市, 2010/3/27.

1. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 木村 聡元, 藤沢 健太郎, 秋山 有史, 熊谷 妃小江, 山田 麻紀子, 佐々木 ひろ子, 千葉 励子, 佐々木 章, 若林 剛: 直腸癌手術における covering ileostomy について, 一般口演.
2. 瀧本 未由希, 佐藤 雅恵, 山田 麻紀子, 佐々木 ひろ子, 熊谷 妃小江, 千葉 励子, 柳田 美喜子, 板橋 哲也, 大塚 幸喜: 尋常性乾癬患者のストーマケア, 一般口演.
3. 十文字 晴美, 中野 亜希子, 小倉 眞喜子, 下沖 収, 皆川 幸洋, 鴻巣 正史, 馬場 誠朗, 阿部 正: 潰瘍性大腸炎患者のストーマケアにおける一考察, 一般口演.
4. 千葉 励子, 板橋 哲也, 大塚 幸喜: 癌終末期のストーマ保有者の在宅支援に必要な訪問看護師との連携の検討, 一般口演.

第1回いわて遠隔外科医療カンファランス, 盛岡市, 2010/3/31.

- * 若林 剛: 当院における腹腔鏡下手術の introduction と penetration - 地域医師会との連携と地域の標準化にいたるまで -, 座長.

第 21 回内視鏡外科フォーラム東北, 福島, 2010/4/17.

1. 水野 大, 福澤 太一, 有末 篤弘, 中嶋 潤, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 単孔式腹腔鏡下 Heller Dor 手術を施行した小児食道アカラシアの 1 例, 一般口演.
 2. 肥田 圭介, 高橋 正統, 藤原 久貴, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: Efficient purse-string stapling technique (EST) による腹腔鏡下胃切除、体内内吻合の経験, 一般口演.
 3. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 箱崎 将規, 片桐 弘勝, 藤澤 健太郎, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 直腸癌に対する腹腔鏡下直腸授動・切離・吻合手技と周術期管理の定型化, シンポジウム.
- * 肥田 圭介: 一般演題 4, 座長.
- * 大塚 幸喜: シンポジウム, 座長.

第 3 回北東北胆道癌セミナー, 盛岡市, 2010/5/7.

1. 高原 武志: 胆道癌の術後補助化学療法～ GEM + S-1 併用療法 Phase I study, Feasibility study ～ GEM VS GEM+S-1 Phase II/III Kick off, 一般口演.
 2. 高原 武志: 『胆道癌治療切除例に対するゲムシタピン単剤とゲムシタピン /S-1 の術後補助化学療法第 II/III 相多施設共同試験』, 一般口演.
- * 新田 浩幸: 『胆道癌治療切除例に対するゲムシタピン単剤とゲムシタピン /S-1 の術後補助化学療法第 II/III 相多施設共同試験』, 座長.

第 4 回 IWATE Wound Closure Seminar Early Exposure Session, 盛岡市, 2010/5/10.

- * 木村 祐輔: 『胸腔鏡下食道癌根治術』～郭清を極めたか～, 座長.
- * 肥田 圭介: 『外科の魅力』～胃癌治療の進め方～, 第 4 回 IWATE Wound Closure Seminar Early Exposure Session, 座長.
- * 若林 剛: 第一部, 司会.

第 9 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/5/14.

- * 西塚 哲: 基調講演『留学のススメ』, 司会.

第 7 回岩手 GIST 研究会, 盛岡市, 2010/5/15.

1. 八重樫 瑞典, 下沖 収, 皆川 幸洋, 馬場 誠朗, 高橋 正統, 遠野 千尋, 川岸 涼子, 眞壁 健二, 松井 雄介, 阿部 正: 大きな胃 GIST に対してイマチニブ術前化学療法後に切除した 1 例, 一般口演.
- * 肥田 圭介: 症例検討, コメンテーター.
- * 新田 浩幸: 症例検討, コメンテーター.
- * 若林 剛: GIST とは一体何なのか?, 座長.

第 31 回癌免疫外科研究会, 大阪, 2010/5/20.

- * 若林 剛: 症例・その他 1, 座長.

第 612 回岩手医学会, 盛岡市, 2010/5/20.

1. 梅邑 晃, 西塚 哲, 肥田 圭介, 石田 和茂, 高橋 正統, 松尾 鉄平, 池田 みゆき, 岩谷 岳, 若林 剛: 癌性腹膜炎胃癌症例に対する細胞増殖パターンによる抗癌剤感受性判定, 一般口演.
2. 上杉 憲幸, 柏葉 匡寛, 小西 康弘, 無江 良晴, 武田 雄一郎, 稲葉 亨, 若林 剛, 菅井 有: 乳腺原発紡錘細胞癌の 1 例, 一般口演.
3. 西塚 哲, 谷藤 稚奈, 瀧澤 寛之, 若林 剛: 「業績君」: 医局業績集計および解析に特化したイントラネット・リレーショナルデータベースの構築, 一般口演.

第 13 回岩手内視鏡外科研究会, 盛岡市, 2010/5/22.

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 中嶋 潤, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 単孔式 LPEC 法による小児外鼠径ヘルニアにおける腹腔鏡手術, 一般口演.
 2. 馬場 誠朗: 単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した特発性血小板減少性紫斑病の 1 例, 一般口演.
- * 若林 剛: 特別講演 II 『単孔式腹腔鏡手術』, 座長.

かつの厚生病院 開院記念市民公開講座, 秋田, 2010/5/23.

- * 若林 剛: がんを遠ざける生活習慣, 座長.

第 36 回日本急性肝不全研究会, 山形, 2010/5/26.

1. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 滝川 康裕, 鈴木 一幸, 若林 剛: 急性肝不全に対する生体肝移植におけるドナー評価, シンポジウム.

第 50 回岩手の肝胆膵研究会, 盛岡市, 2010/5/29.

1. 御供 真吾, 新田 浩幸, 高原 武志, 石田 馨, 板橋 英教, 伊藤 直子, 西塚 哲, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛: 胆・膵領域における second line 化学療法としての GEMOX 療法, 一般口演.
2. 星川 浩一, 高橋 学, 吉川 智宏, 秋富 慎司, 藤井 大和, 秋山 聖華, 小鹿 雅博, 小豆嶋 立頼, 遠藤 重厚: 人工膵臓による血糖管理, 一般口演.
3. 石田 馨, 新田 浩幸, 高原 武志, 御供 真吾, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛, 小穴 修平, 鈴木 一幸: 複雑瘻孔を形成した、再発肝内結石の一例, 一般口演.
4. 藤澤 健太郎, 杉村 好彦, 吉田 雅一, 川村 英伸, 畠山 元, 藤原 隆雄, 柴田 将, 菊池 公二, 安部 圭之輔, 織笠 俊輔: 長期経過観察中に悪性化を疑い切除した IPMN の一例, 一般口演.

- * 川村 英伸：セッション 2, 座長.
- * 若林 剛：根治性と機能温存を考慮した脾手術 -Isolated PD, PHRS, MP-, 座長.

第 10 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/6/3.

- * 木村 祐輔：特別講演『南東北がん陽子線治療センターの 1 年間の治療経験を中心に』, 司会.

第 4 回岩手直腸がんフォーラム, 盛岡市, 2010/6/4.

- 1. 大塚 幸喜：ICOG についての状況報告・ディスカッション, パネルディスカッション.
- * 若林 剛：腹腔鏡下大腸癌手術の教育, 座長.

第 32 回日本癌局所療法研究会, 奈良, 2010/6/11.

- 1. 杉立 彰夫, 木村 祐輔, 板橋 哲也, 石田 和茂, 松尾 鉄平, 野田 宏伸, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 若林 剛：シスプラチン剤形変更による抗癌効果, シンポジウム.
- 2. 石田 馨, 新田 浩幸, 高原 武志, 御供 真吾, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 中村 隆二, 若林 剛：S-1/Gemcitabine/Radiation による術前治療を施行し RO 切除可能となった局所進行癌の 1 例, 一般口演.
- * 若林 剛：一般演題「肝 1」, 座長.

第 159 回東北外科集談会／第 85 回日本胸部外科学会東北地方会, 仙台市, 2010/6/12.

- 1. 秋山 聖華, 藤井 大和, 吉川 智宏, 星川 浩一, 小鹿 雅博, 遠藤 重厚, 加藤 健一, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛：動脈塞栓術後の遅発性イレウスに対する小腸切除の一例, 一般口演.
- 2. 梅邑 晃, 肥田 圭介, 木村 祐輔, 高橋 正統, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛：乳糜腹水を伴った絞扼性イレウスの 1 例, 一般口演.
- 3. 川岸 涼子, 柏葉 匡寛, 稲葉 亨, 武田 雄一郎, 小松 英明, 上杉 憲幸, 菅井 有, 三浦 一穂, 佐藤 誠志, 若林 剛：家族歴を有するトリプルネガティブ紡錘細胞癌の一例, 一般口演.
- 4. 石橋 正久, 新田 浩幸, 高原 武志, 伊藤 直子, 藤田 倫寛, 板橋 英教, 高橋 正浩, 佐々木 章, 若林 剛：術前診断が困難であった Solid-pseudopapillary tumor の一例, 一般口演.
- 5. 遠藤 史隆, 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 木村 聡元, 大淵 徹, 渡邊 陽太郎, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛：急速に進行した大腸内分泌細胞癌の 1 例, 一般口演.
- 6. 箱崎 将規, 木村 祐輔, 野田 芳範, 岩谷 岳, 西塚 哲, 大塚 幸喜, 新田 浩幸, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 水野 大, 佐々木 章, 若林 剛：食道癌術後乳癌胸に對しリビオドールを用いたリンパ管造影が奏功した一例, 一般口演.
- 7. 大塚 幸喜：「胃・大腸分野における腹腔鏡手術」腹腔鏡下右結腸切除及び直腸切除術の基本手技, ランチョンセミナー
- 8. 馬場 誠朗：宿便性 S 状結腸穿孔の 1 例, 一般口演
- * 肥田 圭介：食道・胃 2, 座長.

岩手県大腸癌病理研究会, 盛岡市, 2010/6/12.

- * 若林 剛：特別講演 II『新しい進行大腸癌治療』, 座長.

第 11 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/6/21.

- * 西塚 哲：特別講演『拡散 MRI の最近の展開』, 司会.

第 1 回いわて胃癌治療カンファランス, 盛岡市, 2010/6/25.

- * 若林 剛：特別講演『新しい胃癌取り扱い規約とガイドライン：どう使うか』, 座長.

第 2 回いわて肥満症治療セミナー, 盛岡市, 2010/6/26.

- * 若林 剛：特別講演 2『高度肥満症に対する外科治療』, 座長.
- * 佐々木 章：『肥満手術例における術前睡眠検査の意義－岩手医科大学の症例から－』, 座長.

第 28 回日本肝移植研究会, 広島市, 2010/7/1.

- 1. 高原 武志, 新田 浩幸, 伊藤 直子, 木村 祐輔, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 水野 大, 滝川 康裕, 鈴木 一幸, 若林 剛：Mizoribine を用いた生体肝移植後の C 型肝炎再発治療戦略, 一般口演.

第 73 回大腸癌研究会, 沖縄県, 2010/7/2.

- 1. 石丸 神矢, 三森 功士, 田中 文明, 柴田 浩平, 主藤 朝也, 横堀 武彦, 西田 尚弘, 古後 龍之介, 岩谷 岳, 杉原 健一, 森 正樹：大腸癌のゲノムにおける microRNA 領域の変異とその臨床病理学的意義, 一般口演.
- 2. 西田 尚弘, 三森 功士, 永原 誠, 横堀 武彦, 古後 龍之介, 石丸 神矢, 岩谷 岳, 主藤 朝也, 田中 文明, 柴田 浩平, 森 正樹：大腸癌間質におけるマイクロ RNA- 遺伝子 pathway の包括的解析, 一般口演.
- 3. 早川 善郎, 高金 明典, 秋山 有史, 入野田 崇, 船渡 治, 菅野 将史, 目黒 英二, 小林 慎：当科における大腸穿孔による緊急手術例の検討, 一般口演.
- 4. 入野田 崇, 秋山 有史, 船渡 治, 早川 善郎, 目黒 英二, 小林 慎, 高金 明典：大腸穿孔に起因した敗血症性ショックの術後周術期管理について～ビジレオモニターシステムを用いて～, 一般口演.

いわて外科がん治療セミナー, 盛岡市, 2010/7/6.

- 1. 石橋 正久：当科におけるイメンドカプセルの使用経験, 一般口演.

2. 藤原 久貴：化学療法時の悪心・嘔吐に対するイメンドカプセルの使用経験，一般口演。

* 柏葉 匡寛：一般演題，座長。

* 若林 剛：消化器癌化学療法における制吐剤の新戦略 - 外科医に必要な制吐剤の基礎知識 -，座長。

第 46 回日本肝癌研究会，大阪市，2010/7/8.

1. 新田 浩幸，藤田 倫寛，板橋 英教，片桐 弘勝，星川 浩一，伊藤 直子，高原 武志，高橋 正浩，西塚 哲，木村 祐輔，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，若林 剛：自動縫合器を用いた肝切除術，一般示説。

2. 高原 武志，新田 浩幸，伊藤 直子，西塚 哲，木村 祐輔，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，黒田 英克，葛西 和博，鈴木 一幸，若林 剛：当院での Sorafenib の使用経験，一般示説。

3. 藤田 倫寛，新田 浩幸，板橋 哲也，石橋 正久，板橋 英教，伊藤 直子，星川 浩一，高原 武志，高橋 正浩，須藤 隆之，佐々木 章，水野 大，若林 剛：大腸癌肝転移に対する腹腔鏡（補助）下肝切除術－開腹肝切除との比較－，一般口演。

* 若林 剛：一般ポスター，座長。

第 4 回キチン・キトサンシンポジウム，東京，2010/7/14.

1. 杉立 彰夫，木村 祐輔，板橋 哲也，西塚 哲，大塚 幸喜，高森 吉守，福田 稔，若林 剛：キチン / シスプラチンによる抗癌効果，一般口演。

第 189 回日本消化器病学会 東北支部例会，山形，2010/7/9.

1. 石田 馨，新田 浩幸，高原 武志，御供 真吾，伊藤 直子，木村 祐輔，西塚 哲，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，若林 剛，小穴 修平，鈴木 一幸：複雑瘻孔を形成し、治療に難渋した再発肝内結石の 1 例，一般口演。

第 12 回 Research in Oncology Seminar，盛岡市，2010/7/20.

* 西塚 哲：腸管運動障害疾患に対する再生医療のチャレンジ，司会。

スーテント症例報告，盛岡市，2010/7/24.

* 肥田 圭介：学術講演会，座長。

学術講演会，盛岡市，2010/7/24.

1. 千葉 丈広：スーテント症例報告，一般口演。

* 若林 剛：消化器癌化学療法に対する分子標的治療薬の役割 - GIST, 大腸癌 -，座長。

第 1 回みちのく LAG セミナー ～LAG を始めよう！～，盛岡市，2010/7/31.

* 肥田 圭介：基調講演，座長。

* 若林 剛：特別講演，座長。

北東北外科肝癌分子標的治療フォーラム，盛岡，2010/7/31.

1. 高原 武志，新田 浩幸，伊藤 直子，西塚 哲，木村 祐輔，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，水野 大，黒田 英克，葛西 和博，鈴木 一幸，若林 剛：当院での Sorafenib の使用経験，一般口演。

1. 高原 武志：一般演題，一般口演。

* 若林 剛：肝細胞癌の化学療法：ソラフェニブのエビデンスと今後の展望，座長。

肝移植カンファランス，盛岡市，2010/8/1.

1. 高原 武志：当院初の成人 ABO 不適合肝移植の検討，一般口演。

* 新田 浩幸：当院初の成人 ABO 不適合肝移植の検討，司会。

* 若林 剛：肝移植における抗 HLA 抗体の意義，司会。

第 13 回 Research in Oncology Seminar，盛岡市，2010/8/3.

* 西塚 哲：卵巣癌治療における新たな治療戦略と分子標的の同定，司会。

さんさ臨床研究推進セミナー，盛岡市，2010/8/4.

* 若林 剛：エビデンスに基づいた脾臓十二指腸切除術，座長。

岩手外科 DIC セミナー，盛岡市，2010/8/20.

* 若林 剛：感染症性 DIC の病態と治療戦略，座長。

第 17 回外科フォーラム，東京，2010/8/21.

1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除の up-to-date, 招待講演。

第 2 回単孔式内視鏡手術研究会，東京，2010/8/28.

1. 水野 大，小林 めぐみ，中嶋 潤，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，佐々木 章，若林 剛：小児胃食道疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術，一般口演。

2. 佐々木 章，中嶋 潤，大淵 徹，馬場 誠朗，梅邑 晃，新田 浩幸，大塚 幸喜，水野 大，島袋 誠守，若林 剛：単孔式腹腔鏡下手術の適応と手技の工夫，特別企画。

第 37 回東北大腸癌研究会, 山形, 2010/9/3.

1. 板橋 哲也, 大塚 幸喜, 箱崎 将規, 木村 聡元, 藤澤 健太郎, 秋山 有史, 片桐 弘勝, 西成 悠, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における人工肛門作成造設術の年次推移, ミニパネルディスカッション.

第 36 回東北小児外科研究会, 山形, 2010/9/10.

1. 水野 大, 小林 めぐみ, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における食道閉鎖症の検討, 一般口演.

第 4 回岩手外科教育セミナー, 盛岡市, 2010/9/3.

- * 若林 剛: 胆道・膵臓悪性腫瘍の切除ラインとリンパ節郭清について, 座長.

第 14 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/9/7.

- * 西塚 哲: S-1 (TS-1) の開発経緯とさらなる改善を目指して, 司会.

第 160 回東北外科集談会/第 78 回日本小児外科学会東北地方会, 山形, 2010/9/11.

1. 秋山 聖華, 小林 めぐみ, 水野 大, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 木村 祐輔, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 超低出生体重児の肥厚性幽門狭窄症の一例, 一般口演

タケダオンコロジ－セミナー in 岩手, 盛岡市, 2010/9/11.

1. 新田 浩幸: 大腸がん治療における分子標的薬について, パネルディスカッション.
 2. 板橋 哲也: 大腸がん治療における分子標的薬について, パネルディスカッション.
- * 若林 剛: 大腸癌化学療法の前線 2010 UP DATE, 座長.

第 3 回いわて外科侵襲フォーラム, 盛岡市, 2010/9/17.

1. 藤井 仁志: 高齢者手術におけるリスク判定に関する検討, 一般口演.
2. 小鹿 雅博: 敗血症における血糖管理, 特別報告.

第 1 回消化器癌外科・病理研究会, 盛岡市, 2010/9/18.

- * 若林 剛: 新胃癌規約第 14 版の改訂のポイントー臨床の立場から, 座長.

蔵刀会クリニカルカンファレンス, 盛岡市, 2010/9/24.

- * 若林 剛: 自治医科大学における小児生体肝移植, 座長.

KAMPO SURGERY CONFERENCE in 東北, 盛岡市, 2010/9/25.

- * 若林 剛: 臨床医が試してみたいとなる漢方薬, 座長.

第 5 回北東北 LAC 情報交換会, 盛岡市, 2010/9/25.

1. 大塚 幸喜: 基調講演.
 2. 板橋 哲也: 基調講演.
- * 大塚 幸喜: 基調講演, 座長.
 - * 若林 剛: 特別講演, 座長.

第 6 回いわて肝移植適応研究会, 盛岡市, 2010/10/1.

- * 若林 剛: 小児肝移植のトピックス, 座長.
- * 木村 祐輔: 消化器外科学ーこれまでとこれからー, 座長.

第 45 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2010/10/9.

1. 有末 篤弘, 下島 直樹, 富田 紘史, 高里 文香, 山本 裕輝, 森 昌玄, 瀧元 康史, 星野 健, 森川 康英: 十二指腸閉鎖症術後に十二指腸拡張を伴った 1 例, 一般口演.

第 15 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/11/2.

- * 西塚 哲: 癌幹細胞制御分子研究の新展開, 司会.

手術手技セミナー, 盛岡市, 2010/11/4.

- * 若林 剛: 肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の手技と治療成績, 座長.

第 4 回肝移植フォーラム, 盛岡, 2010/11/5.

1. 高原 武志: 肝移植におけるグラセプターの使用経験, 一般口演.
- * 若林 剛: 肝移植における医療連携, 座長.

第 23 回東北膵・胆道癌研究会, 仙台市, 2010/11/6.

1. 板橋 英教, 高原 武志, 新田 浩幸, 眞壁 健二, 武田 大樹, 石橋 正久, 片桐 弘勝, 藤田 倫寛, 長谷川 康, 伊藤 直子, 高橋 正浩, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 当院における乳頭癌の治療成績, 一般口演.

乳腺外科と病理診断の問題を考える会, 盛岡市, 2010/11/12.

1. 柏葉 匡寛: 症例提示, 乳腺外科と病理診断の問題を考える会, 一般口演.
- * 若林 剛: なぜ乳腺外科医が研究する必要があるのか?, 座長.

第 8 回南部外科研究会, 北上市, 2010/11/13.

* 中嶋 潤: シンポジウム～SSI～, 座長.

第 14 回いわての肝胆膵フォーラム, 盛岡市, 2010/11/13.

* 高原 武志, 村上 晶彦: 症例検討, 司会.

* 若林 剛 (Ⅲ): 講演, 座長.

第 2 回能代山本健康セミナー, 秋田, 2010/11/14.

* 若林 剛: がんを遠ざける生活習慣, 座長.

秋田県北医学会, 秋田, 2010/11/14.

1. 木村 聡元, 遠藤 史隆, 石田 馨, 阿部 薫: 閉鎖孔ヘルニアの 2 例, 一般口演.

第 40 回胃外科・術後障害研究会, 東京, 2010/11/19.

1. 肥田 圭介, 藤原 久貴, 中嶋 潤, 高橋 正統, 千葉 丈広, 西成 悠, 馬場 誠明, 佐々木 章, 若林 剛: 当科における腹腔鏡補助下幽門保存胃切除術 (LAPPG) の手技と機能評価, パネルディスカッション.

いわて緩和ケアフォーラム, 盛岡市, 2010/11/19.

* 池田 健一郎: トラマドール塩酸塩が、がん疼痛治療に果たす役割ー特徴、位置付け、実践的使用法についてー, 座長.

第 4 回肝臓内視鏡外科研究会, 横浜, 2010/11/20.

1. 伊藤 直子, 新田 浩幸, 高橋 正浩, 高原 武志, 板橋 英教, 長谷川 康, 藤田 倫寛, 星川 浩一, 佐々木 章, 水野 大, 若林 剛: 非常にまれな門脈分岐形態を示した腹腔鏡補助下肝右葉切除術の一例, 一般口演.

先を予測した手技の習得, 横浜市, 2010/11/22.

* 若林 剛: 安全な腹腔鏡下手術を行うための私の工夫, 司会.

第 6 回肝移植周術期フォーラム, 盛岡市, 2010/11/24.

* 若林 剛: 肝移植医療の推進に向けて, 座長.

第 3 回東北ヘルニア研究会, 盛岡市, 2010/11/27.

1. 中嶋 潤, 佐々木 章, 水野 大, 岩谷 岳, 川村 英伸, 小林 めぐみ, 富澤 勇貴, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 肥田 圭介, 若林 剛: 教室の成人鼠径ヘルニアに対する術式選択, 一般口演.

2. 小林 めぐみ, 水野 大, 中嶋 潤, 西塚 哲, 木村 祐輔, 新田 浩幸, 大塚 幸喜, 柏葉 匡寛, 肥田 圭介, 佐々木 章, 若林 剛: 単孔式 LPEC 法による腹腔鏡下小児鼠径ヘルニア手術, 一般口演.

第 5 回肝移植症例検討会, 盛岡市, 2010/11/30.

1. 高原 武志: Splenorenal shunt の処理～脾摘の可否～, 一般口演.

* 若林 剛: 本学における生体肝移植の経験, 座長.

第 2 回岩手外科緩和医療検討会, 盛岡市, 2010/12/3.

* 若林 剛: 肺癌 長期生存を目指した治療戦略, 座長.

第 126 回日本小児科学会岩手地方会, 盛岡市, 2010/12/11.

1. 小林 めぐみ, 水野 大, 若林 剛: 小児鼠径ヘルニア根治術の最近の動向, 一般口演.

がんを知る月間 2010 市民公開シンポジウム, 盛岡市, 2010/7/24

* 若林 剛: シンポジスト (コーディネーター).

* 柏葉 匡寛: シンポジスト.

第 7 回岩手 DIC 研究会, 盛岡市, 2010/7/30

* 若林 剛: 血液凝固線溶機構と DIC の病態, 座長.

北東北外科肝臓分子標的治療 Forum, 盛岡市, 2010/7/31

* 若林 剛: 肝細胞癌の化学療法: ソラフェニブのエビデンスと今後の展望, 座長.

第 15 回岩手消化器治療内視鏡研究会, 盛岡市, 2010/10/15

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 若林 剛: 当教室における SM 大腸癌に対する手術成績, シンポジウム.

第 5 回岩手骨盤外科研究会, 盛岡市, 2010/10/22

1. 大塚 幸喜, 板橋 哲也, 箱崎 将規, 加藤 久仁之, 木村 聡元, 菅井 有, 若林 剛: 直腸癌に対する肛門温存を目的とした術前化学放射線療法の経験, 一般口演.

第 1 回岩手甲状腺眼症研究会, 盛岡市, 2010/10/23

* 富澤 勇貴: 一般演題, 座長.

第 10 回岩手甲状腺研究会, 盛岡市, 2010

1. 石田 馨, 富澤 勇貴, 小笠原 聡, 佐々木 章, 中嶋 潤, 大淵 徹, 梅邑 晃, 馬場 誠朗, 若林 剛: 急性炎症を伴い診断困難であった甲状腺乳頭癌の 1 例, 一般講演.

第 2 回 Acute Care Surgery 研究会, 横浜市, 2010/11/20

- * 若林 剛: Acute Care Surgery, 座長.

4. 講演会

第 2 回肝臓内視鏡外科研究会「ハンズオンセミナー」, 福島, 2010/2/6~2/7.

1. 新田 浩幸: 講師, 招待講演.

第 9 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡市, 2010/5/14.

1. 小笠原 聡: 基調講演『留学のススメ』, 基調講演.

Interactive Gastrointestinal Seminar - 0528, 東京, 2010/10/5/28.

1. 肥田 圭介, 若林 剛: 高度進行・再発胃癌に対する TXT/S-1 併用療法の経験, 講演.

第 4 回岩手直腸がんフォーラム, 盛岡市, 2010/6/4.

1. 大塚 幸喜: 『腹腔鏡下大腸癌手術の教育』, 特別講演.

第 56 回国際外科学会日本部会, 2010/6/12

1. 若林 剛: 特別講演.

第 3 回肝臓内視鏡外科研究会「ハンズオンセミナー」, 福島, 2010/6/26.

1. 若林 剛: 講師, 招待講演.

奄美市民公開講座〜もっと癌を知ろう〜, 2010/7/3.

1. 若林 剛: 講師, 招待講演.

第 14 回よこはま外科癌フォーラム, 横浜市, 2010/8/28.

1. 若林 剛: 教室における肝癌治療から, 招待講演.

第 15 回消化器癌フォーラム, 大阪市, 2010/10/2.

1. 若林 剛: 転移性肝癌に対する積極的肝切除と腹腔鏡下肝切除の方向性, 招待講演.

第 4 回肝臓内視鏡外科研究会「ハンズオンセミナー」, 福島, 2010/10/30.

1. 若林 剛: コースディレクター, 招待講演.
2. 新田 浩幸: 講師, 講演.

第 12 回日本消化器外科学会 市民公開講座, 山口, 2010/11/6.

1. 若林 剛: 肝臓がんの外科治療, 招待講演.

いわて緩和ケアフォーラム, 盛岡市, 2010/11/19.

1. 木村 祐輔: 岩手医科大学附属病院における緩和ケアチームの取り組み, 講演.

第 6 回術後癒着防止研究会, 京都, 2010/2/12.

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除の現状と将来展望, 特別講演.

第 7 回最新外科手術手技 Meet The Expert, 松山, 2010/2/20.

1. 若林 剛: 腹腔鏡下肝切除術ー第 1 回国際コンセンサス会議に参加してー, 特別講演.

第 64 回手術手技研究会, 大阪, 2010/5/22.

1. 佐々木 章, 新田 浩幸, 高原 武志, 藤田 倫寛, 大淵 徹, 大塚 幸喜, 若林 剛: 腹腔鏡 (補助) 下肝切除術のコツと注意点, 招待講演.

第 11 回福岡内視鏡外科研究会, 福岡市, 2010/6/3.

1. 佐々木 章: 単孔式腹腔鏡下手術: 適応拡大と手技のコツ, 招待講演.

第 3 回肝臓内視鏡外科研究会「ハンズオンセミナー」, 福島, 2010/6/26.

1. 佐々木 章: 講師, 招待講演.
2. 新田 浩幸: 講師, 招待講演.

岩手経済同友会, 盛岡市, 2010/8/10.

1. 若林 剛: がん医療の進歩, 招待講演.

第 6 回能代市山本郡消化器病研究会－医学講演会－，能代市，2010/9/3.

1. 佐々木 章：単孔式腹腔鏡下手術の導入と適応拡大の工夫，招待講演．

第 4 回内視鏡肥満外科治療研究会，横浜，2010/10/17.

1. 佐々木 章，中嶋 潤，大淵 徹，梅邑 晃，馬場 誠朗，西塚 哲，木村 祐輔，新田 浩幸，大塚 幸喜，柏葉 匡寛，肥田 圭介，水野 大，若林 剛：腹腔鏡下スリーブ状胃切除術導入時のチーム医療と医療費の問題，講演．

第 3 回札幌鏡視下カンファレンス，札幌市，2010/6/11.

1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除は普及するか？，特別講演．

奈良外科フォーラム，奈良，2010/9/10.

1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除，特別講演．

第 19 回日本大腸肛門病学会教育セミナー 外科Ⅱ a，横浜，2010/5/16.

1. 大塚 幸喜，若林 剛：大腸癌の腹腔鏡手術 位置づけと手技の実際 進行結腸癌に対する安全な腹腔鏡下手術手技，教育講演．

第 12 回学会 Winter Seminar 2010 in KIRORO, キロロ，2010/3/20～3/21.

1. 大塚 幸喜：「EnSeal」は手術を変えるか - 大腸疾患 -, ランチョンセミナー．
2. 大塚 幸喜：腹腔鏡下低位前方切除のピットフォール回避法，講演．
3. 若林 剛：「エキスパートに学ぶ肝切除鏡視下手術の真実」，招待講演．

第 12 回慶應内視鏡外科ワークショップ，須賀川，2010/6/6.

1. 大塚 幸喜：大腸癌に対する腹腔鏡手術のコツとピットフォール - S 状結腸癌を中心に -, 特別講演．

第 16 回ビデオクリニックさつま鏡塾，鹿児島，2010/10/2.

1. 大塚 幸喜：内視鏡外科手術の基礎 - 腹腔鏡下 S 状結腸切除の手技を中心に -, 特別講演．

熊本栄養・代謝フォーラム，熊本市，2010/12/10.

1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除 -2010 年を振り返る -, 特別講演．

第 4 回近畿内視鏡下大腸手術研究会，大阪，2010/1/30.

1. 大塚 幸喜，板橋 哲也，若林 剛：Single site laparoscopy ～ Incisionless laparoscopy for colorectal disease, 講演．

能代・山本がんセミナー，能代市，2010/11/5.

1. 大塚 幸喜，板橋 哲也，箱崎 将規，若林 剛：大腸がんに対する外科治療の進化 - 根治性、機能性、侵襲性を重視した腹腔鏡下手術の現状 -, 特別講演．

上海 SS Seminar, 上海，2010/4/23.

1. 大塚 幸喜，板橋 哲也，箱崎 将規，木村 聡元，佐々木 章，若林 剛：腹腔鏡下直腸切除の郭清・再建のポイント - ACE・EnSeal を用いた剥離・郭清のテクニック -, 講演．

第 1 回 Shake Hands Seminar in 南東北，郡山，2010/11/19.

1. 大塚 幸喜，板橋 哲也，箱崎 将規，木村 聡元，佐々木 章，若林 剛：腹腔鏡下大腸切除術とチーム医療について - 腹腔鏡手術を好きになってもらうためには！ -, 講演．

編集後記

若林教授の巻頭言にありますように、3月11日14時46分に発生した東日本大震災を我々外科学講座の教室員は目の当たりにいたしました。特に、三陸沿岸は言葉で言い表せないほどの甚大な被害を受け、たくさんの命を失い、未だたくさんのご不明の方がおられる状態です。

そのような状況下で、今回本誌を発行することに関してしばらく戸惑いはありましたが、若林教授を始め我々教室員の総意で発行を決断いたしました。

発行を予定しておりました6月の同門会総会に間に合わせることができず、お忙しい中早急に原稿をいただいた先生方に対し心からお詫び申し上げます。

また、原稿を募っていた最中での震災だったこともあり、本誌が震災前の内容となっておりますこと、また恒例となっております「関連病院だより」に関しても震災前にお寄せいただいた原稿のみを掲載させていただきましたことをどうかご理解ください。

最後に、ご執筆いただきました関連病院の先生方、編集に協力していただいた教室員、教室秘書さん、毎年写真撮影や画像を提供してくださっている画像情報センターの大村直樹さん、そして本誌制作を担当してくださっているヤマダプランニングの八重畑さんに深謝を申し上げるとともに、巖刀会の先生方の益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成23年6月

大塚 幸喜



表紙説明

撮影：2011.4.4

津波に耐えた「希望の一本松」／海岸沿いに約7万本の松が並んでいた名勝、岩手県陸前高田市の高田松原。その中にいま、津波に耐えた1本の松だけがまっすぐ立っている。まさに復興のシンボルであり、地元では不屈の精神を感じ「希望の一本松」と呼んでいる。

巖刀会（がんとうかい：岩手山別称（巖鷲山）から1字とり、岩手の外科医の象徴の意）